

平成 26 年度
名古屋市立大学院薬研究科
自己点検・評価報告書

2014

目次

- 1 平成 26 年度博士（薬学）学位取得者
- 2 平成 26 年度博士薬学修士学位取得者
- 3 平成 26 年度薬学部でなされた講演会、研究会、シンポジウム
- 4 研究業績目録（2014 年 1 月から 2014 年 12 月）
- 5 科学研究費等補助金
- 6 その他の研究補助金
- 7 学外との共同研究等
- 8 新聞報道等
- 9 進路および就職状況
- 10 薬学部在籍者名簿

1. 平成26年度博士（薬学）学位取得者

学位（博士）授与報告書						名古屋市立大学大学院						
報告 番号	博士の学位を授与された者			博士課程の修了等の状況		授与 年月日	主査	副査 (指導教 員)	副査	副査	副査	
	博士の専 攻分野の 名称	(ふりがな) 氏名	性 別	大学院名	研究科 (専攻)名							主論文名
甲第 304 号	博士 (薬学)	きとう ひろあき 鬼頭 宏彰	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	脳血管内皮細胞におけるイオンチャネルを 介した細胞増殖及び細胞死機構の解明	H 26.4.12	桑	今泉	林	田中	—
甲第 306 号	博士 (薬学)	ちょう はくよう 趙 伯陽	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	茄蒨の細胞致死活性成分に関する研究	H 27.3.25	中川	牧野	樋口	山村	—
甲第 307 号	博士 (薬科学)	はなたに ただあき 花谷 忠昭	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	医療情報データベースを活用した医薬品の 安全性評価のための有用な薬剤疫学的手 法の確立	H 27.3.25	林	頭金	鈴木	大澤	—
甲第 308 号	博士 (薬学)	はやし たかひろ 林 孝弘	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	翻訳終結因子eRF3を標的とした新規遺伝 子発現制御およびアポトーシス制御	H 27.3.25	林	今川	平嶋	中村	—
甲第 310 号	博士 (薬学)	やまぎし りょうた 山岸 良多	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学 専攻	mRNAポリA鎖長の調節を介した遺伝子発現 制御機構の解析	H 27.3.31	今川	星野	服部	藤原	—

2 平成26年度薬学修士学位取得者

学位番号	分野名	氏名			主査	副査	副査	副査
1982	薬化学	喜多村 佳委	男	生体応用を志向した可視光作動性ニトロベンゼン型一酸化窒素供与剤の開発	中川	樋口	平嶋	—
1983	薬化学	真庭 大介	男	蛍光binding assayを目指したPin1プローブの合成および蛍光特性解析	中川	梅澤	井上	—
1984	精密有機反応学	國枝 一輝	男	インドールアミン 2,3-ジオキシゲナーゼ阻害分子の創製	樋口	中川	池田	—
1985	精密有機反応学	實来 侑平	男	多様なポリアミン類の合成と機能評価	樋口	中川	井上	梅澤
1986	精密有機反応学	本間 紘次郎	男	生理的条件での応用を目指した化学発光分子の開発	樋口	中村精	田中	—
1987	薬品合成化学	高田 峰辰	男	酸化/付加環化連続反応によるハスバナンアルカロイド炭素縮合環部構築法の開発	中村精	池田	梅澤	—
1988	機能分子構造学	長縄 遼太郎	男	環化異性化-クライゼン転位ドミノプロセスの開発	池田	中村精	梅澤	—
1989	生体超分子システム解析学	中野 勝真	男	リポソームを用いたsynaptotagmin II C2ドメインの機能解析	平嶋	尾関	長田	—
1990	生体超分子システム解析学	望月 雄司	男	分泌顆粒に局在するCaチャンネルOrai-2によるマスト細胞の活性化機構	平嶋	林	山村	—
1991	生命分子構造学	鈴木 康介	男	積荷受容体ERGIC-53/MCFD2複合体による血液凝固因子の認識機構	加藤	平嶋	山中	—
1992	分子生物薬学	佐藤 友亮	男	脂肪細胞分化初期過程における fad104 の発現制御	今川	服部	田中	—
1993	分子生物薬学	芝田 裕一	男	ヒストンバリエントH2A.Zの発現とオートファジーの関係	今川	林	中村克	—
1994	分子生物薬学	山口 光	男	タンデムポア型カリウムチャネルKCNK2がインスリンシグナルおよび突起形成に与える影響	今川	星野	山村	—
1995	薬物送達学	竹内 堂朗	男	siRNA搭載金ナノ粒子の物性評価と血管内皮培養細胞の伸展に与える影響	尾関	湯浅	山中	—

1996	生薬学	篠田 祐布香	女	スペインカンゾウからの新規トランスポーターの単離とglycyrrhizic acid輸送活性解析	牧野	湯浅	中村克	—
1997	生薬学	鈴木 俊章	男	Oxaliplatinの末梢神経障害性疼痛に対する人参養栄湯の作用の検討	牧野	大澤	松永	—
1998	生薬学	山田 亜紀	女	イチゴ含有配糖体の生合成に関わる配糖化酵素の探索	牧野	中川	井上	—
1999	細胞分子薬効解析学	栗田 卓	男	軟骨細胞モデルにおけるCl ⁻ チャネルの分子実体の解明と変形関節症との関連	今泉	木村	大澤	—
2000	細胞分子薬効解析学	西村 歌織	女	ラット松果体細胞機能に対するCa ²⁺ 活性化Cl ⁻ チャネルの寄与	今泉	糸	田中	山村
2001	細胞分子薬効解析学	林 恵介	男	改変遺伝子導入培養細胞系を用いたイオンチャネル標的創薬における新規高効率スクリーニング細胞の開発	今泉	中川	瀧井	—
2002	病態生化学	佐藤 嘉高	男	脳形成に必須な分泌タンパク質リーリンのC-t site切断に関する解析	服部	田中	長田	—
2003	薬物動態制御学	石山 高範	男	ラット腎リソソームにおけるmethotrexate及びmethotrexate glutamate4の担体輸送の解析	湯浅	林	大澤	—
2004	薬物動態制御学	田島 健太郎	男	小腸上皮における6-mercaptopurineの輸送:Caco-2細胞及びラット反転腸管での解析	湯浅	松永	山村	—
2005	薬物動態制御学	山城 貴弘	男	PCFTに対するmyricetinの持続性阻害効果の解析	湯浅	牧野	中村克	—
2006	薬物動態制御学	山田 知美	女	HEK293細胞における配糖体トランスポーターの機能特性解析:4-MU配糖体-グルコシダーゼ評価系の活用	湯浅	牧野	井上	—
2007	病態解析学	甲神 知紗登	女	高効率の脂質抽出法の検討	青山	平嶋	佐藤	藤井聡
2008	病態解析学	長谷川 諒	男	NKT細胞を用いたS1P及びGLP-1によるTNF- α 発現量調節機構の解析	青山	林	長田	藤井聡
2009	医薬品代謝解析学	澤中 美希	女	シュードキナーゼTRB1のTGF- β による発現誘導とTGF- β シグナルへの影響に関する研究	林	服部	松永	—

2010	医薬品代謝解析学	野原 匠	男	小胞体ストレス誘導性タンパク質TRB3によるインターロイキン-2の発現制御機構の解析	林	平嶋	長田	—
2011	医薬品代謝解析学	宮田 和弥	男	シトクロムP450 3A4 (CYP3A4) 発現制御に関する研究	林	頭金	山村	—
2012	神経薬理学	村上 友康	男	がん悪液質モデルマウスにおける脂肪毒性に注目した治療薬の探索と視床下部インスリンシグナルの変化	糸	服部	井上	—
2013	レギュラトリーサイエンス	中野 駿	男	レセプト情報を用いた安全対策措置の効果の検証	頭金	鈴木	糸	—
2014	レギュラトリーサイエンス	山田 健人	男		頭金	牧野	中村克	—

3 平成26年度薬学部でなされた講演会、
研究会、シンポジウム

「薬学研究科でなされた講演会」

平成26年度 年報

1. 講演会、研究会、シンポジウム

開催日：平成26年1月23日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：Professor Ngo. Le Van

所属：Research Center for Bioactive Natural Products, University of Science, Vietnam National University, Vietnam

演題：Research Activities at RCBNP - University of Science - VNU - HCM City: Searching for bioactive natural products from vietnamese medicinal plants

世話人：水上 元

開催日：平成26年1月24日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：鈴木 亮

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題：高親和性 IgE 受容体によるマスト細胞とアレルギー反応の制御機構

世話人：平嶋尚英

開催日：平成26年1月24日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：平林義雄 先生

所属：理化学研究所脳科学総合研究センター

演題：糖脂質が作る生体膜構造とエネルギー代謝制御

世話分野：病態解析学分野

開催日：平成26年1月25日

場所：ウエスティンナゴヤキャッスル

講演会名：名市大泌尿器科同門会 臨床勉強会

講師名：木村 和哲 教授

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学

演題：薬の四方山話

世話人：名古屋市立大学泌尿器科

開催日：平成26年2月4日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：川原 信夫 先生

所属：医薬品基盤研究所薬用植物資源研究センター

演 題：わが国における生薬生産の課題と展望
世 話 人：牧野利明

開 催 日：平成 26 年 2 月 19 日
場 所：名古屋市立大学病院 4 階第一会議室
講演会名：第 2 回アドヒアランスセミナー
講 師 名：竹村 昌也 講師
所 属：名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学
演 題：地域で取り組む喘息・COPD 患者への吸入指導
世 話 人：名古屋市立大学病院薬剤部

開 催 日：平成 26 年 2 月 24 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：合田 幸広 先生
所 属：国立医薬品食品衛生研究所
演 題：医薬品としての生薬・漢方薬研究
世 話 人：牧野利明

開催日：平成 26 年 3 月 4 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：Professor Gordon L. Amidon
所属：The University of Michigan
演題：BCS (biopharmaceutics classification system) and relevant subjects
世話分野：薬物動態制御学分野

開催日：平成 26 年 3 月 5 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：Professor Gordon L. Amidon
所属：The University of Michigan
演題：Intestinal drug absorption and delivery
世話分野：薬物動態制御学分野

開 催 日：平成 26 年 4 月 1 日
場 所：名古屋市立大学桜山キャンパス
講演会名：平成 26 年度 新規採用者研修会
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：医薬品の安全管理について
世 話 人：名古屋市立大学病院

開 催 日：平成 26 年 4 月 16 日

場 所：名古屋市立大学桜山キャンパス
講演会名：名市大 医療・保健 学び直し講座
14-2 知っておきたい、薬を安全に、効果的に使うための知識
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：お薬の飲み合わせの知識
世 話 人：名古屋市立大学

開 催 日：平成 26 年 4 月 25 日
場 所：名古屋市立大学薬学部
講演会名：可児高校 模擬授業
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：今医療現場で何が起きているか
世 話 人：名古屋市立大学

開 催 日：平成 26 年 4 月 30 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会（兼 大学院創薬生命科学特別講義 I）
講 師 名：橋本 祐一 教授
所 属：東京大学 分子細胞生物学研究所
演 題：蛋白質の局在や寿命に作用する生理活性物質の創製
～マルチテンプレート手法の応用と、フォールディング異常症への取り組み～
世話分野：精密有機反応学分野

開 催 日：平成 26 年 5 月 7 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：濱田 康正 教授
所 属：千葉大学大学院薬学研究院
演 題：有機合成における新規方法の開発と応用
世話分野：薬品合成化学分野

開 催 日：平成 26 年 5 月 8 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：大和 隆志 イノベーション担当執行役
所 属：エーザイ株式会社
演 題：Human Biology と Modern Chemistry に基づく創薬イノベーション
世話分野：薬品合成化学分野

開 催 日：平成 26 年 5 月 23 日
場 所：ポートメッセなごや
講演会名：第 17 回国際福祉健康産業展 ウェルフェア 2014 ウェルフェア健康大学
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：あなたは他人まかせでお薬を飲んでいませんか？

～患者に必要なお薬の基礎知識 5 か条～

世話人：名古屋国際見本市委員会

開催日：平成 26 年 5 月 23 日

場所：名古屋市立大学大学院薬学研究科宮田ホール

会議名：第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

講師名：辻田麻紀 講師

所属：名古屋市立大学大学院医学研究科

演題：高脂血症治療剤 Probucol の HDL 新生反応阻害と低 HDL 血症モデル動物
繁殖への有効性

世話人：岩城壮一郎

開催日：平成 26 年 5 月 23 日

場所：名古屋市立大学大学院薬学研究科宮田ホール

会議名：第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

講師名：塚原 完 助教

所属：金沢医科大学医学部

演題：環状ホスファチジン酸による核内受容体 PPAR γ アンタゴニスト活性を介し
た頸動脈内膜肥厚形成の抑制効果について

世話人：岩城壮一郎

開催日：平成 26 年 5 月 23 日

場所：名古屋市立大学大学院薬学研究科宮田ホール

会議名：第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

講師名：岩城壮一郎

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題：スフィンゴ脂質が線溶系に与える影響の分子機構

開催日：平成 26 年 5 月 23 日

場所：名古屋市立大学大学院薬学研究科宮田ホール

会議名：第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

講師名：鈴木 元 講師

所属：名古屋大学大学院医学研究科

演題：悪性腫瘍におけるスフィンゴ脂質代謝の果たす役割

世話人：岩城壮一郎

開催日：平成 26 年 5 月 25-27 日

場所：中国

講演会名：3rd Asian Symposium on Pharmaceutical Science and Technology

(ASPST 2014)

講師名：尾関 哲也

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題：A novel artificial HDL nanoparticles formulation with gold-nanocores and its anti-inflammatory effect

開催日：平成 27 年 5 月 27 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：駒田雅之 教授

所属：東京工業大学大学院 生命理工学研究科

演題：脱ユビキチン化酵素 USP8 による細胞増殖の制御とその遺伝子変異がひき起こす腫瘍性疾患

世話分野：細胞情報学分野

開催日：平成 26 年 5 月 28 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：平山 祐 博士

所属：岐阜薬科大学薬学部

演題：蛍光プローブによる生体内鉄(II)イオンのイメージング

世話分野：薬化学分野

開催日：平成 26 年 5 月 29 日

講演会名：第 5 回糖尿病イブニングセミナー

講師名：近森清美

所属：名古屋第一赤十字病院

演題：当院におけるフットケア外来について

講師名：黒田暁生

所属：徳島大学 糖尿病臨床・研究開発センター

演題：黒田流インスリン療法

世話人：菊池千草、他 11 名

開催日：平成 26 年 6 月 5 日

場所：愛知県東庁舎

講演会名：愛知県腎臓財団報告会

講師名：本成 真理奈

所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学

演題：シスプラチン投与による腎障害の早期診断における ADMA 測定の有用性の検討

世話人：愛知県腎臓病財団

開催日：平成 26 年 6 月 14-15 日

講演会名：第 9 回トランスポーター研究会

大会長：井上勝央
事務局長：牧野利明

開催日：平成26年6月27日
場所：名古屋市高齢者就業支援センター
講演会名：平成26年度講演会
講師名：木村 和哲 教授
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演題：上手な薬とのつきあい方
～日常治療薬の正しい知識と使い方～
世話人：名古屋市高齢者就業支援センター

開催日：平成26年7月4日
場所：京都
講演会名：平成26年度第1回メディショナルナノテク研究会
講師名：田上 辰秋
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演題：金ナノコアを用いた新規HDL様粒子による血管に対する抗炎症効果

開催日：平成26年7月11日
場所：名古屋市立大学医学部研究棟11階 講義室A
講演会名：最新医学講座 オープンカレッジ 2014年第1期
No.1「認知症のすべて－臨床症状、神経病理、予防・治療薬開発の最前線
精神症状から介護まで」
講師名：木村 和哲 教授
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演題：認知症に対する薬物治療
世話人：名古屋市立大学

開催日：平成26年7月23日・25日
場所：ウインクあいち
講演会名：日本RNA学会年会
世話人：星野真一

開催日：平成26年7月25日
講演会名：山手イブニングセミナー
講師名：秋山修志
所属：分子科学研究所 協奏分子システム研究センター
演題：「どうしてそんなに遅いのか」
場所：分子科学研究所 山手3号館2階西 大会議室
世話人：加藤晃一

開催日：平成26年7月30-31日
場所：慶應義塾大学薬学部
講演会名：第30回日本DDS学会学術集会 ワークショップ
講師名：尾関 哲也

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演 題：機能性ナノ粒子の製剤設計

開 催 日：平成 26 年 8 月 27 日
場 所：名古屋工業大学
講演会名：名古屋工業大学大型基盤センター公開講座
講 師 名：田上 辰秋
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演 題：DDS 製剤の実用化に向けた機能性ナノ・マイクロ粒子の開発～他分野との融合が生み出す新技術～

開 催 日：平成 26 年 9 月 7 日
講演会名：第 30 回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 9 月期
講 師 名：松川則之
所 属：名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
演 題：HCNP およびその前駆体タンパクから見たアルツハイマー病態
-創薬基盤研究に向けて-
講 師 名：藤 秀人
所 属：富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）
演 題：クスリのポテンシャルを引き出すための投与方法を薬剤師から提案する
～時間薬物療法のスズメ～
世話人：鈴木 匡、中村克徳、菊池千草、岩尾岳洋、榊原明美、他 14 名

開 催 日：平成 26 年 9 月 12 日
場 所：名古屋市立大学病院
講演会名：薬剤部研修会
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：薬物相互作用 と PK/PD
世 話 人：名古屋市立大学病院薬剤部

開 催 日：平成 26 年 9 月 19 日
場 所：東京駅貸し会議室フクラシア東京
講演会名：第 6 回シトルリン研究懇談会
講 師 名：木村 和哲 教授
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科病院薬剤学
演 題：シトルリンによる性機能改善作用の最新知見
世 話 人：協和発酵バイオ

開 催 日：平成 26 年 10 月 2 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：樋口 ゆり子 博士
所 属：京都大学大学院薬学研究科

演 題：光を利用した生体内における細胞挙動の解析
世話分野：薬化学分野

開 催 日：平成 26 年 10 月 5-8 日

場 所：兵庫県

講演会名：The 11th France-Japan DDS symposium

講 師 名：尾関 哲也

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科

演 題：A Novel HDL-like Nanoparticles Formulation Using Gold-nanocores with
Anti-inflammatory Effect on Vascular Endothelial Cells

開 催 日：平成 26 年 10 月 9 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講 師 名：永澤 秀子 博士

所 属：岐阜薬科大学薬学部

演 題：創薬を指向したケミカルバイオロジー研究
— 蛍光バイオイメージング技術の活用 —

世話分野：薬化学分野

開 催 日：平成 26 年 10 月 14 日

場 所：静岡県立大学

講演会名：静岡県立大学薬学研究科月例「薬学セミナー」

講 師 名：尾関 哲也

所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科

演 題：機能性ナノ粒子の製剤設計

開 催 日：平成 26 年 10 月 16 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講 師 名：浜地 格 博士

所 属：京都大学大学院工学研究科

演 題：バイオセンサー構築を目指した合成・超分子化学

世話分野：薬化学分野

開 催 日：2014 年 10 月 22 日

場 所：名古屋市立大学大学院薬学研究科

講演会名：第 148 回薬学談話会

講 師 名：水野智博 先生

所 属：名城大学薬学部 薬効解析学教室

演 題：クリニカルクエスチョンから始まる臨床研究
- がん患者における薬物療法の適正化に向けて -

世 話 人：堀田祐志

開 催 日：平成 26 年 10 月 23 日

講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講 師 名：長崎 幸夫 博士

所 属：筑波大学大学院数理物質科学研究所・医科学研究科
演 題：バイオインターフェースの構築と評価
世話分野：薬化学分野

開 催 日：平成 26 年 9 月 27 日
場 所：東京薬科大学
講演会名：第 31 回製剤設計研究会
講 師 名：田上 辰秋
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演 題：名古屋市立大学大学院薬学研究科薬物送達学分野における研究活動について

開 催 日：平成 26 年 10 月 5 日
講演会名：第 30 回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 10 月期
講 師 名：田中靖人
所 属：名古屋市立大学大学院医学研究科 病態医科学（ウイルス学）分野
演 題：C 型肝炎は今～飲み薬で治る時代へ！
講 師 名：野原幹司
所 属：大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部
演 題：『食』を支える在宅医療連携～薬剤師だからできること
世話人：鈴木 匡、中村克徳、菊池千草、岩尾岳洋、榊原明美、他 14 名

開 催 日：平成 26 年 10 月 31 日
場 所：名古屋工業大学
講演会名：名工大テクノフェア
講 師 名：田上 辰秋
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演 題：ナノ医薬品開発に向けたワンステップナノコンポジット粒子合成技術

開 催 日：平成 26 年 11 月 1 日
場 所：名古屋市立大学
講演会名：平成 26 年度市民公開講座
講 師 名：鈴木 匡
所 属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演 題：薬を自分で選ぶ時代：薬を安全に効果的に利用しよう

開 催 日：平成 26 年 11 月 6 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講 師 名：Vasudevan P Biju 博士
所 属：産業技術総合研究所 健康工学研究部門
演 題：Delivering Bioconjugated nanomaterials for bioimaging
世話分野：薬化学分野

開 催 日：平成 26 年 11 月 13 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会

講師名：古田 寿昭 博士
所属：東邦大学理学部
演題：細胞の生理機能を操作する光機能性分子の化学
世話分野：薬化学分野

開催日：平成 26 年 11 月 13 日
講演会名：第 6 回糖尿病イブニングセミナー
講師名：関根智子
所属：四日市糖尿病クリニック
演題：クリニックだからできる血糖パターンマネジメント
講師名：浦上達彦
所属：日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野
演題：小児糖尿病の治療 Update
世話人：菊池千草、他 11 名

開催日：平成 26 年 11 月 14 日
講演会名：日本薬学会東海支部特別講演会
講師名：永井 健治 博士
所属：大阪大学 産業化学研究所
演題：生物発光が救う未来の地球
世話分野：薬化学分野

開催日：平成 26 年 11 月 14 日
場所：東京大学大学院工学系研究科レジリエンス工学研究センター
講演会名：第 2 回 混相流に関する最先端科学技術シンポジウム
講師名：尾関 哲也
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科
演題：特殊なノズルを装着したスプレードライヤーによる機能性ナノ粒子の設計と製剤への応用

開催日：平成 26 年 11 月 16 日
講演会名：第 30 回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座 11 月期
講師名：藤原俊伸
所属：名古屋市立大学大学院薬学研究科 衛生化学分野
演題：翻訳制御機構に隠された生命の神秘
講師名：内川 治
所属：武田薬品工業株式会社 医薬研究本部 化学研究所
演題：自然な眠りを誘う世界初の睡眠薬ロゼレムはどうやって生まれたか？
～舞台裏で繰り広げられた創薬のドラマ～
世話人：鈴木 匡、中村克徳、菊池千草、岩尾岳洋、榊原明美、他 14 名

開催日：平成26年11月19日
講演会名：第149回薬学談話会
講師名：中島健一先生
所属：愛知学院大学薬学部
演題：有用天然資源の発掘を目指して
世話人：牧野利明、井上靖道、岩尾岳洋、西塚誠、細田直、矢木宏和、家田直弥、
川口充康、鈴木良明、堀田祐志、山越博幸、寺坂和祥

開催日：平成26年12月19日
講演会名：第150回薬学談話会
講師名：澁谷正俊 講師
所属：名古屋大学大学院創薬科学研究科
演題：理想的なアルコール酸化反応の開発を目指して
世話人：家田直弥、井上靖道、岩尾岳洋、川口充康、鈴木良明、寺坂和祥、
西塚誠、細田直、堀田祐志、牧野利明、矢木宏和、山越博幸

4 研究業績目録

(2014年1月から2014年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Kai Kitamura, Naoya Ieda, Kazuhiro Hishikawa, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Kiyoshi Fukuhara, and Hidehiko Nakagawa.

Visible light-induced nitric oxide release from a novel nitrobenzene derivative cross-conjugated with a coumarin fluorophore

Bioorg. Med. Chem. Lett., 24, 5660-5662, (2014)

Naoya Ieda, Yuji Hotta, Naoki Miyata, Kazunori Kimura, and Hidehiko Nakagawa.
Photomanipulation of Vasodilation with a Blue-Light-Controllable Nitric Oxide Releaser

J. Am. Chem. Soc., 136, 7085-7091, (2014)

Prima R. Tatum, Hideyuki Sawada, Yosuke Ota, Yukihiro Itoh, Peng Zhan, Naoya Ieda, Hidehiko Nakagawa, Naoki Miyata, Takayoshi Suzuki.

Identification of Novel SIRT2-Selective Inhibitors Using a Click Chemistry Approach

Bioorg. Med. Chem. Lett., 24, 1871-1874, (2014)

Takayoshi Suzuki, Nobusuke Muto, Masashige Bando, Yukihiro Itoh, Ayako Masaki, Masaki Ri, Yosuke Ota, Hidehiko Nakagawa, Shinsuke Iida, Katsuhiko Shirahige, Naoki Miyata.

Design, Synthesis, and Biological Activity of NCC149 Derivatives as Histone Deacetylase 8-Selective Inhibitors

ChemMedChem, 9, 657-664, (2014)

Naoki Fukushima, Naoya Ieda, Kiyoshi Sasakura, Tetsuo Nagano, Kenjiro Hanaoka, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, and Hidehiko Nakagawa.

Synthesis of a photocontrollable hydrogen sulfide donor using ketoprofenate photocages

Chem. Commun., 50, 587-589, (2014)

(総説・著書・総合論文など)

中川秀彦

フリーラジカルの測定法

酸化ストレスの医学 (改訂第2版) (吉川敏一監修, 内藤裕二, 豊国伸哉編, 診断と治療社, 2014, 東京) pp99-107.

(特許申請)

なし

(学会発表)

小島理奈、池田麻美子、家田直弥、中川秀彦

ビスベンズイミダゾール蛍光分子のニトロキシド置換位置による蛍光特性の比較

日本酸化ストレス学会東海支部 第2回学術集会

2014年2月8日, 岐阜, 一般講演 O3

薄井佑奈、家田直弥、河合翔太、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦

光作動性クマリン型 NO ドナーMNC1 とその硫黄類縁体の光応答性に関する比較

日本酸化ストレス学会東海支部 第2回学術集会

2014年2月8日, 岐阜, ポスター発表 P3

Naoya Ieda, Naoki Miyata, Hidehiko Nakagawa

Design and synthesis of a novel visible light controllable NO releaser applicable for living cells

SFRRI2014, 23 Mar.-26 Mar. 2014, Kyoto, P200

Kaoru Ito, Naoya Ieda, Hidehiko Nakagawa

Development of an irreversible Pin-1 inhibitor targeting cysteine residue

SFRRI2014, 23 Mar.-26 Mar. 2014, Kyoto, P272

Naoki Fukushima, Naoya Ieda, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Hidehiko Nakagawa

Photocontrollable hydrogen sulfide donor using ketoprofenate photocages

SFRRI2014, 23 Mar.-26 Mar. 2014, Kyoto, P304

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

N-Nitrosoaniline 構造を有する可視光制御可能な NO ドナーによる血管弛緩

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 27-30 日, 熊本, 28L-pm21
福島直樹、家田直弥、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦

光解除性保護基を用いた光制御型硫化水素供与化合物の合成と機能評価

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 27-30 日, 熊本, 29amS-006

薄井佑奈、家田直弥、河合翔太、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦

光作動性クマリン型 NO ドナー MNC1 とその硫黄類縁体の NO 放出能・光応答性に関する比較

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 27-30 日, 熊本, 29amS-011

荒井卓也、大野彰子、柿澤多恵子、栗原正明、宮田直樹、中川秀彦、福原潔

A β 1-42 および A β 1-43 の C 末端モチーフを有するアルツハイマー病治療薬の開発

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 27-30 日, 熊本, 29amS-021S

伊藤芳、家田直弥、宮田直樹、中川秀彦

活性中心のシステイン残基を標的とした Pin1 阻害剤の開発

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 27-30 日, 熊本, 29amS-024

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

青色光で制御可能な N-nitrosoaniline 型 NO ドナーを用いた血管弛緩制御

第 1 2 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 2014 年 5 月 23-24 日, 東京, 1-06

Hidehiko Nakagawa, Naoki Fukushima, Naoya Ieda, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata

Photo-inducible hydrogen sulfide releaser using ketoprofenate photocages

Third International Conference on H₂S Biology and Medicine

June 4-6, 2014, Kyoto, S4-4

Naoya Ieda, Yuji Hotta, Kazunori Kimura, Naoki Miyata, Hidehiko Nakagawa

Photo-manipulation of vasodilation with a novel photo-controllable nitric oxide releaser based on N-nitrosoaminophenol

Third International Conference on H₂S Biology and Medicine

June 4-6, 2014, Kyoto, P106

Hidehiko Nakagawa, Naoki Fukushima, Naoya Ieda, Naoki Miyata

Hydrogen sulfide releaser with xanthone-type photocages

Third International Conference on H2S Biology and Medicine

June 4-6, 2014, Kyoto, P108

喜多村佳委、菱川和宏、家田直弥、川口充康、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦

可視光線によって制御可能なミトコンドリア局在性 NO ドナーの開発

日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会, 2014年6月11-13日, 大阪, O-24

山田創大、家田直弥、川口充康、宮田直樹、中川秀彦

7-Diethylaminocoumarin 型光解除性保護基を導入したケージド HDAC 阻害剤の合成と機能評価

日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会, 2014年6月11-13日, 大阪, P-095

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

N-Nitrosoaminophenol 骨格を有する可視光制御型 NO ドナーの開発

日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会, 2014年6月11-13日, 大阪, P-096

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

青色光で制御可能な NO ドナーの合成とその機能評価

創薬懇話会 2014 in 岐阜, 2014年7月10-11日, 岐阜, P-31

喜多村佳委、菱川和宏、家田直弥、川口充康、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦

ニトロベンゼンの光異性化反応を利用した黄緑色光作動型ミトコンドリア局在性一酸化窒素放出剤の開発

創薬懇話会 2014 in 岐阜, 2014年7月10-11日, 岐阜, P-32

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、川口充康、宮田直樹、中川秀彦

青色光制御型 NO ドナーの開発と血管弛緩の光制御

第67回日本酸化ストレス学会学術集会, 2014年9月4-5日, 京都, O-12

山田創太、家田直弥、川口充康、宮田直樹、中川秀彦

7-Diethylaminocoumarin 型光解除性保護基を用いたケージド HDAC 阻害剤の開発

第67回日本酸化ストレス学会学術集会, 2014年9月4-5日, 京都, P-64

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、川口充康、宮田直樹、中川秀彦

青色光制御型一酸化窒素発生剤の開発とその生体応用

2014年光化学討論会, 2014年10月11-13日, 札幌, 3P-35

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、川口充康、宮田直樹、中川秀彦
光レドックス反応を応用した可視光制御一酸化窒素発生剤の開発

第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2014 年 11 月 10-11 日, 仙台, 2P-06

喜多村佳委、菱川和宏、家田直弥、川口充康、鈴木孝禎、宮田直樹、中川秀彦
ニトロベンゼンの光異性化反応を利用した可視光駆動型ミトコンドリア局在性 NO ド
ナーの設計・合成と機能評価

第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2014 年 11 月 10-11 日, 仙台, 2P-52

Kai Kitamura, Kazuhiro Hishikawa, Naoya Ieda, Mitsuyasu Kawaguchi,
Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Hidehiko Nakagawa

Mitochondria-targeting Nitric Oxide Releasers Controllable with Visible Light

ICBS2014, November 17-19, 2014, San Francisco, Poster Session I-50

Sota Yamada, Naoya Ieda, Mitsuyasu Kawaguchi, Naoki Miyata, Hidehiko
Nakagawa

Development of a caged HDAC inhibitor with 7-diethylaminocoumarin-type
photolabile protecting group

ICBS2014, November 17-19, 2014, San Francisco, Poster Session II-53

【精密有機反応学分野】

(原報)

Kazuma Okada, Ryota Hidese, Wakao Fukuda, Masaru Niitsu, Koichi Takao, Yuhei Horai, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi, Tairo Oshima, Yuko Yoshikawa, Tadayuki Imanaka, Shinsuke Fujiwara

Identification of a novel aminopropyltransferase involved in the synthesis of branched-chain polyamines in hyperthermophiles

J. Bacteriol., 196(10), 1866-1876 (2014).

10.1128/JB.01515-14

(学会発表)

本間紘次郎, 加藤信樹, 梅澤直樹, 樋口恒彦

生理的条件での良好な機能発現を目指した化学発光分子の開発

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 28 日 (熊本); 28M-pm01.

坂田陽輔, 矢木宏和, 加藤信樹, 石川春人, 梅澤直樹, 佐藤匡史, 水谷泰久, 加藤晃一, 樋口恒彦

マラリアの持つヘム解毒タンパク質に対するキノリン系抗マラリア化合物の阻害活性評価

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 28 日 (熊本); 28N-pm16.

寶来侑平, 今村優希, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

多彩なポリアミン誘導体の合成と活性評価

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29pmS-060.

天野祐一, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

ペプチドの光活性制御をめざした新規光切断性アミノ酸の開発

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29pmS-061.

加藤信樹

分子内酸化的カップリング反応を基盤とする Scholarisine A の合成研究

第 4 回有機分子構築法夏の勉強会. 2014 年 5 月 10 日 (湯河原); 発表 13.

Tsunehiko Higuchi 【依頼講演】

Nitrous Oxide Reduction-Coupled Alkene-Alkene Coupling Catalyzed By
Metalloporphyrin

The 225th Meeting of The Electrochemical Society (ECS).
2014年5月12日 (Orlando, Florida, U.S.A.) ; #1310.

加藤信樹

Scholarisine A の合成研究

新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」

第6回公開シンポジウム. 2014年5月28日 (名古屋) ; P04.

白川慶典、丹羽雄紀、加藤信樹、梅澤直樹、樋口恒彦

Synthesis and chemical properties of heme alcoholate complexes and Mn heme
thiolate complex

第24回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
2014年6月14日 (京都) ; O-03.

Tsunehiko Higuchi, Yoshinori Shirakawa, Yuki Niwa, Nobuki Kato, Naoki
Umezawa

Synthesis and Catalytic Activity of Elemental Substituents of Heme Thiolate
Complex

International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines (ICPP-8).
2014年6月27日 (Istanbul, Turkey) ; .

天野祐一、梅澤直樹、加藤信樹、樋口恒彦

構造制約によるペプチド機能の光制御

創薬懇話会 in Gifu. 2014年7月10-11日 (岐阜) ; P-48.

寶来侑平、今村優希、梅澤直樹、加藤信樹、樋口恒彦

多様なポリアミン誘導体の合成と活性評価

創薬懇話会 in Gifu. 2014年7月10-11日 (岐阜) ; P-49.

寶来侑平、今村優希、梅澤直樹、加藤信樹、樋口恒彦

新規ポリアミン類の合成と二本鎖 DNA の熱安定性に及ぼす効果

第45回 若手ペプチド夏の勉強会. 2014年8月3-5日 (宮津) ; p35.

樋口恒彦

C-H 結合活性化を活用する独創的リード化合物高度化

第二回創薬等支援技術基盤プラットフォーム公開シンポジウム

2014年8月27日（東京）；65.

樋口恒彦

クロロキン耐性・感受性マラリアに共に効果的な活性化化合物

イノベーション・ジャパン 2014~大学見本市&ビジネスマッチング~

2014年9月12日（東京）；L-28.

樋口恒彦

酵素の戦略を取り入れ設計した修飾ルテニウムポルフィリン によるアルカンの位置選択的触媒酸化

第 113 回触媒討論会. 2014 年 9 月 25 日（東広島）；1E03.

加藤信樹, 渡辺二規, 梅澤直樹, 樋口恒彦

Scholarisine A の合成研究触媒酸化

第 56 回天然有機化合物討論会. 2014 年 10 月 16 日（高知）；P14.

奥園希美子, 鈴木潤, 土幸隆司, 梅澤直樹, 加藤信樹, 樋口恒彦

アルキルヒドロペルオキシドを酸化剤とするチオレート配位鉄ポルフィリンの酸化反応機構

第 47 回酸化反応討論会. 2014 年 11 月 14 日（熊本）；10-07.

【薬品合成化学分野】

(原報)

Yoshihiro Akahori, Hiroyuki Yamakoshi, Yuki Sawayama, Shunichi Hashimoto, and Seiichi Nakamura

Synthesis of Chiral Building Blocks for Oxygenated Terpenoids through a Simultaneous and Stereocontrolled Construction of Contiguous Quaternary Stereocenters by an Ireland–Claisen Rearrangement.

J. Org. Chem., 79, 720–735 (2014).

Yoshihiro Akahori, Hiroyuki Yamakoshi, Shunichi Hashimoto, and Seiichi Nakamura

Stereoselective Synthesis of the CDE Ring System of Antitumor Saponin Scillascilloside E-1.

Org. Lett., 16, 2054–2057 (2014).

Hiroyuki Yamakoshi, Almar F. Palonpon, Kosuke Dodo, Jun Ando, Satoshi Kawata, Katsumasa Fujita, and Mikiko Sodeoka

Simultaneous Imaging of Protonated and Deprotonated Carbonylcyanide p-Trifluoromethoxyphenylhydrazone in Live Cells by Raman Microscopy.

Chem. Commun., 50, 1341–1343 (2014).

Mizuki Sekiya, Eiko Chiba, Momoe Satoh, Hiroyuki Yamakoshi, Yoshiharu Iwabuchi, Masamitsu Futai, and Mayumi Nakanishi-Matsui

Strong Inhibitory Effects of Curcumin and Its Demethoxy Analog on *Escherichia coli* ATP Synthase F1 Sector.

Int. J. Biol. Macromol., 70, 241–245 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

近藤和弘

配座制御を基盤とした触媒的不斉反応の開発

有機合成化学協会誌, 72, 405–417 (2014).

(学会発表)

鈴木恵介, 高田峰辰, 山越博幸, 中村精一

抗腫瘍性メロテルペノイド・バークレーオン類の合成研究

日本化学会第 94 春季年会. 2014 年 3 月 28 日 (名古屋); 2B8-28.

赤堀禎紘, 澤山侑季, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

Ireland-Claisen 転位を用いた酸化型テルペノイド合成中間体の立体制御合成

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 28 日 (熊本); 28U-pm15.

赤堀禎紘, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

抗腫瘍性サポニン・シラシロシド E-1 CDE 環部の立体選択的構築

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 28 日 (熊本); 28U-pm16.

鈴木恵介, 高田峰辰, 山越博幸, 中村精一

抗腫瘍性メロテルペノイド・バークレーオン類の合成研究

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29pmM-035.

山越博幸【招待講演】

ラマンタグを用いた低分子化合物の生細胞イメージング

理研シンポジウム: 最先端光計測とライフサイエンスの近未来
-バイオ・ラマン 2017-[4]. 2014 年 5 月 1 日 (仙台).

戸井田明憲, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリド D の合成研究-渡環反応による BCD 環構築-

第 60 回日本薬学会東海支部総会・大会. 2014 年 7 月 5 日 (鈴鹿); B1510.

赤堀禎紘, 山越博幸, 澤山侑季, 橋本俊一, 中村精一

2-テトラヒドロフランカルボン酸誘導体の転位を利用する生物活性天然物の合成研究

第 44 回複素環化学討論会. 2014 年 9 月 10 日 (札幌); 10-23.

戸井田明憲, 竹田圭介, 山越博幸, 橋本俊一, 中村精一

アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリド D の合成研究

第 56 回天然有機化合物討論会. 2014 年 10 月 16 日 (高知); P-70.

鈴木恵介, 山越博幸, 中村精一

抗腫瘍性メロテルペノイド・バークレーオン類の合成研究

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014

2014年11月9日（静岡）；C-11.

鈴木恵介，山越博幸，中村精一

ポリエーテル環化反応による架橋環構築を基盤とするバークレーオンの合成研究

第40回反応と合成の進歩シンポジウム

2014年11月10日（仙台）；1P-11.

【機能分子構造学分野】

(学会発表)

坂崎美香, 白井直洋, 池田慎一
ニッケル触媒によるエノン, アルキン, ビニルシクロプロパンのドミノカップリング
反応の開発

第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 30 日 (横浜) ; 30amA-640.

森田有香, 白井直洋, 池田慎一
ニッケル/亜鉛触媒によるエノン・アルキン・アリルアルコール類のヘック型ドミノ反
応

第 133 年会 日本薬学会 2013 年 3 月 30 日 (横浜) ; 30amA-641.

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Ryo Suzuki, Sarah Leach, Wenhua Liu, Evelyn Ralston, Jörg Scheffel, Weiguo Zhang, Clifford A. Lowell, Juan Rivera

Molecular editing of cellular responses by the high-affinity receptor for IgE.

Science, 343, 1021-1025 (2014).

Cristiana Brochetta,[#] Ryo Suzuki,[#] Francesca Vita, Maria Rosa Soranzo, Julien Claver, Lydia Celia Madjene, Tarik Attout, Joana Vitte, Nadine Varin-Blank, Giuliano Zabucchi, Juan Rivera, Ulrich Blank ([#] Equal Contribution)

Munc18-2 and Syntaxin 3 control distinct essential steps in mast cell degranulation.

J. Immunol., 92, 41-51 (2014).

Miho Ikeya, Kiyoshi Yamanoue, Yuji Mochizuki, Hirofumi Konishi, Satoshi Tadokoro, Masahiko Tanaka, Ryo Suzuki, Naohide Hirashima

Orai-2 is localized on secretory granules and regulates antigen-evoked Ca²⁺ mobilization and exocytosis in mast cells.

Biochem. Biophys. Res. Commun., 451, 62-7 (2014).

Barbara Dema, Nicolas Charles, Christophe Pellefigues, Tiffany K. Ricks, Ryo Suzuki, Chao Jiang, Jorg Scheffel, Sarfaraz Hasni, Victoria Hoffman, Mathieu Jablonski, Karim Sacré, Delphine Gobert, Thomas Papo, Eric Daugas, Steve Crampton, Silvia Bolland, Juan Rivera

Immunoglobulin E plays an immune-regulatory role in Lupus

J. Exp. Med., 211, 2159-2168 (2014).

Yu Inoue, Seiji Hasegawa, Sadanori Ban, Takaaki Yamada, Yasushi Date, Hiroshi Mizutani, Satoru Nakata, Masahiko Tanaka, Naohide Hirashima

ZIP2, a zinc transporter, is associated with keratinocyte differentiation.

J. Biol. Chem., 289, 21451-62 (2014).

Ryo Ohashi, Shin-ichi Sakata, Asami Naito, Naohide Hirashima, Masahiko Tanaka
Dendritic differentiation of cerebellar Purkinje cells is promoted by ryanodine

receptors expressed by Purkinje and granule cells.

Dev. Neurobiol., 74, 467-480 (2014).

Shin Nishikawa, Naohide Hirashima, Masahiko Tanaka

Optimization of single-cell electroporation protocol for forced gene expression in primary neuronal cultures.

Mol. Biotechnol., 56, 824-832 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

Barbara Dema, Ryo Suzuki, Juan Rivera

Rethinking the role of immunoglobulin E and its high affinity receptor: New insights in allergy and beyond.

Int. Arch. of Allergy Immunol., 164, 271-279 (2014) .

(学会発表)

鈴木 亮【招待講演】

高親和性 IgE 受容体によるマスト細胞とアレルギー反応の制御機構

日本薬学会東海支部特別講演会 2014年1月24日(名古屋)

田中順一, 藤田真弥, 八木孝樹, 平嶋尚英, 田中正彦

Gfap-Cre calcineurin B α ^{fl/fl} mice の脳及び小腸における異常

日本薬学会第134年会 2014年3月28日(熊本); 28amS-005.

田所 哲, 笹井 雅夫, 平嶋尚英

人工開口放出系を用いた開口放出様膜融合の脂質依存性

日本薬学会第134年会 2014年3月29日(熊本); 29amL-024.

伊納義和, 田所 哲, 田邊宏樹, 井上誠, 平嶋尚英, 古野忠秀, 中西 守

正電荷リポソームがマスト細胞の活性化による即時型アレルギー反応に及ぼす影響

日本薬学会第134年会 2014年3月29日(熊本); 29pmL-051.

望月雄司, 池谷美穂, 山之上潔, 小西尋文, 田所 哲, 田中正彦, 鈴木 亮, 平嶋尚英
マスト細胞分泌顆粒に局在する Ca²⁺チャネル Orai-2 の機能解析

第 60 回日本薬学会東海支部大会 2014 年 7 月 5 日 (鈴鹿) ;D1600.

篠原惇宏、古野忠秀、横川 慧、伊納義和、鈴木 亮、平嶋尚英、中西 守
膵島 α 細胞の細胞内顆粒動態の解析

日本バイオイメーキング学会 2014 年 9 月 5 日 (大阪) ;P-26.

田中正彦, 大橋 令, 三浦愛美, 平嶋尚英
小脳顆粒細胞で発現するリアノジン受容体 2 型がプルキンエ細胞の樹状突起発達において果たす役割

第 37 回日本神経科学大会 2014 年 9 月 11 日 (横浜) ;P1-105.

古野忠秀, 篠原惇宏, 横川 慧, 伊納義和, 平嶋 尚英, 中西 守
神経と接着した膵島 α 細胞内顆粒動態の解析

日本生物物理学会第 52 回年会 2014 年 9 月 26 日 (札幌) ;2P182.

田所 哲, 尾関祐哉, 加来岳飛, 楯 直子, 平嶋 尚英
マスト細胞の開口放出における synaptotagmin2 の役割とその機能領域

第 87 回日本生化学会大会 2014 年 10 月 18 日 (横浜) ;4P-243.

Masahiko Tanaka, Ryo Ohashi, Manami Miura, Naohide Hirashima

Role of ryanodine receptor type 2 expressed by cerebellar granule cells in dendritic differentiation of Purkinje cells

The 44th Annual Meeting of the Society for Neuroscience. 2014 年 11 月 15 日
(Washington DC, USA) ; 31.13.

鈴木 亮, Sarah Leach, Wenhua Liu, Evelyn Ralston, Jorg Scheffel, Weiguo Zhang,
Clifford A. Lowell, 平嶋尚英, Juan Rivera

アレルギー親和性による IgE 受容体シグナルの多様性とアレルギー制御

第 37 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 2014 年 11 月 20 日 (徳島) ;A-12

井上 悠, 長谷川靖司, 坂 貞徳, 山田貴亮, 伊達 靖, 水谷 宏, 中田 悟, 田中
正彦, 平嶋尚英

表皮幹細胞の分化を制御する微量金属元素の解析

第 37 回日本分子生物学会年会 2014 年 11 月 26 日 (横浜) ; 2W7-11、2P-0598

鈴木 亮, Sarah Leach, Wenhua Liu, Evelyn Ralston, Jorg Scheffel, Weiguo Zhang,
Clifford A. Lowell, 平嶋尚英, Juan Rivera

アレルギー親和性が制御する IgE 受容体シグナル伝達機構の機能解析

第 37 回日本分子生物学会年会 2014 年 11 月 26 日 (横浜); 2W9-1, 2P-0716.

田中正彦, 千田知美, 平嶋尚英

小脳プルキンエ細胞の発生過程に及ぼす GluR2 の発現抑制効果

第 37 回日本分子生物学会年会 2014 年 11 月 27 日 (横浜); 3P-0645.

Naohide Hirashima 【招待講演】

Molecular Mechanism of Exocytosis in Mast Cells

41st Annual Convention Philippine Society of Biochemistry and Molecular Biology

Dec. 4, 2014 (Cebu, Philippine)

Ryo Suzuki, Sarah Leach, Wenhua Liu, Evelyn Ralston, Jorg Scheffel, Weiguo

Zhang, Clifford A. Lowell, Naohide Hirashima, Juan Rivera 【招待講演】

Molecular Editing of Cellular Responses by the High Affinity Receptor for IgE

EMBRN-COST International Mast Cell and Basophil Meeting 2014.

Dec. 11, 2014 (Munich, Germany); Session IV

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

K. Yoshizawa

Exclusion of impurity particles in charged colloidal crystals.

Soft Matter, 10, 3357-3361 (2014).

A. Toyotama

Thermoresponsive Colloidal Crystallization Using Adsorption of Ionic Surfactants.

Chem. Mater, 26, 4057-4059 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

山中淳平、奥菌透、豊玉彰子

コロイド結晶の作製と光学材料への応用

ケミカルエンジニアリング, 59, 12, 14 (2014).

山中淳平、奥菌透、豊玉彰子

第4章3節「コロイド結晶固定ゲルと光学応用」

ゲルテクノロジーハンドブック
機能設計・評価・シミュレーションから製造プロセス・製品化まで
第4章3節 (2014).

(特許申請)

名称：ワクチンアジュバント及び免疫増強剤

発明者：瀧井猛将、小野寄菊夫、山中淳平、北川慎也、竹野聖史

権利者：名古屋市立大学、名古屋工業大学

番号：2014-140033

出願年月日：2014年7月7日

名称：コロイド共晶、コロイド共晶固化体、及びそれらの製造方法

発明者：豊玉彰子、山中淳平、奥菌透、宇田聡、野澤純

権利者：名古屋市立大学

番号：：2014-252527

出願年月日：2014年12月12日

(学会発表)

奥菌透，豊玉彰子，山中淳平

塩基濃度勾配下における高分子電解質ドメインのダイナミクス

日本物理学会第69回年次大会，2014年3月27日（平塚）

豊玉 彰子

引力系コロイドの結晶化

東北大学 金属材料研究所 セミナー，2014年6月4日（仙台）【招待】

J. Yamanaka,

Thermally Induced Crystallization and Zone Melting of Charged Colloids

NIMS CONFERENCE2014. 2014年7月2日（つくば）【招待】

Y.Sugao, A.Toyotama, T.Okuzono, J.Yamanaka

Hopping Behavior of Impurity Particles in Charged Colloidal Crystals

NIMS CONFERENCE2014. 2014年7月2日（つくば）

山中淳平、豊玉彰子、奥菌透

ゲル固定コロイド結晶のセンシングへの応用

薬学会東海支部大会，2014年7月5日（鈴鹿）

村門愛、中村友紀、豊玉彰子、奥菌透、山中淳平

温度誘起結晶化によるコロイド結晶材料の作製

薬学会東海支部大会，2014年7月5日（鈴鹿）

T. Okuzono, A. Toyotama, J. Yamanaka

Dynamics of phase-separated domains of polyelectrolytes under pH gradient

9th Liquid Matter Conference. 2014年7月22日（ポルトガル・リスボン）

A. Toyotama

Thermoresponsive Colloidal Crystallization Based on Adsorption of Ionic

Surfactants

9th Liquid Matter Conference. 2014年7月23日 (ポルトガル・リスボン)

Y. Nakamura, M. Okachi, A. Toyotama, T. Okuzono, J. Yamanaka

Clustering of Charged Colloidal Particles in the Coexistence of Ionic Surfactants.

9th Liquid Matter Conference. 2014年7月23日 (ポルトガル・リスボン)

M. Okachi, Y. Nakamura, A. Toyotama, T. Okuzono, J. Yamanaka

Clustering of oppositely charged colloidal particles

9th Liquid Matter Conference. 2014年7月23日 (ポルトガル・リスボン)

J.Yamanaka

Photonic Crystals

Kendriya Vidyalaya-2, Kalpakkam

2014年8月6日 (インド・カルパッカム) 【招待】

J.Yamanaka

Novel Methods for Crystallization and Growth of Large Size Photonic Crystals

IGCAR Seminar

2014年8月6日 (インド・カルパッカム) 【招待】

J.Yamanaka

Colloidal Crystals and Their Applications as Photonic Materials

Indian JSPS Alumni Association Conference 2014

2014年8月8日 (インド・チェンナイ) 【招待】

J.Yamanaka

Charged Colloidal Crystals and Their Applications as Optical Materials

Sathyabama University Seminar

2014年8月9日 (インド・チェンナイ) 【招待】

山中淳平, 篠原真理子, 鈴木美沙紀, 豊玉彰子, 奥菌透, 内田文生

ゾーンメルト法による大型・高品質コロイド結晶の作成

第65回コロイドおよび界面化学討論会. 2014年9月3日 (東京)

村門愛, 平岩いずみ, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

非水媒体中における荷電コロイドの結晶化

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 3 日 (東京)

中村友紀, 岡地真奈美, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

界面活性剤共存下での荷電コロイド粒子のクラスター形成

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 3 日 (東京)

菅生行紘, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

荷電コロイド結晶中の不純物粒子のホッピング

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 3 日 (東京)

神野隼大, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

枯渇引力系におけるコロイド結晶化過程の一粒子観察

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 5 日 (東京)

大橋良章, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

コロイド結晶の格子間隙における不純物粒子の拡散

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 5 日 (東京)

岡地真奈美, 中村友紀, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

反対電荷をもつ荷電コロイド粒子の会合対形成

第 65 回コロイドおよび界面化学討論会. 2014 年 9 月 5 日 (東京)

山中淳平

コロイド結晶固定ゲルを用いたゲル変形の可視化

ゲルシンポジウム. 2014 年 9 月 6 日 (東京)

関友崇, 奥菌透, 豊玉彰子, 山中淳平

塩基濃度勾配下での荷電コロイドの結晶化

日本物理学会 2014 年秋季大会. 2014 年 9 月 8 日 (春日井)

豊玉 彰子

引力系コロイドの結晶化

東北大学 金属材料研究所 セミナー. 2014 年 9 月 16 日 (仙台) 【招待】

深谷 奈央

人口オパール「コロイド結晶」の作製と応用

第5回化粧品開発展. 2014年10月21日(東京)

山中淳平

固定化コロイド結晶の光学材料への応用

JAXA(宇宙航空研究開発機構)新技術説明会

2014年10月27日(東京)【招待】

神野隼大, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平, 野沢純, 藤原航三, 宇田聡

枯渇引力系を用いたコロイド結晶化過程の一粒子観察

第44回結晶成長国内会議. 2014年11月6日(東京)

村門愛, 中村友紀, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

イオン性界面活性剤の吸着を利用したコロイド系の温度誘起結晶化

第44回結晶成長国内会議. 2014年11月6日(東京)

大橋良章, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平, 野沢純, 藤原航三, 宇田聡

荷電コロイド結晶の格子間隙における不純物粒子の拡散

第44回結晶成長国内会議. 2014年11月6日(東京)

菅生行紘, 豊玉彰子, 奥菌透, 野沢純, 藤原航三, 宇田聡, 山中淳平

荷電コロイド結晶中の不純物粒子のホッピング挙動

第44回結晶成長国内会議. 2014年11月6日(東京)

佐藤直子, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

高分子ゲル表面でのコロイド結晶化

第44回結晶成長国内会議. 2014年11月6日(東京)

山中淳平, 豊玉彰子, 奥菌透

荷電コロイド粒子を固定した高分子ゲル中の物質拡散

日本病院薬剤師会 東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2014.

2014年11月9日(静岡)

岡地真奈美, 中村友紀, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

荷電コロイド粒子の会合構造制御

日本病院薬剤師会 東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2014.

2014年11月9日（静岡）

篠原忠臣，谷川正幸，曾我見郁夫，伊藤研策，山中淳平

シリカラテックス混合分散液におけるコロイド結晶の fcc-bcc 相図

日本マイクログラビティ応用学会第 28 回学術講演会（JASMAC-28）

2014年11月26日（兵庫）

柿原千穂，豊玉彰子，奥菌透，山中淳平，篠原忠臣，谷川正幸，曾我見郁夫

荷電コロイドの電荷誘起結晶化と結晶構造

日本マイクログラビティ応用学会第 28 回学術講演会（JASMAC-28）

2014年11月26日（兵庫）

【生命分子構造学分野】

(原報)

Soichiro Kitazawa, Tomoshi Kameda, Ayumi Kumo, Maho Yagi-Utsumi, Nicola J. Baxter, Koichi Kato, Mike P. Williamson, and Ryo Kitahara

close identity between alternatively folded state N₂ of ubiquitin and the conformation of the protein bound to the ubiquitin-activating enzyme

Biochemistry 53, 447-449 (2014).

Masaaki Sugiyama, Hirokazu Yagi, Takumi Yamaguchi, Kentaro Kumoi, Mitsuhiro Hirai, Yojiro Oba, Nobuhiro Sato, Lionel Porcar, Anne Martele, and Koichi Kato

Conformational characterization of a protein complex involving intrinsically disordered protein by small-angle neutron scattering using the inverse contrast matching method: a case study of interaction between α -synuclein and PbaB tetramer as a model chaperone

J. Appl. Cryst. 47, 430-435 (2014).

Tadashi Satoh, Kousuke Suzuki, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

Structural basis for disparate sugar-binding specificities in the homologous cargo receptors ERGIC-53 and VIP36

PLoS ONE 9, e87963 (2014).

Takayuki Doi, Masahiro Yoshida, Kosuke Ohsawa, Kazuo Shin-ya, Motoki Takagi, Yoshinori Uekusa, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato, Takatsugu Hirokawa, and Tohru Natsume

Total synthesis and characterization of thielocin B1 as a protein-protein interaction inhibitor of PAC3 homodimer

Chem. Sci. 5, 1860-1868 (2014).

Soh Yamamoto, Ganesh Prasad Subedi, Shinya Hanashima, Tadashi Satoh, Michiro Otaka, Hideki Wakui, Ken-ichi Sawada, Shin-ichi Yokota, Yoshiki Yamaguchi, Hiroshi Kubota, and Hideaki Itoh

ATPase activity and ATP-dependent conformational change in the co-chaperone HSP70/HSP90-organizing protein (HOP)

J. Biol. Chem. 289, 9880-9886 (2014).

Tadashi Satoh, Yasushi Saeki, Takeshi Hiromoto, Ying-Hui Wang, Yoshinori Uekusa, Hirokazu Yagi, Hidehito Yoshihara, Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Keiji Tanaka, and Koichi Kato

Structural basis for proteasome formation controlled by an assembly chaperone Nas2

Structure 22, 731-743 (2014).

M.Tagawa, K.Shirane, L.Yu, T.Sato, S.Furukawa, H.Mizuguchi, R.Kuji, K.Kawamura, N.Takahashi, K.Kato, S.Hayakawa, S.Sawada, and K.Furukawa

Enhanced expression of the β 4-galactosyltransferase 2 gene impairs mammalian tumor growth

Cancer Gene Therapy 21, 219-227 (2014).

Kenji Takagi, Yasushi Saeki, Hideki Yashiroda, Hirokazu Yagi, Ai Kaiho, Shigeo Murata, Takashi Yamane, Keiji Tanaka, Tsunehiro Mizushima, and Koichi Kato
Pba3–Pba4 heterodimer acts as a molecular matchmaker in proteasome α -ring formation

Biochem. Biophys. Res. Commun. 450, 1110-1114 (2014).

Satoshi Ninagawa, Tetsuya Okada, Yoshiki Sumitomo, Yukiko Kamiya, Koichi Kato, Satoshi Horimoto, Tokiro Ishikawa, Shunichi Takeda, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, and Kazutoshi Mori

EDEM2 initiates mammalian glycoprotein ERAD by catalyzing the first mannose trimming step

J. Cell Biol. 206, 347-356 (2014).

Yoshinori Uekusa, Keisuke Okawa, Maho Yagi-Utsumi, Olivier Serve, Yuki Nakagawa, Tsunehiro Mizushima, Hirokazu Yagi, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato

Backbone ^1H , ^{13}C , and ^{15}N assignments of yeast Ump1, an intrinsically disordered protein that functions as a proteasome assembly chaperone

Biomol. NMR Assign. 8,383-386 (2014).

Nana Kawasaki, Terumi Okumoto, Yoshiki Yamaguchi, Noriko Takahashi, Wolf Herman Fridman, Catherine Sautès-Fridman, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Site-specific classification of *N*-linked oligosaccharides of the extracellular regions of

Fcγ receptor IIIb expressed in baby hamster kidney cells

J. Glycomics Lipidomics 4:116. doi:10.4172/2153-0637.1000116 (2014).

Takumi Yamaguchi, Yoshitake Sakae, Ying Zhang, Sayoko Yamamoto, Yuko Okamoto, and Koichi Kato

Exploration of conformational spaces of high-mannose-type oligosaccharides by an NMR-validated simulation

Angew. Chem. Int. Ed. 53,10941-10944 (2014).

Tadashi Satoh, Akira Sumiyoshi, Maho Yagi-Utsumi, Eri Sakata, Hiroaki Sasakawa, Eiji Kurimoto, Yoshiki Yamaguchi, Wei Li, Claudio A.P. Joazeiro, Takatsugu Hirokawa, and Koichi Kato

Mode of substrate recognition by the Josephin domain of ataxin-3, which has an endo-type deubiquitinase activity

FEBS Lett. 588, 4422-4430 (2014).

Arunima Sikdar, Tadashi Satoh, Masato Kawasaki, and Koichi Kato

Crystal structure of archaeal homolog of proteasome-assembly chaperone PbaA

Biochem. Biophys. Res. Commun. 453, 493-497 (2014).

Tong Zhu, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

Structural insight into substrate recognition by the endoplasmic reticulum folding-sensor enzyme: crystal structure of third thioredoxin-like domain of UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferase

Sci. Rep. 4, 7322 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

矢木真穂, 山口拓実

国際学会参加報告

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.14, 7 (2014).

Yukiko Kamiya, Tadashi Satoh, and Koichi Kato

Recent advances in glycoprotein production for structural biology: toward tailored design of glycoforms

Curr. Opin. Struct. Biol. 26, 44-53 (2014).

矢木宏和, 矢木-内海真穂, 加藤晃一
糖鎖構造生物学の最前線

ファルマシア 50, 746-750(2014).

Yoshiki Yamaguchi, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato
Structural analysis of oligosaccharides and glycoconjugates using NMR
Glycobiology of the Nervous System, Advances in Neurobiology 9 (R.K.Yu and C.-L.Schengrund ed.), Springer (New York), pp.165-183 (2014).

Takumi Yamaguchi and Koichi Kato
Paramagnetism-assisted nuclear magnetic resonance analysis of dynamic conformations and interactions of oligosaccharides
Glycoscience: Biology and Medicine (N.Taniguchi, T.Endo, G.W.Hart, P.Seeberger, and C.-H.Wong ed.), Springer (Japan), Vol.1, pp.137-145 (2014).

Trinh Anh Xuan, Phan Nghia Trung, Bui Long Dinh, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato
Preparation of water-soluble glycoconjugated poly (acrylamide) for NMR analyses of carbohydrate-carbohydrate interactions
AIP Conference Proceedings 1593, 347-349 (2014).

矢木真穂
海外留学体験記

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.11, 8-10 (2014).

加藤晃一

業績紹介：プロテアソームアッセンブリーシャペロンの二量体形成を阻害する化合物の作用原理の解明

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.5, 1 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介：積荷受容体ERGIC-53 は同一の糖鎖リガンドに対して2通りの異なった様式で相互作用する

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.6, 4 (2014).

加藤晃一

業績紹介：逆コントラストマッチング中性子小角散乱法による複合体形成中の天然変性タンパク質の構造解析

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.7, 1 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

加藤グループの年森隆泰さんが生物物理学会中部支部講演会にて優秀発表賞を受賞

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.7, 2 (2014).

加藤晃一

アジア学会見聞記

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.7, 4-7 (2014).

加藤晃一

アジア連携分子研研究会 日韓生体分子科学セミナー—実験とシミュレーション

分子研レターズ, **69**, 16-17 (2014).

加藤晃一

新学術領域研究「動的秩序と機能」について

分子研レターズ, **69**, 50-51 (2014).

山口拓実

受賞者の声：山口拓実助教に日本糖質学会第 15 回ポスター賞およびバイオ関連化学シンポジウム講演賞

分子研レターズ, **69**, 20 (2014).

Zhang Ying

受賞者の声：2013 年糖鎖科学中部拠点奨励賞

分子研レターズ, **69**, 58-59 (2014).

加藤晃一

公募研究メンバーを迎えるにあたって

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.8, 1 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介：アッセンブリーシャペロンNas2 によるプロテアソーム分子集合制御機構の解明

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.8, 5 (2014).

秋山修志, 古賀信康, 加藤晃一

支部だより～ 中部支部からのお知らせ ～

生物物理, **54**, 175-176 (2014).

神谷由紀子, 佐藤匡史

研究解説：構造生物学を指向した糖タンパク質のテーラーメイド合成の最新動向（総説）

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.10, 4 (2014).

加藤晃一

業績紹介：プロテアソーム α リング形成過程におけるアッセンブリーシャペロン Pba3-Pba4 の機能解析

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.12, 4 (2014).

加藤晃一

夏の活動報告

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.13, 8-9 (2014).

山口拓実, 加藤晃一, 岡本祐幸

業績紹介：NMR法とレプリカ交換分子動力学計算による糖鎖の3次元構造ダイナミクスの描象

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.14, 3 (2014).

加藤晃一, 神谷由紀子

小胞体の糖鎖マンノーストリミングの分子機構

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.14, 4 (2014).

加藤晃一, 山口拓実

複合糖質のダイナミックな構造・相互作用の NMR 解析（図書）

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.14, 4 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介：古細菌のプロテアソーム集合シャペロン様タンパク質PbaAの立体構造解析

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.15, 2 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介：業績紹介：エンド型脱ユビキチン化酵素ataxin-3のJosephinドメインを介した基質認識様式

「動的秩序と機能」 ニュースレター, No.16, 3 (2014).

佐藤匡史, 加藤晃一

加藤グループのTong Zhuさんが第87回日本生化学大会にて若手優秀発表者賞（鈴木絃一メモリアル賞）を受賞

「動的秩序と機能」ニュースレター, No.16, 8 (2014).

矢木宏和

講師昇任にあたり

「神経糖鎖生物学」ニューズレター, 第3号, 9 (2014).

山口拓実

受賞者の声：山口拓実助教に第3回自然科学研究機構若手研究者賞

分子研レターズ, 70, 17 (2014).

朱彤

イベントレポート：平成26年度前学期学生セミナー

分子研レターズ, 70, 66 (2014).

(学会発表)

Koichi Kato 【招待講演】

Dynamic Assembly of Proteins Involved in the Ubiquitin-/Proteasome-mediated Protein Degradation System

Joint IMS-KU Workshop on Molecular Sciences towards Green Sustainability

2014年1月6日 (Bangkok)

Koichi Kato 【招待講演】

Mechanistic Insights into Dynamic Orchestration of Proteasomes

Pure and Applied Chemistry International Conference (PACCON) 2014

2014年1月8日 (Khon Kaen)

Naoki Nakagawa, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Shogo Oka

Role of *AGO61*, a causative gene for dystroglycanopathy, in the cortical development

International Symposium on Glyco-Neuroscience

2014年1月9-10日 (淡路) ; P-04.

Mitsutaka Ogawa, Pawel Bieniasz-Krzywiec, Takami Kawai, Yuta Sakaidani, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Koichi Furukawa, and Tetsuya Okajima

Biochemical and functional analysis of EOGT mutation associated with Adams-Oliver syndrome

International Symposium on Glyco-Neuroscience

2014年1月9-10日 (淡路) ; P-024.

Hirokazu Yagi, Naoki Nakagawa, Takuya Saito, Tatsushi Toda, Sz-Wei Wu, Kay-Hooi Khoo, Shogo Oka, and Koichi Kato

AGO61-dependent GlcNAc modification primes the formation of functional glycans on α -dystroglycan

International Symposium on Glyco-Neuroscience
2014年1月9-10日 (淡路) ; P-027.

Koichi Kato and Tadashi Satoh 【招待講演】

Exploration of micro-macro relationships in dynamic ordering of biomolecular systems and their underlying design principles

The 2nd International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular
Systems for Creation of Integrated Functions
2014年1月11日 (京都) ; L01.

Soichiro Kitazawa, Tomoshi Kameda, Ayumi Kumo, Maho Yagi-Utsumi, Nicole Baxter, Koichi Kato, Mike Williamson, and Ryo Kitahara

Ubiquitin-activating-enzyme recognition of ubiquitin occurs by conformational selection

The 2nd International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular
Systems for Creation of Integrated Functions
2014年1月11日 (京都) ; P27.

Tadashi Satoh, Tong Zhu, Takayasu Toshimori, Kazuyoshi Murata, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato

A structural biology study of endoplasmic reticulum glycoprotein-folding machinery

The 2nd International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular
Systems for Creation of Integrated Functions
2014年1月11日 (京都) ; P81.

Ying-Hui Wang, Tadashi Satoh, Takeshi Hiromoto, Yoshinori Uekusa, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Tsunehiro Mizushima, Yasushi Saeki, Keiji Tanaka, and Koichi Kato

Molecular mechanisms of proteasome assembly: structural basis of Nas2 with proteasome Rpt5 subunit

The 2nd International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular
Systems for Creation of Integrated Functions
2014年1月12日 (京都) ; P68.

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, Yukiko Kamiya, Yoshitake Sakae, Yuko Okamoto, and Koichi Kato

Paramagnetism-assisted NMR approaches to the molecular basis of oligosaccharide functions

The 2nd International Symposium on Dynamical Ordering of Biomolecular Systems for Creation of Integrated Functions
2014年1月12日(京都); P70.

Koichi Kato 【招待講演】

Conformational dynamics of oligosaccharides characterized by paramagnetism-assisted NMR spectroscopy in conjunction with molecular dynamics simulation
The 10th International Symposium on Biochemical roles of Eukaryotic Cell Surface Macromolecules
2014年1月21日(Kolkata)

Koichi Kato 【招待講演】

NMR approaches for elucidating the functional roles of carbohydrate chains
20th Symposium of National Magnetic Resonance Society (NMRS-2014)
2014年2月3日(Assam); IT-8.

矢木・内海真穂, 加藤晃一 【依頼講演】

ガングリオシドクラスターを舞台とするアミロイドβ重合のNMR構造解析
長寿医療研究開発費(25-19)班会議
「アルツハイマー病におけるアミロイド形成機序の解明」
2014年2月10日(大府)

加藤晃一 【招待講演】

生命分子の揺らぎと秩序形成
独) 日本学術振興会 分子系の複合電子機能第181委員会
2014年2月25日(木津川)

加藤晃一 【招待講演】

超高磁場NMR分光法を中心としたタンパク質の高次構造・相互作用解析
第2回 ISIT ナノ・バイオフィォーラム 2014年3月5日(福岡)

年森隆泰, 佐藤匡史, Tong Zhu, 加藤晃一【優秀発表賞】

小胞体品質管理に関わるグルコシダーゼIIの基質認識機構の構造基盤
2013年度 生物物理中部支部会 2014年3月6日(岡崎); T7.

稲垣宏弥, 植草義徳, 神谷由紀子, 伊藤 暁, 奥村久士, 佐藤匡史, 加藤晃一

プロテインジスルフィドイソメラーゼの機能発現におけるミクロ-マクロ相関の探査

2013 年度 生物物理中部支部会 2014 年 3 月 6 日 (岡崎) ; T9.

Tong Zhu, Tadashi Satoh, Kazuyoshi Murata, Hironari Kamikubo, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato
Structural-architecture of the ER glycoprotein folding sensor UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferase (UGGT)

2013 年度 生物物理中部支部会 2014 年 3 月 6 日 (岡崎) ; T10.

加藤晃一【招待講演】

NMR を応用した糖鎖の動的構造解析

よこはま NMR 構造生物学研究会 第 49 回ワークショップ
2014 年 3 月 20 日 (横浜)

吉正 泰, 藤田大士, 佐藤宗太, 矢木真穂, 加藤晃一, 藤田 誠

自己組織化を利用した生理活性糖クラスターの合成と生体分子間相互作用の観測

日本化学会第 94 春季年会 2014 年 3 月 28 日 (名古屋) ; 2A5-17.

Ying Zhang, Takumi Yamaguchi, Sayoko Yamamoto, Yoshitake Sakae, Yuko Okamoto, and Koichi Kato
Elucidation of the conformational dynamics of oligosaccharides by paramagnetism-assisted NMR approach

日本化学会第 94 春季年会 2014 年 3 月 29 日 (名古屋) ; 3G3-47

佐藤匡史, 年森隆泰, Tong Zhu, 村田和義, 山口拓実, 矢木真穂, 加藤晃一

小胞体糖タンパク質フォールディング装置を構成するタンパク質群の構造生物学研究

日本薬学会 134 年会 2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 28K-pm02.

坂田陽輔, 矢木宏和, 加藤信樹, 石川春人, 梅澤直樹, 佐藤匡史, 水谷泰久, 加藤晃一, 樋口恒彦

マラリアの持つヘム解毒タンパク質に対するキノリン系抗マラリア化合物の阻害活性評価

日本薬学会 134 年会 2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 28N-pm16.

矢木宏和, 中川直樹, 齋藤拓也, 戸田達史, 吳 思緯, 邱 繼輝, 岡 昌吾, 加藤晃一

AGO61 依存的な GlcNAc 修飾は α -ジストログリカン上の糖鎖形成の初期過程に必須である

日本薬学会 134 年会 2014 年 3 月 30 日 (熊本) ; 30O-am01.

Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Christopher M. Dobson

Studying molecular recognition processes of intrinsically disordered proteins by
NMR spectroscopy

Royal Society of Chemistry NMR Discussion Group Meeting

"NMR in Structural Biology"

2014年4月10日 (Cambridge) ; P-57.

加藤晃一【依頼講演】

創薬と生命分子構造学

名古屋市立緑高等学校 大学見学模擬授業 2014年5月8日 (名古屋)

Tadashi Satoh, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Tong Zhu, and Koichi
Kato

Structural insights into substrate recognition mechanism of glycoprotein processing
enzyme ER glucosidase II

The 4th Asia Pacific Protein Association (APPA) Conference

2014年5月18日 (Jeju)

Koichi Kato【招待講演】

Structural views of glycosylation as potential drug target

The 4th Asia Pacific Protein Association (APPA) Conference

2014年5月20日 (Jeju)

Koichi Kato【招待講演】

Dynamic Orchestration of Proteasomes

Biophysical Seminar at the Department of Chemistry, University of Cambridge

2014年5月23日 (Cambridge)

Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato, and Christopher M. Dobson

Assembly mechanism of hereditary amyloid- β variants promoted on their specific
gangliosides

Biophysics of Amyloids and Prions, 2014年5月25日 (Napoli) ; P-34.

鈴木康介, 佐藤匡史, 山口拓実, 西尾美穂, 神谷由紀子, 矢木真穂, 加藤晃一
カーゴレセプターERGIC-53/MCFD2 複合体による糖タンパク質認識メカニズムの構
造基盤

第78回 日本生化学会中部支部例会 2014年5月24日 (名古屋) ; P17.

年森隆泰, 佐藤匡史, Genwei Yan, 山口拓実, Zhu Tong, 加藤晃一

糖タンパク質品質管理に関わるグルコシダーゼ II の基質認識メカニズムの構造基盤
第 78 回 日本生化学会中部支部例会 2014 年 5 月 24 日 (名古屋) ; P18.

Mitsutaka Ogawa, Takami Kawai, Shunsuke Nishio, Daita Nadano, Tsukasa Matsuda, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Koichi Kato, Koichi Furukawa, and Tetsuya Okajima

Defective O-GlcNAcylation in the endoplasmic reticulum by mutated EOGT associated with Adams-Oliver syndrome

第 78 回 日本生化学会中部支部例会 2014 年 5 月 24 日 (名古屋) ; P37.

Ratsupa Thammaphorn, Pornthip Boonsri, Kiattawee Choowongkomon, Supanna Techasakul, Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato, and Supa Hannongbua

NMR investigation of non- nucleoside inhibitors binding to HIV-1 reverse transcriptase

RGJ-Ph.D. Congress XV 2014 年 5 月 29 日 (Pattaya) ; S2-P13.

矢木宏和

ジストログリカン糖鎖の構造解析と本糖鎖を形成する酵素複合体の同定

新学術領域「神経糖鎖生物学」春の班会議 2014 年 5 月 26, 27 日 (掛川)

蜷川 暁

小胞体での N 型糖鎖マンノースのトリミングは EDEM2 によって開始される

平成 26 年度 比較グライコーム研究会 2014 年 6 月 7 日 (名古屋) ; S7.

山口拓実【受賞講演】

揺らめく糖鎖のかたちとはたらき

「宇宙・生命・脳・物質・エネルギー」若手研究者による Rising Sun III
—自然科学研究機構若手研究者賞記念講演— 2014 年 6 月 15 日 (東京)

加藤晃一, 佐藤匡史【招待講演】

プロテアソームのサブユニット集合における動的秩序

Dynamic ordering in proteasomal subunit assembly

第 14 回 日本蛋白質科学会年会 2014 年 6 月 26 日 (横浜) ; 2WE-06.

佐藤匡史, 年森隆泰, 山口拓実, Zhu Tong, 加藤晃一

小胞体品質管理システムに関わるグルコシダーゼ II の基質認識機構

Substrate recognition mechanism of glucosidase II involved in ER quality control system

第 14 回 日本蛋白質科学会年会 2014 年 6 月 26 日 (横浜) ; 2P-032.

年森隆泰, 佐藤匡史, Gengwei Yan, 山口拓実, Tong Zhu, 加藤晃一
糖タンパク質の細胞内プロセッシングに関わるグルコシダーゼ II の基質認識メカニズム

第 12 回 次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2014)
2014 年 7 月 14 日 (箱根); A-2.

北沢創一郎, 雲亜友美, 亀田倫史, 矢木真穂, 加藤晃一, Nicola J. Baxter, Michael P. Williamson, 北原 亮

蛋白質、高エネルギー状態の立体構造解析と分子認識機構の解明

第 12 回 次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2014)
2014 年 7 月 14 日 (箱根); A-13.

金川真由美, 池田明美, 佐藤匡史, 安達禎之, 大野尚仁, 山口芳樹

自然免疫に関与する β -グルカン結合タンパク質 β -GRP のモデル多糖の認識に関する研究

第 12 回 次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2014)
2014 年 7 月 15 日 (箱根); A-16.

加藤晃一【招待講演】

生命分子の動的秩序形成におけるミクロ-マクロ相関の探査と設計原理の探求

新学術領域「動的秩序と機能」平成 26 年度全体班会議
2014 年 8 月 6 日 (小松)

Tadashi Satoh, Takayasu Toshimori, Takumi Yamaguchi, Tong Zhu, and Koichi

Kato

Structural basis for substrate recognition mechanism of ER glucosidase II

23rd Congress and General Assembly of the International Union of
Crystallography (IUCr 2014)

2014 年 8 月 7 日 (Montreal); MS21.004.

加藤晃一【招待講演】

生命分子構造学を基礎とする生命分子システムの動的秩序形成の仕組みの探求

第 54 回生物物理若手の会 夏の学校 2014 年 8 月 10 日 (蒲郡)

蜷川 暁, 岡田徹也, 住友嘉樹, 神谷由紀子, 堀本 賢, 石川時郎, 武田俊一, 佐久間
哲史, 山本 卓, 加藤晃一, 森 和俊

小胞体で新生タンパク質に付加された N 型糖鎖からのマンノーストリミングは
EDEM2 によって開始される

第 33 回 日本糖質学会年会 2014 年 8 月 11 日 (名古屋); B2-05.

年森隆泰, 佐藤匡史, Gengwei Yan, 山口拓実, Tong Zhu, 加藤晃一

小胞体グルコシダーゼ II の基質認識メカニズムの構造基盤

第 33 回 日本糖質学会年会 2014 年 8 月 11 日 (名古屋); P-054.

小川光貴, 河合崇生, 西尾俊亮, 灘野大太, 松田 幹, 矢木宏和, 加藤晃一, 古川鋼一,
岡島徹也

アダムズ-オリバー症候群に関連する EOGT 遺伝子変異は ER 型 O-GlcNAc 修飾の欠損
を引き起こす

第 33 回 日本糖質学会年会 2014 年 8 月 12 日 (名古屋) ; B4-07(a).

矢木宏和, 中川直樹, 齋藤拓也, 戸田達史, Sz-Wei Wu, Kay-Hooi-Khoo, 岡 昌吾,
加藤晃一

AGO61 はラミニン結合性糖鎖の初期構造の形成に関与する

第 33 回 日本糖質学会年会 2014 年 8 月 12 日 (名古屋) ; B5-07.

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, Yukiko Kamiya, Sayoko Yamamoto, and Koichi
Kato

Exploration of conformational dynamics of oligosaccharides by stable isotope- and
lanthanide- assisted NMR approaches

XXVIth ICMRBS 2014 年 8 月 28 日 (Dallas) ; ThOG.

Takumi Yamaguchi, Ying Zhang, Yukiko Kamiya, Sayoko Yamamoto, and Koichi
Kato

Exploration of conformational dynamics of oligosaccharides by stable isotope- and
lanthanide- assisted NMR approaches

XXVIth ICMRBS 2014 年 8 月 25 日, 28 日 (Dallas) ; P-093.

Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

NMR characterization of molecular recognition process of intrinsically disordered
proteins associated with neurodegenerative diseases

XXVIth ICMRBS 2014 年 8 月 25 日, 28 日 (Dallas) ; P-187.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural views of physiological and pathological roles of glycans

Academia Sinica Institutional Lecture 2014 年 9 月 12 日 (Taipei)

Yan Gengwei, Zhang Ying, 山口拓実, 矢木宏和, 加藤晃一

Lewis X 構造を提示するネオ糖脂質クラスターの創生

第 8 回バイオ関連化学シンポジウム 2014 年 9 月 12 日 (岡山) ; 2P-080.

Koichi Kato 【招待講演】

Structural basis for fate determination and functional regulation of proteins
mediated by sugar chains

The Cordeliers Research Center Seminar 2014年9月19日 (Paris)

Koichi Kato 【基調講演】

NMR exploration of dynamic conformations and interactions of oligosaccharides and glycoconjugates

The "6th Iberoamerican NMR meeting // IV Iberian NMR meeting // VII Reunion Bienal del GERMN" 2014年9月24日 (Alcala de Henares)

佐藤匡史, 加藤晃一 【招待講演】

糖タンパク質品質管理システムにおける糖鎖修飾メカニズムの構造基盤

Structural basis for the glycan-processing mechanisms in glycoprotein quality control system

第52回 日本生物物理学会年会 2014年9月26日 (札幌) ; 2SBP-04.

Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato

NMR characterization of molecular recognition process of intrinsically disordered proteins associated with neurodegenerative diseases

第1回「動的秩序と機能」若手研究会 2014年9月28日 (宮城県刈田郡) ; P01.

Tong Zhu, Tadashi Satoh, Koichi Kato

Crystal structure of third thioredoxin-like domain of ER folding sensor glucosyltransferase

第1回「動的秩序と機能」若手研究会 2014年9月28日 (宮城県刈田郡) ; P03.

山口拓実, 佐藤匡史, 加藤晃一

生命分子の動的秩序形成におけるミクロ-マクロ相関の探査と設計原理の探求

第1回「動的秩序と機能」若手研究会 2014年9月29日 (宮城県刈田郡) ; P02.

年森隆泰, 佐藤匡史, Gengwei Yan, 山口拓実, Tong Zhu, 加藤晃一

小胞体糖タンパク質品質管理に関わるグルコシダーゼ II の基質認識機構

第1回「動的秩序と機能」若手研究会 2014年9月29日 (宮城県刈田郡) ; P04.

矢木-内海真穂 【依頼講演】

アミロイドβの分子会合の精密構造解析

第1回「動的秩序と機能」若手研究会 2014年9月30日 (宮城県刈田郡)

加藤晃一 【招待講演】

NMR と SANS による生命分子のダイナミクス研究

平成26年度 第1回 生物構造学研究会 2014年10月3日 (東京)

佐藤匡史 【招待講演】 【シンポジウム】

Structural insights into glycoprotein processing mechanisms in ER quality control system

小胞体品質管理機構における糖タンパク質修飾メカニズムの構造的知見

第 87 回 日本生化学会大会 2014 年 10 月 15 日 (京都) ; 1s05.

加藤晃一【招待講演】【シンポジウム】

Structural diversity and conformational polymorphism of *N*-glycans related to regulations of protein functions

タンパク質機能の制御に関わる *N*型糖鎖構造の多様性と多型性

第 87 回 日本生化学会大会 2014 年 10 月 17 日 (京都) ; 3s05P.

加藤晃一【招待講演】

X 線と NMR による抗体の構造解析

第 87 回 日本生化学会大会 2014 年 10 月 17 日 (京都) ; 4F06-4.

矢木宏和

NMR を利用した抗体の高次構造バリデーション

第 5 回 グライコバイオロジクス研究会 2014 年 11 月 1 日 (神戸)

服部良一, 山口拓実, Zhang Ying, 亀田倫史, 加藤晃一, 藤原敏道, 児嶋長次郎

硬直な構造をもつ新規ランタニドキレート剤を用いたタンパク質の常磁性 NMR 研究

第 53 回 NMR 討論会 2014 年 11 月 4 日 (吹田) ; P14.

Koichi Kato, Takumi Yamaguchi, Maho Yagi-Utsumi, Hirokazu Yagi, and Tadashi Satoh【依頼講演】

A multilateral approach for structural characterization of dynamic organization of flexible biomolecules

Okazaki Institute for Integrative Bioscience Retreat 2014.
2014 年 11 月 5 日 (岡崎)

Kentaro Ishii, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Susumu Uchiyama

Complex formation of proteasome subunits investigated by native mass spectrometry

Okazaki Institute for Integrative Bioscience Retreat 2014.
2014 年 11 月 5 日 (岡崎) ; Poster #06.

Arunima Sikdar, Tadashi Satoh, Masato Kawasaki, and Koichi Kato

Three-dimensional structure of archaeal homolog of proteasome assembly chaperone PbaA

Okazaki Institute for Integrative Bioscience Retreat 2014.

2014年11月5日（岡崎）;Poster #35.

Maho Yagi-Utsumi, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

Assembly mechanisms of intrinsically disordered proteins upon their specific interactions with gangliosides

Okazaki Institute for Integrative Bioscience Retreat 2014.

2014年11月5日（岡崎）;Poster #43.

Naoki Nakagawa, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Shogo Oka

AGO61, a causative gene for dystroglycanopathy, is required for the maintenance of the basement membrane integrity and neuronal migration

Neuroscience 2014 2014年11月15-19日（Washington, DC）

Hirokazu Yagi, Naoki Nakagawa, Shogo Oka, and Koichi Kato

Molecular mechanisms underlying the formation of laminin-binding glycans displayed on α -dystroglycan

Sarellite Symposium II “Glycans in Neuroscience”

2014年11月16日（Honolulu）; B20.

SFG&JSCR 2014 Joint Annual Meeting

2014年11月19日（Honolulu）; B238.

Satoshi Ninagawa, Tetsuya Okada, Yoshiki Sumitomo, Yukiko Kamiya, Satoshi Horimoto, Tokiro Ishikawa, Shunichi Takeda, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Koichi Kato, and Kazutoshi Mori

EDEM1/2/3 are α 1,2-mannosidases essential for endoplasmic reticulum-associated degradation of glycoproteins

Sarellite Symposium II “Glycans in Neuroscience”

2014年11月16日（Honolulu）; B21.

Mitsutaka Ogawa, Pawel Bieniasz-Krzywiec, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Uiro Usukura, Koichi Furukawa, and Tetsuya Okajima

Role of extracellular O-GlcNAc in Notch signaling, retinal vascular development, and blood brain barrier function

Sarellite Symposium II “Glycans in Neuroscience”

2014年11月16日（Honolulu）; B47.

Tadashi Satoh, Takayasu Toshimori, Kosuke Suzuki, Takumi Yamaguchi, Gengwei Yan, Tong Zhu, and Koichi Kato 【招待講演】

Structural basis for recognition of the terminal glucose tag of N-glycans as fate-determinant of glycoproteins in cells

The 7th Korea-Japan Seminars on Biomolecular Sciences:
Experiments and Simulations

2014年11月27日（Seoul）

山口拓実

分子分光法と分子シミュレーションを用いて水中で絶え間なく揺らいでいる糖鎖の立体構造を描き出す

第 3 回 NINS Colloquium 2014 年 12 月 1 日 (箱根) ; ポスターNo.23.

Koichi Kato 【招待講演】

Biophysical exploration of biomolecular systems characterized by conformational dynamics and dynamical assembly

National Chiao Tung University Seminar 2014 年 12 月 12 日 (Hsinchu)

【分子生物薬学分野】

(原報)

Makoto Nishizuka, Takahiro Hayashi, Mami Asano, Shigehiro Osada, and Masayoshi Imagawa.

KCNK10, a tandem pore domain potassium channel, is a regulator of mitotic clonal expansion during the early stage of adipocyte differentiation.

Int. J. Mol. Sci., 15, 22743-22756 (2014).

(学会発表)

加藤大輝, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

がん細胞の浸潤における脂肪細胞分化関連因子 fad104 の役割

第 134 年会 日本薬学会 2014 年 3 月 29 日 (熊本) ; 29Y-pm02S

西塚誠, 岸本圭史, 加藤大輝, 和木雅宏, 長田茂宏, 今川正良

骨分化過程における脂肪細胞分化促進因子 fad104 の機能解析

第 134 年会 日本薬学会 2014 年 3 月 30 日 (熊本) ; 30Y-pm16

今川正良【特別講演】

脂肪細胞分化を制御する新規遺伝子の多彩な機能

第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム 2014 年 5 月 23 日 (名古屋) ; TS1

加藤大輝, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化制御因子 fad104 はがん細胞の浸潤・転移を抑制する

第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム 2014 年 5 月 24 日 (名古屋) ; B2-4

落合なつき, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化促進因子 fad24 は胚盤胞形成に必須な機能を担う

第 78 回 日本生化学会中部支部例会 2014 年 5 月 24 日 (名古屋) ; P16

Daiki Katoh, Makoto Nishizuka, Shigehiro Osada, Masayoshi Imagawa

Fad104, a regulatory factor of adipogenesis, negatively regulates invasion and metastasis of cancer cells.

FEBS-EMBO 2014 Conference 2014 年 9 月 2 日 (Paris, France) ; TUE-103

芝田裕一, 小松浩大, 今川正良, 長田茂宏

オートファジー誘導時とヒストンバリエント H2A.Z の発現

第 1 回 名市大エピジェネティクス研究会 2014 年 9 月 4 日 (南木曾)

長田茂宏

化学発がん過程において発現上昇するヒストン修飾因子の解析

第 1 回 名市大エピジェネティクス研究会 2014 年 9 月 4 日 (南木曾)

加藤大輝, 西塚誠, 長田茂宏, 今川正良

脂肪細胞分化制御因子 *fad104* のがん細胞の浸潤・転移における機能解明

第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2014

2014 年 9 月 20 日 (富山) ; 1B2

山口桃子, 市岡香貴, 今川正良, 長田茂宏

ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC9 が相互作用するハンチントン病関連因子 HAP1 の領域の解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014

2014 年 11 月 9 日 (静岡) ; G-13

Shigehiro Osada, Yukari Funaki, Yuichi Matsuo, Masayoshi Imagawa.

Characterization of coactivator-associated arginine methyltransferase 1, CARM1, induced at the early stage of hepatocarcinogenesis.

第 37 回日本分子生物学会年会 2014 年 11 月 25 日 (横浜) ; 1P-0257

【薬物送達学分野】

(原報)

Maeno Y, Fukami T, Kawahata M, Yamaguchi K, Tagami T, Ozeki T, Suzuki T, Tomono K.

Novel pharmaceutical cocrystal consisting of paracetamol and trimethylglycine, a new promising cocrystal former.

Int J Pharm. (2014) 473(1-2):179-86.

Ozeki T, Tagami T.

Drug/polymer nanoparticles prepared using unique spray nozzles and recent progress of inhaled formulation.

Asian J Pharm Sci. (2014) 9(5):236-43. Review.

Tagami T, Imao Y, Ito S, Nakada A, Ozeki T.

Simple and effective preparation of nano-pulverized curcumin by femtosecond laser ablation and the cytotoxic effect on C6 rat glioma cells in vitro.

Int J Pharm. (2014) 468(1-2):91-6.

Naito Y, Terukina T, Galli S, Kozai Y, Vandeweghe S, Tagami T, Ozeki T, Ichikawa T, Coelho PG, Jimbo R.

The effect of simvastatin-loaded polymeric microspheres in a critical size bone defect in the rabbit calvaria.

Int J Pharm. (2014) 461(1-2):157-62.

Tetsuo Ogata, Daisuke Tanaka, and Tetsuya Ozeki,

Enhancing the solubility and masking the bitter taste of propiverine using crystalline complex formation.

Drug Dev. and Ind. Pharm. (2014) 40(8), 1084-1091.

邦文・総説・著書 (参考程度)

田上 辰秋, 尾関 哲也.

「他分野との融合・連携が生み出す新しい製剤学・ドラッグデリバリーシステム研究」

PHARM TECH JAPAN. 30(11): 135-140 (2014)

田上 辰秋, 尾関 哲也.

「経肺投与型製剤の動向および 2 液混合型スプレーノズルによるナノコンポジット粒子製造技術の開発と応用」

医薬ジャーナル. 50(9): 67-72 (2014)

【生薬学分野】

(原報)

Toshiaki Makino, Yusaku Shiraki, Hajime Mizukami
Interaction of Gypsum and the rhizome of *Anemarrhena asphodeloides* plays an important role in anti-allergic effects of byakkokakeishito in mice
J. Nat. Med. 68(3): 505-512 (2014)

Kosei Tsukamoto, Kyosuke Yamamoto, Toshiaki Makino
Counteractive effect of *Paeonia lactiflora* root constituent mudanpioside E against suppressive effect of Shoseiryuto-extract on passive cutaneous anaphylaxis reaction in mice
J. Ethnopharmacol. 153(3): 884-889 (2014)

Baiyang Zhao, Yohei Sakurai, Kiyosumi Shibata, Fumitaka Kikkawa, Yutaka Tomoda, Hajime Mizukami
Cytotoxic fatty acid ketodiens from eggplants
Jap. J. Food Chem. Safety. 21(1): 42-47 (2014)

Masahiro Ohsawa, Saki Otake, Tomoyasu Murakami, Shohei Yamamoto, Toshiaki Makino, Hideki Ono
Gabapentin prevents oxaliplatin-induced mechanical hyperalgesia in mice
J. Pharmacol. Sci. 125(3): 292-299 (2014)

Lei Zhou, Wen Qi, Cong Xu, Toshiaki Makino, Dan Yuan
A rapid method for simultaneous determination of 52 marker compounds in Xiao-Qing-Long-Tang by ultra-high performance liquid chromatography coupled with quadrupole time-of-flight mass spectrometry
J. Sep. Sci. 37(22): 3260-3267 (2014)

笛木司、松岡尚則、牧野利明、並木隆雄、別府正志、山口秀敏、中田英之、頼建守、萩原圭祐、田中耕一郎、長坂和彦、須永隆夫、李宜融、岡田研吉、岩井祐泉、牧角和宏
敦煌本に基づく『本草経集注』の権衡と方寸匕の量についての検討—傷寒論成立時代の度量衡—
日本東洋医学雑誌 65(1): 38-45 (2014)

笛木司、松岡尚則、牧野利明、並木隆雄、別府正志、山口秀敏、中田英之、頼建守、萩原圭祐、田中耕一郎、須永隆夫、長坂和彦、岡田研吉、岩井祐泉、牧角和宏
『宋板傷寒論』の権衡の検討～生薬カスの吸着水量とマオウアルカロイドの煎出効率に着目して～
日本東洋医学雑誌 65(2): 61-72 (2014)

(総説・著書・総合論文など)

Toshiaki Makino,

3-Monoglucuronyl glycyrrhretinic acid is a possible marker compound related to licorice-induced pseudoaldosteronism

Biol. Pharm. Bull. **37**(6): 898-902 (2014)

牧野利明

漢方薬理・最前線～六君子湯②

phil 漢方 **47**, 9-11 (2014).

牧野利明

漢方薬理・最前線～柴苓湯①

phil 漢方 **49**, 9-11 (2014).

牧野利明

漢方薬理・最前線～柴苓湯②

phil 漢方 **51**, 10-13 (2014).

牧野利明

柴苓湯の抗炎症作用（腎疾患に対するメカニズム）

Science of Kampo Medicine **38**(2), 114-117 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬の話

漢方の臨床 **61**(1), 80-81 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第19回～米国での生薬の状況

医薬経済 1月15日号, 50-51 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第20回～欧州での生薬の状況

医薬経済 3月15日号, 68-69 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第21回～日本における新しい西洋ハーブ薬

医薬経済 4月15日号, 48-49 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第22回～日中で基原植物が異なる例

医薬経済 5月15日号, 46-47 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第23回～生物の多様性に関する条約

医薬経済 6月15日号, 46-47 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第24回～ISO問題

医薬経済 7月15日号, 48-49 (2014).

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第25回～ISO問題②、生薬・漢方薬の分類法
医薬経済 8月15日号, 46-47 (2014)

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第26回～漢方医学の流派
医薬経済 9月15日号, 46-47 (2014)

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第27回～ドーピングと生薬
医薬経済 10月15日号, 48-49 (2014)

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第28回～漢方薬以外の生薬の用途
医薬経済 11月15日号, 48-49 (2014)

牧野利明

今さら聞けない生薬・漢方薬 第29回～妊娠中の生薬・漢方薬の使用
医薬経済 12月15日号, 46-47 (2014)

寺坂和祥

有用物質生産機構の解明 (イリドイド生合成における配糖化と生合成経路)
薬用植物・生薬の開発と今後の展望 (シーエムシー出版), 140-147 (2014)

(学会発表)

Toshiaki Makino

Gene Identification of Baizhu and Cangzhu, and their pharmacological differences
The Founding Conference & the 1st Annual Conference of Specialty Committee of
TCM Pharmacognosy of the World Federation of Chinese Medicine Societies,
2014年1月11日 (Harbin, China)

牧野利明

薬物動態学を応用した生薬学研究
大阪生薬協会、2014年2月3日 (大阪)

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～人参湯、六君子湯、茯苓飲
東海漢方協議会、2014年2月9日 (名古屋)

牧野利明

漢方エキス製剤の特徴と問題点
平成25年度北陸調剤フォーラム、2014年2月23日 (金沢)

尾崎和成、牧野利明、蔭山 充、竹屋 泰、中村好男

韓国伝統医学の現状と展望～第 16 回国際東洋医学会(ソウル)に参加して～

第 3 1 回日本東方医学会、2014 年 2 月 23 日 (東京)

牧野利明

初心者のための重要漢方処方～荊芥連翹湯、柴胡清肝湯、防風通聖散

東海漢方協議会、2014 年 3 月 9 日 (名古屋)

牧野利明

生薬・漢方薬に関する医療薬学的諸問題

調剤漢方フォーラム、2014 年 3 月 21 日 (大阪)

牧野利明

配糖化によるクルクミンの消化管吸収改善の試み【シンポジスト講演】

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 29 日 (熊本) ; S22-3

鈴木俊章、横山尚美、大澤匡弘、牧野利明、水上 元

オキサリプラチンによるマウス脊髄後根神経節細胞障害に対する加工ブシの保護作用とその有効成分

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 28pmM-220

高 勝莉、牧野利明、水上 元

Ginsenoside 類の消化管吸収を担うトランスポーターの探索

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 29amM-074

東 千尋、寺坂和祥、佐藤文彦、矢崎一史、守安正恭、土反伸和

アキカラマツ培養細胞からの ABCB-type ABC 輸送体 TmABCB1、TmABCB2 の単離および解析

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 29pmS-012

木村雪乃、鮎川美奈子、永利麻衣、寺坂和祥、水上 元

クチナシ由来アルデヒドデヒドロゲナーゼの機能解析と crocin 生産への応用

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 29pmS-014

渥美さやか、牧野利明、伊藤美千穂、能勢充彦、鄭 美和、三上正利、柴原直利、花輪壽彦、一般用漢方製剤委員会、袴塚高志、合田幸広

一般用漢方製剤の安全性確保に関する研究 (3) : 「安全に使うための漢方処方の確認票」の実用化に向けたアンケート調査

日本薬学会第 1 3 4 年会、2014 年 3 月 28 日 (熊本) ; 30amM-192

牧野利明

漢方エキス製剤の使い方と問題点【特別講演】

第 4 2 回日本小児東洋医学会、2014 年 4 月 13 日 (名古屋)

牧野利明

普段は見られない教育のための植物園

瑞穂生涯学習センター前期講座、2014 年 6 月 24 日 (名古屋)

牧野利明

甘草による偽アルドステロン症に関する基礎研究とその臨床への応用【シンポジスト
講演】

医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム、
2014 年 6 月 28 日（東京）；S3-1

牧野利明

五苓散の製造方法

第16回日本漢方交流会漢方薬剤師育成研修会、2014年7月6日（京都）

牧野利明

漢方薬の副作用、偽アルドステロン症発症予防のためのマーカーの開発

第 2 6 回東洋医学に関する学術研究報告会、2014年7月12日（名古屋）

牧野利明

“Clinical Pharmacognosy” Integration between Pharmacognosy and Clinical
Pharmacy

北京大学医学部薬学院特別セミナー、2014 年 7 月 24 日（北京）

牧野利明【特別講演】

漢方エキス剤の使い方と問題点

第 24 回日本東洋医学会関東甲信越支部神奈川県部会学術大会
2014 年 7 月 27 日（横浜）

牧野利明

臨床生薬学

2014 年度医学生のための漢方医学セミナー、2014 年 8 月 7 日（大津）

渡邊智暉、全 智揚、牧野利明

防風通聖散の有機アニオン輸送ペプチド（OATP）2B1 阻害作用

第 3 0 回和漢医薬学会学術大会、2013 年 8 月 31 日（金沢）；O-16

牧野利明

ソウジュツとビャクジュツの違いについて

第 25 回北海道東洋医学シンポジウム、2014 年 9 月 6 日（当別町、北海道）；2

牧野利明

国家試験における漢方薬に関する出題について～現状と課題（報告と私見）

生薬学・天然物化学教科担当教員会、2014 年 9 月 12 日（福岡）

趙伯陽、桜井陽平、柴田清住、吉川文孝、友田 豊、牧野利明、水上 元

ナス果実に含まれるヒト卵巣がん由来 HRA20 細胞致死活性成分の探索とその作用機
序解析

日本生薬学会第 6 1 回年会、2013 年 9 月 13-14 日（福岡）；2P-24

笛木司、並木隆雄、別府正志、牧野利明

宋代の煮散法にヒントを得た、簡便かつ成分抽出効率良好な煎薬調製法の開発

日本東洋医学会関東甲信越支部新潟県部会学術大会

2014年9月21日（新潟）；11

牧野利明【特別講演】

漢方エキス製剤の使い方と問題点

日本東洋医学会関東甲信越支部新潟県部会学術大会、2014年9月21日（新潟）

牧野利明

秋の薬用植物園を歩く

東洋医学に関する市民公開講演会、2014年10月18日（名古屋）

Yasuyuki Hirose, Toshiaki Makino, Hiromichi Yasui, Kazunari Ozaki, Masayuki Kashima, Toshihiro Togo, Kengo Nakata, Munenori Saito, Hidemi Shiomoto, Hiroshi Asama, Shunsei Yamamoto

Multi-perspective coding design for representing the indications of traditional medicinal products

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月2日（台北）；B3-02

Tsukasa Fueki, Takanori Matsuoka, Toshiaki Makino, Takao Namiki, Masashi Beppu, Hidetoshi Yamaguchi, Hideyuki Nakata, Kenshu Rai, Keisuke Hagihara, Koichiro Tanaka, Kazuhiko Nagasaka, Takao Sunaga, I-Jung Lee, Kenkichi Oakada, Yusen Iwai, Kazuhiro Makizumi

The weights in “Ben Cao Jing Ji Zhu” (Dun Huang version) and the volume of a Fang Cun Bi (one cun square spoon): Weights and measures in the period when “Shan Han Lun”

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月2日（台北）；P1-07

Toshiaki Makino, Masayuki Kashima, Munenori Saito, Kengo Nakata, Kazunari Ozaki, Hidemi Shiomoto, Hiroshi Asama, Shunsei Yamamoto, Toshihiro Togo, Yasuyuki Hirose, Hiromichi Yasui

Toward harmonization and integration of the knowledge of traditional medicines and modern sciences— Designation, concept, coding, and mapping —

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月2日（台北）；P2-06

Masaaki Minami, Toru Konishi, Toshiaki Makino

Sin'iseihaito (Xin Yi Qing Fei Tang) suppress the biofilm formation of *Streptococcus pneumoniae*

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月2日（台北）；P3-24

Toru Konishi, Masaaki Minami, Toshiaki Makino

Antibacterial activity of shin'iseihaito against *Streptococcus pneumoniae*

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月2日(台北); P5-06

Toshiaki Suzuki, Ayano Yamamoto, Masahiro Ohsawa, Yoshiharu Motoo, Toshiaki Makino

Protective effect of ninjin'yoeito on oxaliplatin-induced in vitro neurodegeneration and its active ingredients

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月3日(台北); P5-09

Takumi Adachi, Toshiaki Suzuki, Naomi Yokoyama, Mayuko Sugi, Akina Kagioka, Keisuke Miyamoto, Masahiro Ohsawa, Toshiaki Makino

Rieving effect of processed aconite root on oxaliplatin-induced neuropathic pain and its active constituent

The 17th International Congress of Oriental Medicine.

2014年11月3日(台北); P5-10

牧野利明

配糖化による難溶性天然物の消化管吸収改善の試み【シンポジスト講演】

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014、
2014年11月9日(静岡)

牧野利明

第5回 ISO/TC249 全体会議 WG5 に参加して

第44回日本東洋医学会東海支部学術総会、2014年11月16日(名古屋); 1

Toshiaki Makino

The effect of processed aconite root on oxaliplatin-induced neuropathic pain and its active constituent

沈阳药科大学特別セミナー、2014年11月24日(沈阳)

Toshiaki Makino

The effect of processed aconite root on oxaliplatin-induced neuropathic pain and its active constituent

黒竜江中医药薬大学特別セミナー、2014年11月26日(哈尔滨)

牧野利明

医学生のための生薬学入門

大阪大学特別セミナー、2014年12月3日(大阪)

牧野利明、笛木司、松岡尚則

『宋板傷寒論』の権衡の検討

日本薬史学会中部支部平成26年度例会、2014年12月6日(名古屋)

牧野利明

漢方エキス製剤の特徴と問題点

東海漢方協議会、2014年12月7日（名古屋）

【衛生化学分野】

(原報)

Jun Ishii, Asami Oda, Shota Togawa, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara, Chiaki Ogino, Akihiko Kondo

Microbial fluorescence sensing for human neurotensin receptor type 1 using Gα-engineered yeast cells.

Analytical Biochemistry 446, 37–43 (2014)

Saotomo Itoh, Kumi Kawano, Kana Takeshita, Yoshie Maitani, Tsutomu Tsuji

Development of liposomal nanoconstructs targeting P-selectin (CD62P)-expressing cells by using a sulfated derivative of sialic acid.

Pharmaceutical Research 31, 2868-2875 (2014)

(特許申請)

「ワクチンアジュバント及び免疫増強剤，特願 2014-140033，2014/7/7」

発明者：瀧井猛将，小野寄菊夫，山中淳平，伊藤佐生智，北川慎也，竹野聖史。

出願人：公立学校法人 名古屋市立大学

(学会発表)

貞廣 暁利

Analyses of cell type specific translation from the IRES mRNA derived from two different Poliovirus strains

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

高辻 良文

Translational regulation by HuD through the interaction with eIF3

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

矢野 雄暉

Effect of eIF4B phosphorylation by active Akt1 recruited into cap binding complex by HuD on translation

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

大塚 衆志

Functional relationship between HuD and Paip2 in differentiation of PC12 cells

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

青山 智彦

Dissecting roles of Paip1 in HuD mediated translation activation

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

大島 卓弥

Analyses of neuronal RNA binding protein HuD ①

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

岩井 紀貴

Analyses of neuronal RNA binding protein HuD ②

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

山田 由佳

In vitro selection of RNA aptamer to SSTRs

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

伊藤 佐生智

Identification of host target proteins of staphylococcal superantigenlike exotoxins.

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日（長野）

深尾 亜喜良

Novel cell free translation system using human cultured cell lines

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日(長野)

藤原 俊伸

High-throughput screening approach combining siRNA reversetransfection
and reporter mRNA transfection

第8回「長野ミーティング：生物資源の有効利用を目指して」

2014年3月2-4日(長野)

小川 翔大, 小川 賢二, 八木 哲也, 大原 直也, 後藤 義孝, 藤原 永年, 前田 伸司,
山崎 利雄, 伊藤 佐生智, 瀧井 猛将

菌体内pHの低下によるMycobacterium aviumのarcA mRNAの発現変化の解析

第87回日本細菌学会総会 2014年3月26~28日(千葉)

岩本 朋忠, 有川 健太郎, 中西 典子, 瀧井 猛将

ワクチン接種副反応患者の生体内で起こったBCG Tokyo 172株の微小進化

第87回日本細菌学会総会 2014年3月26~28日(千葉)

瀧井 猛将, 宮竹 佑治, 小川 翔大, 谷口 恵一, 伊藤 佐生智, 大原 直也, 前山 順
一, 林 大介, 山本 三郎

BCG Tokyo-172 Type I, Type II間の酸化ストレス感受性とマクロファージ内生存能
の比較研究

第87回日本細菌学会総会 2014年3月26~28日(千葉)

竹野 聖史, 秋田 邦彦, 足達 実季, 伊藤 佐生智, 山中 淳平, 北川 慎也,
早川 和一, 小野寄 菊夫, 瀧井 猛将

タバコ主流煙に含まれるマウスコラーゲン誘導性関節炎増悪活性物質の探索

日本薬学会 第134年会 2014年3月27-30日(熊本)

小川 翔大, 小川 賢二, 八木 哲也, 大原 直也, 後藤 義孝, 藤原 永年, 前田
伸司, 伊藤 佐生智, 筑比地 慧, 宮田 江里香, 高見 篤郎, 徳田 美季, 富田
陽香, 小野寄 菊夫, 瀧井 猛将

Mycobacterium aviumにおける酸性環境下でのアルギニンデイミナーゼの発現誘導機
構の解析

日本薬学会 第134年会 2014年3月27-30日(熊本)

瀧井 猛将, 小川 翔大, 谷口 恵一, 宮竹 佑治, 富田 陽香, 徳田 美季, 伊藤

佐生智, 大原 直也, 前山 順一, 林 大介, 山本 三郎
結核ワクチンBCG Tokyo 172 タイプI, タイプ II間の酸化ストレス感受性とマクロファージ内生存能及びサイトカイン誘導能の比較研究
日本薬学会第 134 年会 2014 年 3 月 27~30 日 (熊本)

瀧井猛将, 伊藤佐生智, 大原直也, 前山順一, 林 大介, 山本三郎
BCG Tokyo 172 Type I, Type II 間の酸化ストレス感受性とマクロファージ内生存能及びサイトカイン誘導能の比較研究
第 89 回日本結核病学会総会 2014 年 5 月 9,10 日 (岐阜)

伊藤佐生智, 小川賢二, 八木哲也, 瀧井猛将
マクロファージ感染 *Mycobacterium avium* に対するクラリスロマイシンとバフィロマイシンの相乗効果
第 89 回日本結核病学会総会 2014 年 5 月 9,10 日 (岐阜)

小川翔大, 山本龍二, 堀田康弘, 花村菜月, 筑比地慧, 宮田江里香, 高見篤郎, 徳田美季, 富田陽香, 小川賢二, 八木哲也, 大原直也, 藤原永年, 前田伸司, 山崎利雄, 西森敬, 後藤義孝, 伊藤佐生智, 小野寄菊夫, 瀧井猛将
Mycobacterium avium の酸性環境下におけるアルギニンデアミナーゼ誘導機構の解析
第 8 4 回実験結核研究会総会 2014 年 5 月 8 日 (岐阜)

伊藤 佐生智
黄色ブドウ球菌毒素 SSL の標的分子の探索
第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム
2014 年 5 月 23~24 日 (名古屋) 招待講演

Hiroshi Otsuka, Akira Fukao, Toshinobu Fujiwara
HuD accelerates cap-dependent translation in a distinct pathway from PABP mediated translation stimulation
RNA2014 2014 年 6 月 3~8 日(カナダ)

三野享史, 深尾亜喜良, 藤原俊伸, 竹内理
Regnase-1 は翻訳依存性に標的 mRNA を分解する
日本 RNA 学会年会 2014 年 7 月 23~25 日 (名古屋)

矢野雄暉, 深尾亜喜良, 藤原俊伸

活性化 Akt1 による eIF4B のリン酸化を介した RNA 結合タンパク質 HuD の cap 依存的翻訳の促進

日本 RNA 学会年会 2014 年 7 月 23~25 日 (名古屋)

大塚衆志、深尾亜喜良、藤原俊伸

cap-poly(A) mRNA の翻訳における HuD と PABP の相関関係

日本 RNA 学会年会 2014 年 7 月 23~25 日 (名古屋)

貞廣暁利、佐藤亮介、深尾亜喜良、野本明男、藤原俊伸

ポリオウイルスの細胞種特異的な IRES 依存的翻訳の解析

日本 RNA 学会年会 2014 年 7 月 23~25 日 (名古屋)

高辻良文、深尾亜喜良、藤原俊伸

HuD と eIF3 の相互作用による翻訳制御の解析

日本 RNA 学会年会 2014 年 7 月 23~25 日 (名古屋)

高見篤郎、富田陽香、前山順一、山本三郎、瀧井猛将

Mycobacterium bovis BCG の酸化ストレスによる redox 関連遺伝子発現変化の解析

フォーラム 2014 衛生薬学・環境トキシコロジー

2014 年 9 月 19, 20 日 (筑波)

【遺伝情報学分野】

(原報)

Yamagishi, R., Hosoda, N., Hoshino, S. (2014)

Arsenite inhibits mRNA deadenylation through proteolytic degradation of Tob and Pan3.

Biochem Biophys Res Commun 455, 323-331.

Ogami, K., Hosoda, N., Funakoshi, N., Hoshino, S. (2014)

Anti proliferative protein Tob directly regulates c-myc proto-oncogene expression through cytoplasmic polyadenylation element-binding protein CPEB.

Oncogene 33, 55-64.

Hashimoto, Y., Kumagai, N., Hosoda, N., Hoshino, S. (2014)

The processed isoform of the translation termination factor eRF3 localizes to the nucleus to interact with the ARF tumor suppressor.

Biochem Biophys Res Commun 445, 639-644.

(特許申請)

名称：人工合成 mRNA を細胞内において安定化させる方法

発明者：星野真一、細田直、野木森拓人

権利者：名古屋市立大学

種類：特許

番号：特願 2014-98133

出願年月日：平成 26 年 5 月 9 日（12 月 26 日追加出願）

国内外の別：国内

名称：人工合成 mRNA の翻訳効率化方法

発明者：星野真一、細田直、野木森拓人

権利者：名古屋市立大学

種類：特許

番号：特願 2014-107562

出願年月日：平成 26 年 5 月 23 日

国内外の別：国内

(学会発表)

星野真一

人工キメラ遺伝子 ZFN 安定発現系の構築

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 (B 型肝炎創薬実用化等研究事業) 班会議
2014 年 12 月 25 日 (東京)

Fukushima, M., Wakita, E., Hosoda, N., Hoshino, S.

Control of mRNA deadenylation by apoptosis signal regulating kinase (ASK1)

4th Zing Nucleic Acids Conference
2014 年 12 月 5-9 日 (メキシコ、カンクン)

Hashimoto, Y., Nakamura, Y., Hoshino, S.

A eRF3-targeted novel regulatory system in gene expression and apoptosis

Joint Australia and Japan RNA Meeting
2014 年 11 月 2-5 日 (オーストラリア、シドニー)

星野真一

mRNA 分解の分子メカニズムと遺伝子発現調節

自然科学研究機構生理学研究所／統合バイオサイエンスセンター部門公開セミナー
2014 年 9 月 12 日 (岡崎) 【招待講演】

星野真一

mRNA 分解機構の解明と人工合成 mRNA の安定化

アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム 2014
2014 年 9 月 9 日 (東京) 【招待講演】

西浦 久達、野木森 拓人、川島 生、細田 直、星野 真一

eRF3 ファミリーに属する G タンパク質 GTPBP1 の機能解析

第 16 回日本 RNA 学会年会、 2014 年 7 月 23-25 日 (名古屋)

福島 真、脇田 恵里、細田 直、星野 真一

ストレスキナーゼ Ask1 による mRNA ポリ A 鎖分解の制御
第 16 回日本 RNA 学会年会、 2014 年 7 月 23-25 日 (名古屋)

稲垣 佑都、成瀬 貴文、細田 直、星野 真一

脊髄小脳変性症の原因遺伝子 Ataxin-2 は mRNA デキャッピングを促進する

第 16 回日本 RNA 学会年会、 2014 年 7 月 23-25 日 (名古屋)

ベストプレゼンテーション賞優秀賞受賞

野木森 拓人、西浦 久達、川島 生、細田 直、星野 真一

B型肝炎の治療を目指した人工合成 mRNA の安定化・高効率発現系の確立

第 16 回日本 RNA 学会年会、 2014 年 7 月 23-25 日 (名古屋)

山岸 良多、杉山 遥、富田 一範、成瀬 貴文、細田 直、星野 真一

ストレス時の mRNA 安定化とストレス顆粒形成の分子機構

第 16 回日本 RNA 学会年会、 2014 年 7 月 23-25 日 (名古屋)

ベストプレゼンテーション賞優秀賞受賞

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Ohshiro J, Yamamura H, Saeki T, Suzuki Y, Imaizumi Y.

The multiple expression of Ca²⁺-activated Cl⁻ channels via homo- and hetero-dimer formation of TMEM16A splicing variants in murine portal vein.

Biochem Biophys Res Commun. 443(2): 518-23 (2014).

Ohya S, Fukuyo Y, Kito H, Shibaoka R, Matsui M, Niguma H, Maeda Y, Yamamura H, Fujii M, Kimura K, Imaizumi Y.

Up-regulation of K_{Ca}3.1 K⁺ channel in mesenteric lymph node CD4⁺ T-lymphocytes from a mouse model of dextran sodium sulfate-induced inflammatory bowel disease.

Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 306(10): G873-85 (2014).

Mizutani H, Yamamura H, Muramatsu M, Kiyota K, Nishimura K, Suzuki Y, Ohya S, Imaizumi Y.

Spontaneous and nicotine-induced Ca²⁺ oscillations mediated by Ca²⁺ influx in rat pinealocytes

Am J Physiol Cell Physiol. 306(11): C1008-16 (2014).

Ohshiro J, Yamamura H, Suzuki Y, Imaizumi Y.

Modulation of TMEM16A-channel activity as Ca²⁺ activated Cl⁻ conductance via the interaction with actin cytoskeleton in murine portal vein

J Pharmacol Sci. 125(1): 107-11 (2014).

Ohba T, Xu J, Alexander DB, Yamada A, Kanno J, Hirose A, Tsuda H, Imaizumi Y.

MWCNT causes extensive damage to the ciliated epithelium of the trachea of rodents.

J Toxicol Sci. 39(3): 499-505 (2014).

Kito H, Yamamura H, Suzuki Y, Ohya S, Asai K, Imaizumi Y.

Membrane hyperpolarization induced by endoplasmic reticulum stress facilitates Ca²⁺ influx to regulate cell cycle progression in brain capillary endothelial cells.

J Pharmacol Sci. 125(2): 227-32 (2014).

(総説・著書・総合論文)

Susumu Ohya, Yuji Imaizumi.

Intermediate-conductance Ca^{2+} -activated K^+ channel $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$ and its related molecules in T-lymphocytes.

Inflamm. Cell Signal. 1: e327 (2014).

(学会発表)

大矢進、堀場さゆり、仲村恵梨奈、松井未来、山村寿男、今泉祐治
接触過敏症モデルマウスの耳介リンパ節 T リンパ球における Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル $\text{K}_{\text{Ca}3.1}$ の役割

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 15 日 (仙台) ; O2B2-1-1.

鈴木良明、松木克仁、竹本将士、山村寿男、大矢進、竹島浩、今泉祐治
マウス非妊娠・妊娠子宮平滑筋における細胞内 Ca^{2+} 制御機構機能解析

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 19 日 (仙台) ; O2G-5-3.

服部美波、丸山史登、鈴木良明、山村寿男、大矢進、今泉祐治
腎血管性高血圧モデルマウスにおける腸間膜動脈の血管張力に対する内向き整流性 K^+ チャネル ($\text{Kir}2.1$) の関与

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 19 日 (仙台) ; P1-9-9.

栗田卓、鈴木良明、山村寿男、大矢進、今泉祐治
ヒト由来軟骨肉腫細胞株 (OUMS-27) における Cl^- チャネルの分子実体の解明

第 87 回日本薬理学会年会、3 月 20 日(仙台) ; O2I-1-1.

西村歌織、山村寿男、今泉祐治
ラット松果体で機能発現する Ca^{2+} 活性化 Cl^- (TMEM16B)チャネル

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3F-1-4.

鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢進、浅井清文、今泉祐治
脳血管内皮細胞における CRAC チャネルを介した細胞周期制御機構の解明

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3H-1-1.

大城隼也、佐伯尚紀、山村寿男、鈴木良明、大矢進、今泉祐治
マウス門脈において機能発現する TMEM16A スプライスバリエント体の特性

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3H-1-4.

近藤 るびい、大城 隼也、鈴木 良明、山村 寿男、今泉 祐治

門脈圧亢進症モデルマウスの門脈における TMEM16A の発現解析

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3H-1-5.

鈴木良明、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

新規 BK α スプライスバリエント体による BK チャネル機能修飾機構の解析

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3I-1-3.

大羽輝弥、澤田英士、鈴木良明、山村寿男、大矢進、今泉祐治

蛍光ビーズを用いた気道クリアランス評価系の開発

第 87 回日本薬理学会年会、2014 年 3 月 21 日 (仙台) ; O3I-3-2.

鈴木良明、大矢 進、山村寿男、今泉祐治

BK チャネル - VDCC 複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオリン 1 / カベオラの寄与

日本薬学会第 134 年会、2014 年 3 月 30 日 (熊本) ; 30N-pm06.

鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢進、浅井清文、今泉祐治

脳血管内皮細胞の細胞周期進行に対する CARC チャネルの役割

日本薬学会第 134 回年会、2014 年 3 月 30 日 (熊本) ; 30N-pm13.

鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢進、浅井清文、今泉祐治

ストレス負荷脳血管内皮細胞における Kir2.1 チャネルを介した細胞死制御機構の解明

第 125 回日本薬理学会近畿部会、2014 年 6 月 20 日 (岡山) ; B-15.

仁熊宏樹、柴岡里奈、松井未来、丹羽里実、藤井正徳、奈邊健、今泉祐治、大矢進

炎症性腸疾患モデルの CD4 陽性リンパ球における Ca²⁺活性化 K⁺チャネル K_{Ca}3.1 活性化因子 NDPK-B 発現亢進と NDPK-B 阻害剤エラグ酸による炎症改善効果

第 125 回日本薬理学会近畿部会、2014 年 6 月 20 日 (岡山) ; C-07.

Hiroaki Kito, Hisao Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Kiyofumi Asai, and Yuji Imaizumi

Contribution of Orai2 to store-operated Ca²⁺ entry and the cell cycle progression in bovine brain capillary endothelial cells.

WCP 2014, 2014.7.16. (Cape Town); 1274.

Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, and Yuji Imaizumi

A novel BK α splice variant modulates BK channel expression on plasma membrane.

WCP 2014, 2014.7.16. (Cape Town); 1277.

Yoshiaki Suzuki, Munenori Inayama, Takashi Kurita, Susumu Ohya, Wayne R. Giles, Hisao Yamamura and Yuji Imaizumi

Orai1-Orai2-STIM1 Complex Induces Store-Operated Calcium Entry in Chondrocytes.

WCP 2014, 2014.7.16. (Cape Town);

Track 6 - Advances in signal transduction & ion channel.

山村寿男、大城隼也、佐伯尚紀、鈴木良明、今泉祐治

マウス門脈平滑筋細胞の Ca²⁺活性化 Cl⁻チャネルを担う TMEM16A の機能発現

第 56 回日本平滑筋学会総会、2014 年 8 月 7 日 (横浜) ; O3-3.

山村寿男、大城隼也、佐伯尚紀、鈴木良明、今泉祐治

マウス門脈平滑筋細胞に発現する Ca²⁺活性化 Cl⁻チャネル TMEM16A の機能解析

心血管膜輸送研究会 2014 心血管膜輸送分子の構造・機能・病態の統合的研究戦略、

2014 年 9 月 4 日 (岡崎) ; P9.

鈴木良明、山村寿男、大矢 進、今泉祐治

BKCa-Cav1.2 複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオリン 1 / カベオラの寄与

心血管膜輸送研究会 2014 心血管膜輸送分子の構造・機能・病態の統合的研究戦略、

2014 年 9 月 4 日 (岡崎) ; P11.

栗田卓、鈴木良明、山村寿男、 Wayne R. Giles、今泉祐治

ヒト由来軟骨肉腫細胞株 (OUMS-27) における CLC7 機能解析

第 126 回日本薬理学会近畿部会、2014 年 10 月 24 日 (和歌山) ; A-4.

宮本達也、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

K₂P チャネルの複数体形成の多様性についての検討

第 126 回日本薬理学会近畿部会、2014 年 10 月 24 日 (和歌山) ; B-10.

今泉祐治

創薬標的としてのカルシウム活性化イオンチャネル

CBI学会 2014年大会、2014年10月28日（東京）.

Yoshiaki Suzuki, Munenori Inayama, Satoshi Yamada, Takashi Kurita, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Wayne R. Giles and Yuji Imaizumi
Orai1-Orai2 complex is involved in store-operated calcium entry in chondrocyte cell lines.

The 45th NIPS International Symposium, 2014.11.26-28. (Okazaki); P-27.

Takashi Kurita, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Wayne R. Giles and Yuji Imaizumi
The ClC-7 chloride channel is downregulated by hypoosmotic stress in human chondrocytes

The 45th NIPS International Symposium, 2014.11.26-28. (Okazaki); P-28.

山村寿男、大城隼也、近藤るびい、佐伯尚紀、鈴木良明、今泉祐治
マウス門脈平滑筋細胞に機能発現する Ca²⁺活性化 Cl⁻チャネル TMEM16A

第24回日本循環薬理学会、2014年12月5日（山形）；A02.

川崎桂輔、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治
血管平滑筋における mitofusin のカルシウムマイクロドメイン形成への関与

第24回日本循環薬理学会、2014年12月5日（山形）；A05.

【病態生化学分野】

(原報)

Britto, J.M., Tait, K.J., Lee, E.P., Gamble, R.S., Hattori, M., and Tan, S.S.
Exogenous Reelin Modifies the Migratory Behavior of Neurons Depending on
Cortical Location.

Cereb. Cortex 24, 2835-2847 (2014)

Koie, M., Okumura, K., Hisanaga, A., Kamei, T., Sasaki, K., Deng, M., Baba, A.,
Kohno, T., and Hattori, M.
Cleavage Within Reelin Repeat 3 Regulates the Duration and Range of Signaling
Activity of Reelin.

J. Biol. Chem. 289, 12922-12930 (2014)

Onoue, A., Takeuchi, M., Kohno, T., and Hattori, M.
Aberrant fragment of Dab1 protein is present in yotari mouse.

Neurosci. Res. 88, 23-27 (2014)

【薬物動態制御学分野】

(原報)

Koji Kato, Haruyuki Mori, Tomoko Kito, Miyu Yokochi, Sumito Ito, Katsuhisa Inoue, Atsushi Yonezawa, Toshiya Katsura, Yuji Kumagai, Hiroaki Yuasa, Yoshinori Moriyama, Kenichi Inui, Hiroyuki Kusuhara, Yuichi Sugiyama
Investigation of endogenous compounds for assessing the drug interactions in the urinary excretion involving multidrug and toxin extrusion proteins.
Pharm. Res., 31, 136-147 (2014).

Svetlana M. Nabokina, Katsuhisa Inoue, Veendamali S. Subramanian, Judith E. Valle, Hiroaki Yuasa, Hamid M. Said
Molecular identification and functional characterization of the human colonic thiamine pyrophosphate transporter.
J. Biol. Chem., 289, 4405-4416 (2014).

Takahiro Katano, Yuko Ito, Kinya Ohta, Tomoya Yasujima, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Functional characteristics of aquaporin 7 as a facilitative glycerol carrier.
Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 244-248 (2014).

Mai Furumiya, Katsuhisa Inoue, Chihiro Nishijima, Takahiro Yamashiro, Erina Inaoka, Kinya Ohta, Yayoi Hayashi, Hiroaki Yuasa
Noncompetitive inhibition of proton-coupled folate transporter by myricetin.
Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 312-316 (2014).

Takahiro Katano, Yuko Ito, Kinya Ohta, Tomoya Yasujima, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Competitive inhibition of AQP7-mediated glycerol transport by glycerol derivatives.
Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 348-351 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Molecular basis for pharmacokinetics and pharmacodynamics of methotrexate in

rheumatoid arthritis therapy.

Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 12-19 (2014).

井上勝央, 湯浅博昭

メトトレキサートによる関節リウマチ治療と葉酸トランスポーター.

「トランスポーターと疾患研究の最前線」

楠原洋之編, 医歯薬出版, 東京, pp. 127-132 (2014).

(学会発表)

宗重 克, 太田欣哉, 保嶋智也, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光基質を利用した OATP1B1 機能の迅速評価.

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29V-pm08.

福井佑実, 井上勝央, 保嶋智也, 太田欣哉, 湯浅博昭

ヒト OCT3 における corticosterone と有機カチオン性基質との相互作用.

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29V-pm11.

伊藤悠子, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭

aquaporin 10 の新たな機能としての核酸塩基輸送: HEK293 細胞一過性発現系における uracil 輸送の解析.

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 29 日 (熊本); 29V-pm13.

片野貴大, 伊藤悠子, 太田欣哉, 保嶋智也, 井上勝央, 湯浅博昭

ヒト aquaporin 7 による glycerol 輸送に対する glycerol 誘導体の競合阻害.

日本薬学会第 134 年会, 2014 年 3 月 30 日 (熊本); 30pmL-045.

Svetlana M. Nabokina, Katsuhisa Inoue, Veendamali S. Subramanian, Judith E.

Valle, Hiroaki Yuasa, Hamid M. Said

Molecular identification and functional characterization of the human colonic thiamine pyrophosphate transporter.

Digestive Disease Week 2014

2014 年 5 月 4 日 - 6 日 (Chicago, Illinois, U.S.A.); Su1886.

太田欣哉, 宗重 克, 関口裕太郎, 保嶋智也, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光基質を用いた OATP2B1 の迅速機能評価.

日本薬剤学会第 29 年会, 2014 年 5 月 20 日 (さいたま) ; 20C4-3.

水野加奈子, 太田欣哉, 湯浅博昭

Caco-2 細胞における 5-fluorouracil 輸送の解析.

日本薬剤学会第 29 年会, 2014 年 5 月 20 日 (さいたま) ; 20F4-1.

三村佳久, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

atenolol の腸管吸収に関わるトランスポーターの同定とフルーツジュース成分の影響.

第 9 回トランスポーター研究会年会, 2014 年 6 月 14 日 (名古屋) ; P-19.

関口裕太郎, 宗重 克, 太田欣哉, 保嶋智也, 井上勝央, 湯浅博昭

蛍光基質を利用した OATP1B1 及び OATP2B1 の迅速機能評価.

第 9 回トランスポーター研究会年会, 2014 年 6 月 14 日 (名古屋) ; P-21.

古川純士, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

新規促進拡散型核酸塩基トランスポーターの機能解析: 核酸代謝酵素との機能的協働.

第 9 回トランスポーター研究会年会, 2014 年 6 月 14 日 (名古屋) ; P-30.

山城貴弘, 太田欣哉, 井上勝央, 林 弥生, 湯浅博昭

PCFT に対する myricetin の持続性阻害効果の解析: MDCKII 細胞安定発現系での解析.

第 9 回トランスポーター研究会年会, 2014 年 6 月 14 日 (名古屋) ; P-31.

湯浅博昭【招待講演】

H⁺共役型葉酸トランスポーターの発現制御機構.

第 87 回日本生化学会大会, 2014 年 10 月 16 日 (京都) ; 2S03a-5.

Hiroaki Yuasa, Mai Furumiya, Katsuhisa Inoue, Chihiro Nishijima, Takahiro

Yamashiro, Kinya Ohta, Yayoi Hayashi

Sustained inhibitory effect of myricetin on folate transport by proton-coupled folate transporter.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014 年 10 月 22 日 (San Francisco, California, U.S.A.); P465.

Yoshihisa Mimura, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Atenolol transport by organic cation transporter 1 and its interference by

flavonoids.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P473.

Kentaro Tajima, Kanako Mizuno, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Carrier-mediated uptake of adenine in Caco-2 cells.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P507.

Takahiro Yamashiro, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Yayoi Hayashi, Hiroaki Yuasa

Effect of myricetin on riboflavin transporter 3.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P509.

Junji Furukawa, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Functional characterization of a novel nucleobase transporter: cooperation with salvage enzymes in cellular nucleobase utilization.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P511.

Tomomi Yamada, Katsuhisa Inoue, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa

Functional characterization of a transporter capable of transporting 4-MU-Glu as a model glycoside in HEK293 cells.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P512.

Takanori Ishiyama, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa

Functional characterization of carrier-mediated folate transport system in isolated rat renal lysosomes.

19th NA ISSX/29th JSSX Meeting

2014年10月22日 (San Francisco, California, U.S.A.); P514.

古川純士, 井上勝央, 太田欣哉, 湯浅博昭

核酸塩基利用における核酸塩基トランスポーターENBT1と核酸代謝酵素との協働的効果.

第36回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム

2014年11月20日/21日（徳島）；P-27/B-26.

田島健太郎, 水野加奈子, 太田欣哉, 湯浅博昭

Caco-2 細胞におけるプリン型核酸塩基類の輸送の解析.

第36回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム

2014年11月20日（徳島）；P-16.

【病態解析学分野】

(原報)

Nagaya Y, Aoyama M, Tamura T, Kakita H, Kato S, Hida H, Saitoh S, Asai K.
Inflammatory cytokine tumor necrosis factor α suppresses neuroprotective
endogenous erythropoietin from astrocytes mediated by hypoxia-inducible factor-2 α .
Eur J Neurosci. 2014;40(11):3620-6.

Xia H, Yamada S, Aoyama M[#], Sato F, Masaki A, Ge Y, Ri M, Ishida T, Ueda R,
Utsunomiya A, Asai K, Inagaki H. ([#]: equally contributed)
Prognostic impact of microRNA-145 down-regulation in adult T-cell
leukemia/lymphoma.
Human Pathology. 2014;45(6):1192-8.

Nomura T, Aoyama M, Waguri-Nagaya Y, Goto Y, Suzuki M, Miyazawa K, Asai K,
Goto S.
Tumor necrosis factor stimulates osteoclastogenesis from human bone marrow cells
under hypoxic conditions.
Experimental Cell Research. 2014;321(2):167-77.

Ito S, Iwaki S, Kondo R, Satoh M, Iwabuchi K, Ohkawa R, Mishima Y, Yatomi Y,
Furumoto T, Tsutsui H, Fujii S.
TNF- α production in NKT cell hybridoma is regulated by sphingosine-1-phosphate:
Ramifications of correlation between plasma S1P levels and metabolic syndrome.
Coron Artery Dis. 2014;25(4):311-20.

(学会発表)

Kataoka H, Hamano S, Aoyama M, Mori Y, Tanaka M, Hayashi N, Kubota E, Johnston
R, Joh T.
Enhanced antitumor effects of oncolytic reovirus and trastuzumab combination therapy
in human HER2-positive gastric cancer
23rd Biennial Congress of the European association for cancer research 2014
Munich, Germany

Ikuta K, Waguri-Nagaya Y, Tatematsu N, Kawaguchi Y, Kobayashi M, Aoyama M, Asai K, Otsuka T.

The importance of gliostatin as an indicator of disease activity in patients with rheumatoid arthritis.

The european league against rheumatism 2014, Paris, France

Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Tatematsu N, Kobayashi M, Goto H, Nozaki M, Ikuta K, Aoyama M, Asai K, Otsuka T.

Gliostatin regulates vascular endothelial growth-factor production in human fibroblast-like synoviocytes.

The european league against rheumatism 2014, Paris, France

Aoyama M, Kato S, Nagaya Y, Tamura T, Kakita H, Hida H, Asai K

Erythropoietin released from astrocyte protects the oligodendrocyte precursor cell against hypoxic and reoxygenation injury

第 91 回日本生理学会大会 2014. 鹿児島

田村哲也、青山峰芳、小宮良輔、富田麻衣子、藤掛数馬、吉澤佐也、播磨 恵、太田晴子、藤田義人、祖父江和哉

エリスロポエチンによる脳保護効果の発現機序解明ー脳内免疫担当細胞ミクログリアに対する効果に注目してー

第 41 回日本集中治療学会学術集会 2014. 京都

高橋朋弘、田上辰秋、岩城壮一郎、藤井 聡、尾関哲也

善玉コレステロール模倣製剤の開発および ApoE 欠損マウスに対する有用性の評価

日本薬学会第 134 回年会 2014 年 3 月 29 日 熊本

長崎彩子、湯田雄一郎、小池慶子、岩城壮一郎、藤井 聡

低酸素環境における脂肪細胞の PAI-1 発現調節機構の検討

第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム 2014 年 5 月 23 日 名古屋

田上辰秋、高橋朋弘、岩城壮一郎、藤井 聡、尾関哲也

スフィンゴシン 1 リン酸/アポリポタンパク A1 含有金ナノ粒子による炎症性動脈硬化に対する新規ドラッグデリバリーシステムの開発

第 15 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム 2014 年 5 月 24 日 名古屋

長谷川 諒、伊藤史織、岩城壮一郎、岩渕和也、佐藤 雅、藤井 聡

NKT ハイブリドームにおける GLP-1 による S1P を介した TNF- α 発現制御機構

第 36 回日本血栓止血学会学術集会 2014 年 5 月 31 日 大阪

尾関哲也、高橋朋弘、田上辰秋、岩城壮一郎、藤井 聡

HDL 様金ナノ粒子製剤の創製と血管に対する抗炎症効果

第 30 回日本 DDS 学会学術集会 2014 年 7 月 30 日 東京

水谷直貴、大森由佳里、小泉恵子、鈴木 元、高木 明、小嶋哲人、岩城壮一郎、藤井 聡、

中村光浩、野澤義則、村手 隆

転写因子 CREB による Sphingosine kinase 2 発現調節機序

第 87 回日本生化学会大会 2014 年 10 月 16 日 京都

Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Sumiyo Yamashita, Akimasa Sanagawa, Soichiro Iwaki, Nobuyuki Ohte, Satoshi Fujii.

Blood Pressure Reduction and Increase of Circulating MicroRNA-126 Indicate Improvement of Vascular Endothelial Damage After Smoking Cessation Intervention in Middle-Aged Habitual Smokers.

American Heart Association's 2014 Scientific Sessions and Resuscitation Science Symposium

2014 年 11 月 18 日 シカゴ、USA

【医薬品代謝解析学分野】

(原報)

Hiroka Suzuki, Noriyuki Hatano, Yukiko Muraki, Yuka Itoh, Satoko Kimura, Hidetoshi Hayashi, Kikuo Onozaki, Yoshiaki Ohi, Akira Haji, Katsuhiko Muraki
The NADPH oxidase inhibitor diphenyleneiodonium activates the human TRPA1 nociceptor.

Am J Physiol Cell Physiol. 307(4), C384-394 (2014).

Yuto Sakai, Katsumi Fukamachi, Mitsuru Futakuchi, Ichiro Miyoshi, Hiroyuki Tsuda, Masami Suzui, Hidetoshi Hayashi
A novel transgenic mouse model carrying human Tribbles related protein 3 (TRB3) gene and its site specific phenotype.

Biol. Pharm. Bull., 37(6), 1068-1074 (2014).

(学会発表)

鈴木美沙紀, 楽 怡, 井上万由美, 伊藤友香, 岡山敦子, 野口祐美子, 井上靖道, 小野寄菊夫, 斉藤昌之, 林 秀敏

脂肪細胞分化のマスターレギュレーターPPAR γ のTGF β による発現制御

日本薬学会第134年会. 2014年3月28日 (熊本); 28amM-115.

伊藤史織, 安部賀央里, 伊藤友香, 豊玉彰子, 内藤敏子, 小玉菜央, 宮嶋ちはる, 坂崎美香, 森田友香, 澤中美希, 伊藤菜奈子, 菊池千草

薬学部男女共同参画セミナー実施報告

日本薬学会第134年会. 2014年3月28日 (熊本); 29Y-am04S.

楽 怡, 鈴木美沙紀, 井上万由美, 伊藤友香, 岡山敦子, 野口祐美子, 舛田悠介, 井上靖道, 小野寄菊夫, 斉藤昌之, 林 秀敏

TGF β による PPAR γ 発現抑制と脂肪蓄積の制御

第15回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

2014年5月23日 (名古屋); A1-2.

野原 匠, 杉山和弥, 宮嶋ちはる, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏

ストレスセンサータンパク質TRB3を介した小胞体ストレスによるインターロイキン2の発現制御

第60回日本薬学会東海支部大会. 2014年7月5日(鈴鹿); F-1710.

澤中美希, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏

シュードキナーゼTRB1のTGF- β による発現制御と機能解析

第60回日本薬学会東海支部大会. 2014年7月5日(鈴鹿); F-1720.

Takumi Nohara, Kazuya Sugiyama, Chiharu Miyajima, Yuka Itoh, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Regulation of Interleukin 2 expression by an ER stress-induced protein TRB3.

フォーラム 2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー

2014年9月20日(つくば); O4-5.

Miki Sawanaka, Yuka Itoh, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Function of a pseudokinase TRB1 as a negative regulator of TGF- β signaling.

フォーラム 2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー

2014年9月19, 20日(つくば); P-98.

Hidetoshi Hayashi, Yasumichi Inoue

p53 cooperates with Smad2/3 to activate PAI-1 transcription.

第73回日本癌学会学術総会. 2014年9月26日(横浜); E-2075.

Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Histone methyltransferase SET8 is a novel negative regulator of TGF- β signaling in tumorigenesis.

第73回日本癌学会学術総会. 2014年9月26日(横浜); J-2067.

松野 薫, 井上靖道, 久保知紗希, 伊藤友香, 林 秀敏

シトルリン化修飾酵素PADI4によるTGF- β シグナル伝達制御機構の解析

第37回日本分子生物学会年会. 2014年11月25日(横浜); 1P-0482.

宮嶋ちはる, 井上靖道, 岩中広美, 伊藤友香, 林 秀敏

スキャフォールドタンパクTRB1によるp53活性の制御

第37回日本分子生物学会年会. 2014年11月27日(横浜); 3P-0457.

川地志緒里, 井上靖道, 伊藤友香, 林 秀敏

細胞がん化におけるTRB3の機能解析

第37回日本分子生物学会年会. 2014年11月27日(横浜); 3P-0458.

岩中広美, 宮嶋ちはる, 井上靖道, 林 秀敏

細胞がん化におけるTRBファミリーの機能解析

第37回日本分子生物学会年会. 2014年11月27日(横浜); 3P-0459.

【神経薬理学分野】

(原報)

Ueno T, Kume K.

Functional characterization of dopamine transporter in vivo using *Drosophila melanogaster* behavioral assays.

Front Behav Neurosci 8: 303. (2014)

Hashizaki M, Nakajima H, Tsutsumi M, Shiga T, Chiba S, Yagi T, Ojima Y, Ikegami A, Kawabata M, Kume K

Accuracy validation of sleep measurements by a contactless biomotion sensor on subjects with suspected sleep apnea.

Sleep Biol Rhythms 12: 106–115 (2014)

Shiraki N, Shiraki Y, Tsuyama T, Obata F, Miura M, Nagae G, Aburatani H, Kume K, Endo F, Kume S

Methionine metabolism regulates maintenance and differentiation of human pluripotent stem cells.

Cell Metab 19: 780–794. (2014)

Sakano D, Shiraki N, Kikawa K, Yamazoe T, Kataoka M, Umeda K, Araki K, Mao D, Matsumoto S, Nakagata N, Andersson O, Stainier D, Endo F, Kume K, Uesugi M, Kume S

VMAT2 identified as a regulator of late-stage β -cell differentiation.

Nat Chem Biol 10: 141–148. (2014)

Kikawa K, Sakano D, Shiraki N, Tsuyama T, Kume K, Endo F, Kume S

Beneficial effect of insulin treatment on islet transplantation outcomes in akita mice.

PLoS One 9: e95451. (2014)

Shahjalal HM, Shiraki N, Sakano D, Kikawa K, Ogaki S, Baba H, Kume K, Kume S

Generation of insulin-producing β -like cells from human iPS cells in a defined and completely xeno-free culture system.

J Mol Cell Biol 6: 394–408. (2014)

Ohsawa M, Mutoh J, Yamamoto S, Hisa H.

Involvement of protein isoprenylation in neuropathic pain induced by sciatic nerve injury in mice.

Neurosci Lett 564: 27–31. (2014)

Ohsawa M, Otake S, Murakami T, Yamamoto S, Makino T, Ono H.
Gabapentin prevents oxaliplatin-induced mechanical hyperalgesia in mice.
J Pharmacol Sci 125:292-299. (2014)

Mutoh J, Ohsawa M, Hisa H.
Involvement of renal sympathetic nerve activation on the progression of ischemic acute kidney injury in the mouse.
J Pharmacol Sci 125: 415-421. (2014)

(総説・著書・総合論文など)

条 和彦
「不眠症の薬物療法管理」特集号・監修
「特集にあたってー不眠症治療の現状と、薬剤師への期待」
月刊・薬事 56 巻 23-24 頁 (2014)

条 和彦
「不眠症の薬物療法管理」特集号
「オレキシン受容体拮抗薬ー新規作用機序の睡眠薬」
月刊・薬事 56 巻 53-56 頁 (2014)

条 和彦
「不眠症の薬物療法管理」特集号
「睡眠障害の評価尺度と検査方法～PSG、睡眠日誌、アクチグラフ」
月刊・薬事 56 巻 101-106 頁 (2014)

条 和彦
「不眠症の薬物療法管理」特集号
「睡眠衛生指導教育ー薬学部 PBL から」
月刊・薬事 56 巻 121-125 頁 (2014)

条 和彦
不眠症と新規睡眠薬・オレキシン受容体拮抗薬
メディカメントニュース (2014)

条 和彦
中高生の居眠り
月刊・健康教室 761 号 64 頁 (2014)

大澤匡弘、山本昇平、小野秀樹
慢性疼痛発現における脳内痛覚伝達系の亢進の関与
薬学雑誌, 134, 387-395 (2014)

大澤匡弘、中川貴之、成田年

第二章 背景知識 4 薬理学的知識

がん疼痛の薬物治療法に関するガイドライン<2014> (2014)

大澤 匡弘

緩和薬物療法 各鎮痛補助薬の特徴①

緩和医療薬学講座 e-ラーニング (2014)

(学会発表)

条 和彦

眠りを制御する脳の仕組みと 脳の中の時計の話

第9回桜山睡眠研究会 2014.04.17 (名古屋)

条 和彦

睡眠覚醒調節遺伝子

睡眠学会 2014.07.04 (徳島)

条 和彦

Clock Genes

時間生物学サマースクール 2014.07.23 (札幌)

条 和彦

睡眠と栄養・代謝

第7回 分子高次機能研究会 2014.08.26 (静岡・沼津)

条 和彦

Sleep and nutrition regulation in a fruit fly

The 68th Fujihara Seminar 2014.09.27 (静岡)

条 和彦

概日周期研究から考える 生物の時間の分子基盤

国際高等研究所「老いを考える」研究会 2014.09.05 (奈良)

条 和彦

生活習慣病と睡眠障害 不眠症の新治療ガイドラインの紹介

西東京臨床糖尿病研究会 2014.11.22 (東京)

大澤 匡弘

行動薬理学研究の実際と展望

次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014 2014.08.30 (大阪)

大澤 匡弘

痛覚経路に関する新知見～下行性疼痛抑制経路へのアプローチと慢性疼痛治療の可能性～

第289回岐阜県病院薬剤師会研修会学術講演会 2014.09.06 (岐阜)

大澤 匡弘

メサドンの薬理学的特性

第8回日本緩和医療薬学会年会 2014.10.03 (愛媛)

大澤 匡弘

がん悪液質発症の分子メカニズムとその治療への応用

第8回日本緩和医療薬学会年会 2014.10.03 (愛媛)

大澤 匡弘

代謝性疾患を伴う患者の緩和療法

第24回日本臨床神経精神薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会 合同年会

2014.11.20 (名古屋)

大澤 匡弘

緩和ケアに使う薬のい・ろ・は

第2回愛知オピオイド研究会 2014.12.13 (名古屋)

大澤 匡弘

神経障害性疼痛発症における脊髄グリア-ニューロンシヤトルの関与

第126回日本薬理学会近畿部会 2014.10.24 (和歌山)

【医薬品安全評価学分野】

(原報)

Hanatani T.

A detection algorithm for drug-induced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale and its comparison with the Council for International Organizations of Medical Sciences/the Roussel Uclaf Causality Assessment Method scale.

Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2014.

Hanatani T.

Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a 'Dear Doctor' letter to restrict.

J Clin Pharm Ther. 2014

佐々木崇光, 熊谷 健, 佐々木瞳, 稲見敬太, 佐藤 裕, 高橋昌悟, 松永民秀, 頭金正博, 細川正清, 大森 栄, 永田 清
調剤薬局来局者を対象とした健康食品の使用実態調査とその情報に基づいた CYP2D6 活性阻害評価

医療薬学 40(9) 488–499 (2014)

(学会発表)

頭金正博、斎藤嘉朗

バイオマーカーの適格性評価を支えるレギュラトリサイエンス (オーバービュー)

日本薬学会第 134 年会 2014/3/27 熊本

斎藤嘉朗、頭金正博

医薬品開発・適正使用におけるバイオマーカー利用とレギュラトリサイエンス

頭金正博

Consideration points on ethnic factors

2014 APEC LSIF Joint Multi-Regional Clinical Trials (MRCTs) and Good Clinical Practice (GCP) Inspection Workshop
2014/5/8 Qingdao, China

小川喜寛、河合加奈、西川良平、頭金正博

有害事象自発報告データベース(FAERS)からみたアバカビルによる過敏症発症リスクの民族差の検討

第 22 回クリニカルファーマーセッションポジウム 2014/7/2 東京

吉成浩一、安部賀央里、頭金正博

食品中の化学物質による肝肥大の発現機序と毒性学的意義：現状・課題・展望

第 41 回日本毒性学会学術年会 2014/6/28 神戸

吉田緑、梅村隆志、頭金正博、小澤正吾

化学物質の Hazard characterization において肝肥大を毒性ととるべきスタート地点

第 41 回日本毒性学会学術年会 2014/6/28 神戸

佐井君江、頭金正博、斎藤嘉朗

日米の副作用自発報告データベースの利用可能性の検討—重症薬疹への適用—

第 4 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 2014/9/5 東京

頭金正博（招待講演）

薬剤疫学研究とナショナル レセプトデータ

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

小川喜寛、伊東真紀、河合加奈、西川良平、頭金正博

ワルファリンとダビガトランの出血性副作用の民族差の検討

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

山田健人、渡邊崇、小川喜寛、木村通男、堀雄史、川上純一、頭金正博

医療情報データベースを活用した副作用としての無顆粒球症の検出に関する研究

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

井口祐美子、小川喜寛、頭金正博

医薬品副作用データベース (JADER) を用いたモガムリズマブの副作用発生状況の調査研究

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

河合加奈、小川喜寛、西川良平、頭金正博

有害事象自発報告データベース (FAERS) からみた日本とアメリカにおけるイソニア

ジドの副作用発症リスクの比較

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

山田梨紗子、脇田真実子、柴北健佑、岡田佑輔、松村治穂、近藤勝弘、江崎哲夫、木村和哲、飯田真介、頭金正博、中村克徳、松永民秀

プロトンポンプ阻害薬投与による肝障害のリスクの検討

第 24 回日本医療薬学会 2014/9/27 名古屋

Shun Nakano, Kana Kawai, Yoshihiro Ogawa, Masahiro Tohkin

ETHNIC DIFFERENCE IN ISONIAZID-INDUCED LIVER INJURY: DETECTION BY THE FDA ADVERSE EVENT REPORTING SYSTEM DATABASE, 19th North

American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting

Oct 19-23, 2014, San Francisco, CA, USA

Kento Yamada, Maki Itoh, Yukiko Fujiwara, Hiromi Hagiwara, Shinichi Kawai, Masahiro Tohkin

EFFECT OF ETHNIC DIFFERENCE OF PHARMACOKINETICS ON THE PRESCRIPTION DOSE OF STATINS AND SELECTIVE SEROTONIN REUPTAKE INHIBITORS

19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting

Oct 19-23, 2014, San Francisco, CA, USA

Makoto Osabe, Yusuke Okada, Kensuke Shibakita, Risako Yamada, Shinichi Kawai and Masahiro Tohkin

GENETIC VARIATIONS IN ABCB1 INFLUENCE PHARMACOKINETIC PARAMETERS OF SIMVASTATIN

19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting

Oct 19-23, 2014, San Francisco, CA, USA

Tadaaki Hanatani, Kimie Sai, Masahiro Tohkin, Katsunori Segawa, Michio Kimura, Katsuhito Hori, Junichi Kawakami and Yoshiro Saito

Identification of Drug-Induced Liver Injury in Medical Information Databases Using the Japanese Diagnostic Scale

30th International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management

Oct 24-27, 2014, Taipei, Taiwan

佐井君江、頭金正博、斎藤嘉朗

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition 2014/11/2 San Diego

横田俊、長部誠、頭金正博、石塚賢治、石田高司、伊藤旭、李政樹、飯田真介、上田龍三

Development of the super high resolution HLA typing method by next - generation sequencing

第 37 回日本分子生物学会 2014/11/25 横浜

小川喜寛、河合加奈、西川良平、福澤和輝、頭金正博

有害事象自発報告データベースを用いた副作用発症リスクにおける民族差の検討

第 35 回日本臨床薬理学会 2014/12/4 松山

藤原由季子、山田健人、伊東真紀、萩原宏美、川合眞一、頭金正博

日米韓における糖尿病治療薬の処方量の比較

第 35 回日本臨床薬理学会 2014/12/4 松山

【病院薬剂学分野】

(原報)

Ieda N, Hotta Y, Miyata N, Kimura K, Nakagawa H.

Photomanipulation of vasodilation with a blue-light-controllable nitric oxide releaser.

J Am Chem Soc. 136(19):7085-7091 (2014)

Kikuchi C, Kajikuri J, Hori E, Nagami C, Matsunaga T, Kimura K, Itoh T.

Aortic superoxide production at the early hyperglycemic stage in a rat type 2 diabetes model and the effects of pravastatin.

Biol Pharm Bull. 37(6):996-1002 (2014)

Ohya S, Fukuyo Y, Kito H, Shibaoka R, Matsui M, Niguma H, Maeda Y, Yamamura H, Fujii M, Kimura K, Imaizumi Y

Upregulation of KCa3.1 K(+) channel in mesenteric lymph node CD4(+) T lymphocytes from a mouse model of dextran sodium sulfate-induced inflammatory bowel disease.

Am. J. Physiol. Gastrointest. Liver Physiol. 306 (10) G873-G885 (2014)

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K.

Assessment of Androgen Replacement Therapy on Erectile Function in Rats with Type 2 Diabetes Mellitus by Examining Nitric Oxide-related and Inflammatory Factors.

J Sex Med. 11(4):920-929. (2014)

Sato Y, Kondo M, Inagaki A, Komatsu H, Okada C, Naruse K, Sahashi T, Kuroda J, Ogura H, Uegaki S, Yoshida T, Mori Y, Sawada H, Watanabe S, Sugiura H, Endo Y, Yoshimoto N, Toyama T, Iida S, Yamada K, Kimura K, Wakita A.

Highly frequent and enhanced injection site reaction induced by peripheral venous injection of fosaprepitant in anthracycline-treated patients

J Cancer. 24:5(5):390-397 (2014)

Hotta Y, Shiota A, Kataoka T, Motonari M, Maeda Y, Morita M, Kimura K.

Oral l-citrulline supplementation improves erectile function and penile structure in castrated rats.

(総説・著書・総合論文など)

川出義浩

オピオイドスイッチングでの切り替え方は？

Q&Aでわかる がん疼痛緩和ケア, 140-144, (2014)

川出義浩

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 「地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

愛知県病院薬剤師会雑誌, Vol.42 No.1 P2-4, (2014)

(学会発表)

Hotta Y, Nakamura D, Yahagi R, Kataoka T, Maeda Y, Kimura K

Excessive fructose administration from childhood may induce oxidative stress via the AGE-NADPH oxidase pathway, resulting in erectile dysfunction in adult rats

16th World Meeting on Sexual Medicine (São Paulo, Brazil) 2014.10

Hotta Y, Ieda N, Nakagawa H, Kimura K

Light-controlled relaxation of the penile corpus cavernosum using the novel nitric oxide releaser NOBL-1

16th World Meeting on Sexual Medicine (São Paulo, Brazil) 2014.10

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K.

Influences of testosterone deficiency for oxidative stress and inflammation markers in castrated rats

16th World Meeting on Sexual Medicine (São Paulo, Brazil) 2014.10

Ieda N, Hotta Y, Kimura K, Miyata N, Nakagawa H

Photo-manipulation of vasodilation with a novel photo-controllable nitric oxide releaser based on N-nitrosoaminophenol

Third International Conference on Hydrogen Sulfide in Biology and Medicine
(H2S 2014) (Kyoto, Japan) 2014.9

Gotoh K, Maeda Y, Ito T, Nakajima Y, Hotta Y, Sugiyama N, Kimura K

An assay of methylmalonyl-CoA mutase activity by UPLC/MS/MS in patients with methylmalonic acidemia and carriers.

Annual Symposium of the Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism
(Innsbruck, Austria) 2014. 9

山本 清司、堀田 祐志、前田 康博、浅井 清文、木村 和哲

ラット膀胱上皮におけるミネラルコルチコイド受容体の発現および機能の解析

第7回排尿障害モデル動物研究会（静岡）2014年12月

前田康博、後藤佳奈、中島葉子、前田陽子、杉山成司、堀田祐志、木村和哲、伊藤哲哉
UPLC-MS/MSによるメチルマロン酸血症患者および保因者のメチルマロニル-CoA ムターゼ活性測定

第56回日本先天代謝異常学会（仙台）2014年11月

寫田 理佳、藤井 聡、水野 正子、土肥 靖明、木村 和哲

在宅高齢高血圧症患者の服薬アドヒアランス

第37回日本高血圧学会総会（横浜）2014年10月

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

青色光制御型一酸化窒素発生剤の開発とその生体応用

2014年 光化学討論会（札幌）2014年10月

後藤佳奈、前田康博、伊藤哲哉、中島葉子、前田陽子、杉山成司、堀田祐志、木村和哲
UPLC-MS/MSによる軽症メチルマロン酸血症患者における酵素活性測定法の検討

第39回日本医用マススペクトル学会年会（千葉）2014年10月

杉山洋介、近藤勝弘、手崎世織、竹本将士、川出義浩、鬼塚真美、坂本宣弘、木村和哲
神経障害性疼痛に対するメサドン塩酸塩錠の有効性に関する後方視的検討

第8回日本緩和医療薬学会（松山）2014年10月

稲葉一郎、今村光一、川出義浩、高橋眞生、萩田均司、萬谷摩美子、二村昭彦、鈴木順子

「緩和医療における薬剤師業務の実態調査―第2弾―」 診療報酬改定後の薬剤師による在宅業務の動向～健康保険・介護保険対策委員会企画～

第8回日本緩和医療薬学会（松山）2014年10月

稲葉一郎、今村光一、川出義浩、高橋眞生、萩田均司、萬谷摩美子、二村昭彦、鈴木順子

「緩和医療における薬剤師業務の実態調査―第2弾―」 診療報酬改定後の薬剤師による在宅業務の動向～健康保険・介護保険対策委員会企画～

第8回日本緩和医療薬学会（松山）2014年10月

川出義浩【シンポジウム】

働く世代のがん治療と日常生活の両立を支援するための薬剤師の取り組み

第8回日本緩和医療薬学会（松山）2014年10月

真川明将、竹本将士、伊豆田美晴、黒田純子、江崎哲夫、木村和哲

がん化学療法におけるHBV再活性化対策～HBView導入によるリスクマネジメント意識の向上～

第24回日本医療薬学会年会（名古屋）2014年9月

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、川口充康、宮田直樹、中川秀彦

青色光制御型NOドナーの開発と血管弛緩の光制御

第67回日本酸化ストレス学会学術集会（京都）2014年9月

岸本大輝、片岡智哉、堀田祐志、六車ひろし、三宅毅志、由良健太郎、泉和良、藤沢尚人、山中正人、川西泰夫、金山博臣、木村和哲

食塩過剰摂取は高血圧とは独立してEDを起こす―そのメカニズムについての検討―

日本性機能学会 第25回学術総会（仙台）2014年9月

矢萩 亮、堀田祐志、中村大学、片岡智哉、前田康博、木村和哲

両側内腸骨動脈結紮後のラット陰茎海綿体の炎症関連因子の経時的変化

日本性機能学会 第25回学術総会（仙台）2014年9月

堀田祐志、中村大学、矢萩 亮、片岡智哉、前田康博、木村和哲

フルクトース過剰摂取が勃起機能に与える影響についての検討―小児ラットと成熟ラットを用いた検討―

日本性機能学会 第25回学術総会（仙台）2014年9月

片岡智哉、堀田祐志、前田康博、木村和哲

Testosterone が酸化ストレスおよび炎症マーカーに与える影響 - 去勢ラットを用いた

Androgen 補充療法と抗酸化物質投与との比較 -

日本性機能学会 第 25 回 学術総会 (仙台) 2014 年 9 月

山本清司、堀田祐志、前田康博、浅井清文、木村和哲

ラット膀胱上皮におけるミネラルコルチコイド受容体 - 上皮性 Na⁺チャンネル系の生理的役割

第 21 回 日本排尿機能学会 (岡山) 2014 年 9 月

真川明将、野田康弘、小林孝志、磯貝善蔵、藤井聡

マクロゴールのアルカリホスファターゼ及びマトリックスメタロプロテアーゼ活性に与える影響 の酵素学的解析

第 31 回和漢医薬学会学術大会 (名古屋) 2014 年 8 月

高木三千代、中島健一、田邊宏樹、木村和哲、井上誠

慢性炎症によるアディポネクチン産生抑制を改善する天然物の探索

日本薬学会第 133 年会 (千葉) 2014 年 8 月

川出義浩【シンポジウム】

がん患者の褥瘡緩和医療を考える～緩和ケアチームと薬剤師の立場から～

第 16 回日本褥瘡学会学術集会 (名古屋) 2014 年 8 月

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

青色光で制御可能な NO ドナーの合成とその機能評価

創薬懇話会 2014 (岐阜) 2014 年 7 月

加藤秀紀、黒田純子、水野裕之、江崎哲夫、木村和哲

注射薬の監査を支援する“チェックシート”の有用性について

第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム 医療薬学フォーラム 2014 (東京)

2014 年 6 月

家田直弥、堀田祐志、木村和哲、宮田直樹、中川秀彦

N-Nitrosoaminophenol 骨格を有する可視光制御型 NO ドナーの開発

Development of Visible-Light-Controllable NO donor based on an N-nitrosoaminophenol structure

日本ケミカルバイオロジー学会第 9 回年会 (大阪) 2014 年 6 月

中村大学, 堀田祐志, 矢萩亮, 片岡智哉, 前田康博, 木村和哲

小児期の継続的なフルクトース過剰摂取がラットの勃起機能に与える影響

第 25 回日本性機能学会中部総会 (和歌山) 2014 年 6 月

片岡智哉, 堀田祐志, 前田康博, 木村和哲

Testosterone 低下による酸化ストレスおよび炎症マーカーの変動 - 去勢による ED モデルラットを用いた検討 -

第 14 回日本抗加齢医学会総会 (大阪) 2014 年 6 月

家田直弥, 堀田祐志, 木村和哲, 宮田直樹, 中川秀彦

青色光で制御可能な N-nitrosoaniline 型 NO ドナーを用いた血管弛緩制御

第 12 回次世代を担う有機化学シンポジウム (東京) 2014 年 5 月

真川 明将, 竹本 将士, 黒井 美晴, 黒田 純子, 江崎 哲夫, 木村 和哲

がん化学療法における HBV 再活性化アラートシステムの有用性の検討

日本薬学会第 135 年会 (熊本) 2014 年 3 月

山下 迪子, 加藤 弘子, 早川 英子, 手崎 世織, 山本 清司, 小島 基嗣, 江崎 哲夫, 木村 和哲

外来受診で手術が決まった患者の術前中止薬の確認 入院指示オーダーの改良による有用性の検討

日本薬学会第 135 年会 (熊本) 2014 年 3 月

鈴木 匡, 木村 和哲, 明石 恵子, 大原 弘隆, 金 允勝, 藤井 聡

医療系学部連携による「チーム医療に貢献する薬局薬剤師養成」研修<3 年間の成果検証>

日本薬学会第 135 年会 (熊本) 2014 年 3 月

家田直弥, 堀田祐志, 木村和哲, 川口充康, 宮田直樹, 中川秀彦

青色光制御型 NO ドナーの開発と血管弛緩の光制御

日本薬学会第 135 年会 (熊本) 2014 年 3 月

堀田祐志, 中村大学, 矢萩 亮, 片岡智哉, 前田康博, 木村和哲

小児期からのフルクトース過剰摂取が将来の勃起機能に与える影響について-ラットを用いた検討-

第 24 回日本性機能学会西部総会 (山口) 2014 年 1 月

【臨床薬学教育研究センター】

(原報)

Takahiro Iwao, Masashi Toyota, Yoshitaka Miyagawa, Hajime Okita, Nobutaka Kiyokawa, Hidenori Akutsu, Akihiro Umezawa, Kiyoshi Nagata, Tamihide Matsunaga

Differentiation of human induced pluripotent stem cells into functional enterocyte-like cells using a simple method.

Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 44–51 (2014).

Yuki Kondo, Takahiro Iwao, Katsunori Nakamura, Takamitsu Sasaki, Shogo Takahashi, Noboru Kamada, Tsutomu Matsubara, Frank J. Gonzalez, Hidenori Akutsu, Yoshitaka Miyagawa, Hajime Okita, Nobutaka Kiyokawa, Masashi Toyoda, Akihiro Umezawa, Kiyoshi Nagata, Tamihide Matsunaga, Shigeru Ohmori

An efficient method for differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells retaining drug metabolizing activity.

Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 237–243 (2014).

Daisuke Satoh, Mariko Ohte, Tohru Maeda, Katsunori Nakamura, Tamihide Matsunaga

G6PT inhibition model using HL-60 cells and induction of ROS production through PKC/NOX2 activation: Clinical condition for elucidation of glycogen storage disease type Ib.

Biol. Pharm. Bull., 37, 534–540 (2014).

Chigusa Kikuchi, Junko Kajikuri, Eisei Hori, Chie Nagami, Tamihide Matsunaga, Kazunori Kimura, Takeo Itoh

Aortic superoxide production at the early hyperglycemic stage in a rat type 2 diabetes model and the effects of pravastatin.

Biol. Pharm. Bull., 37, 996–1002 (2014).

Yuki Kondo, Sachimi Yoshihashi, Kayo Mimori, Ruri Ogihara, Yoshinori Kanehama, Yoshiyuki Maki, Shin Enosawa, Kouichi Kurose, Takahiro Iwao, Katsunori Nakamura, Tamihide Matsunaga

Selection culture method for hepatocyte-like cells differentiated from human induced

pluripotent stem cells.

Drug Metab. Pharmacokinet., 29, 407–413 (2014).

Yuki Kondo, Takahiro Iwao, Sachimi Yoshihashi, Kayo Mimori, Ruri Ogihara, Kiyoshi Nagata, Kouichi Kurose, Masayoshi Saito, Takuro Niwa, Takayoshi Suzuki, Naoki Miyata, Shigeru Ohmori, Katsunori Nakamura, Tamihide Matsunaga
Histone deacetylase inhibitors promote hepatic differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocyte-like cells.

PLoS One, 9, e104010 (2014).

Toru Takenaka, Naomoto Harada, Jiro Kuze, Masato Chiba, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Human small intestinal epithelial cells differentiated from adult intestinal stem cells as a novel system for predicting oral drug absorption in humans.

Drug Metab. Dispos., 42, 1947–1954 (2014).

Arai S, Matsui H, Ohki R, Miyazawa Y, Koike H, Hashita T, Katsuyama Y, Sekine Y, Nomura M, Shibata Y, Hatori M, Ito K, Yamamoto K, Ohmori S, Suzuki K.
Suicide attempt with an overdose of sunitinib.

Br. J. Clin. Pharmacol., 78, 933-935 (2014).

佐々木崇光, 熊谷 健, 佐々木 瞳, 稲見敬太, 佐藤 裕, 高橋昌悟, 松永民秀, 頭金正博, 細川正清, 大森 栄, 永田 清
調剤薬局来局者を対象とした健康食品の使用実態調査とその情報に基づいた CYP2D6 活性阻害評価.

医療薬学, 40, 488-499 (2014).

(総説・著書・総合論文など)

松永民秀, 岩尾岳洋

多能性幹細胞 (ES 細胞, iPS 細胞) の利用

「薬剤学実験法 必携マニュアル —Pharmaceutical Scientist のために—」

日本薬剤学会出版委員会編, 南江堂, pp. 299–311 (2014)

松永民秀

<オピニオン>—ヒト iPS 細胞の肝細胞等への分化誘導と再生医療および創薬研究へ

の応用—.

HAB Newsletter, 20, 12-14 (2014).

松永民秀

「疾患対象別 薬物相互作用 — 一定石から最新の知見まで—」食物・嗜好品.

メデイカル・ビューポイント (*Medical View Point*), 34, 6 (2014).

鈴木 匡

薬剤師教育の充実とは：薬局薬剤師と薬学教育

医薬ジャーナル, 50, 73-76 (2014)

鈴木 匡

大学がプロデュースする薬剤師生涯研鑽

ファルマシア, 50, 548-552 (2014)

鈴木 匡

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

日本病院薬剤師会雑誌, 50, 1219-1220 (2014)

(特許申請)

申請日：2014年2月24日

出願番号：PCT/JP2014/054379

名称：人工多能性幹細胞を腸管上皮細胞へ分化誘導する方法

発明者：松永民秀，岩尾岳洋

(学会発表)

松永民秀【招待講演】

ヒト iPS 細胞由来肝細胞及び腸管上皮細胞の作成と応用

第 87 回日本薬理学会年会 シンポジウム. 2014 年 3 月 19 日～3 月 21 日 (仙台)

奥村啓樹，鶴飼 茜，佐藤大介，宮本智美，三好一郎，平林真澄，中村克徳，松永民秀
ブラストシストインジェクションによるラット iPS 細胞由来細胞を持つキメラマウスの作出

日本薬学会 第 134 年会. 2014 年 3 月 30 日 (熊本)

大手万理子, 佐藤大介, 前田 徹, 中村克徳, 松永民秀
糖原病 Ib 型患者由来 iPS 細胞を用いた好中球モデルにおける PKC を介した NOX2 活性化機序の解明

日本薬学会 第 134 年会. 2014 年 3 月 30 日 (熊本)

小野里太智, 佐藤大介, 小枝暁子, 中村克徳, 松永民秀
カニクイザル皮膚線維芽細胞からの iPS 細胞の樹立

日本薬学会 第 134 年会. 2014 年 3 月 30 日 (熊本)

伊藤史織, 安部賀央里, 伊藤友香, 豊玉彰子, 内藤敏子, 小玉 菜央, 宮嶋ちはる, 坂崎美香, 森田友香, 澤中美希, 伊藤菜奈子, 菊池千草
薬学部男女共同参画セミナー実施報告

日本薬学会第 134 年会. 2014 年 3 月 29 日 (熊本)

菊池千草, 松永民秀, 鈴木 匡

薬学部の実務実習事前授業で実施した糖尿病服薬指導体験学習の実務実習後評価

第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2014 年 5 月 24 日 (大阪)

宮野百合香, 大手万理子, 佐藤大介, 前田 徹, 中村克徳, 松永民秀
糖原病 Ib 型患者由来 iPS 細胞を用いた好中球病態モデルの作成

日本薬学会医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム.
2014 年 6 月 28 日 (東京)

中野靖久, 佐藤大介, 宮野百合香, 阿武志保, 田中靖人, 村上周子, 中村克徳, 松永民秀

B 型肝炎ウイルス持続感染を再現する効率的な培養細胞評価系の開発

日本薬学会医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム.
2014 年 6 月 28 日 (東京)

野田雅人, 永味千枝, 菊池千草, 堀 英生, 松永民秀

2 型糖尿病モデルラット大腿動脈における血管障害の機序と薬物療法の効果

日本薬学会医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム.
2014 年 6 月 29 日 (東京)

壁谷知樹, 岩尾岳洋, 小玉菜央, 中村克徳, 松永民秀

ヒト iPS 細胞由来小腸幹細胞の至適培養法の開発

第 66 回日本生物工学会大会. 2014 年 9 月 10 日 (札幌)

山田梨紗子, 脇田真実子, 柴北健佑, 岡田佑輔, 松村治穂, 近藤勝弘, 江崎哲夫, 木村和哲, 飯田真介, 頭金正博, 中村克徳, 松永民秀

プロトンポンプ阻害薬投与による肝障害のリスクの検討

第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 (名古屋)

鈴木 匡【招待講演】

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム<大きく変わる薬学臨床と実務実習>

第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 27 日 (名古屋)

中村克徳, 鈴木 匡, 松永民秀

薬学部臨床系教員としてできる薬理遺伝学的な取り組み.

(シンポジウム 21)/第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 (名古屋)

堀場亜佐子, 藤田直希, 森道成, 鈴木 匡

精神科医と連携した薬局店頭での血糖値モニタリングの有用性

第 24 回 日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 28 日 (名古屋)

榊原明美, 石黒雅江, 三浦進也, 鈴木 匡

薬局で実施する簡易測定器を用いた HbA1c スクリーニングの有用性

第 24 回 日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 28 日 (名古屋)

野田雅人, 菊池千草, 永味千枝, 堀 英生, 松永民秀

DPP-4 阻害薬アナグリプチンの NADPH oxidase 活性抑制を介した血管障害機序の解明

第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 28 日 (名古屋)

堀 英生, 永味千枝, 菊池千草, 竹内正義, 松永民秀

2 型糖尿病モデルラット大腿動脈における AGEs によるスーパーオキシド産生増加およびプラバスタチンによる抑制効果機序の解明

第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 28 日 (名古屋)

藤田直希, 菊池千草, 松永民秀, 鈴木 匡

糖尿病薬物療法の薬剤師の模擬体験によるアドヒアランスに影響を与える要因の検討

第 24 回日本医療薬学会年会. 2014 年 9 月 28 日 (名古屋)

松永民秀【招待講演】

ヒト iPS 細胞の創薬研究への応用

一般社団法人製剤機械技術学会 第 24 回大会. 2014 年 10 月 8 日 (名古屋)

Toru Takenaka, Naomoto Harada, Jiro Kuze, Masato Chiba, Takahiro Iwao,
Tamihide Matsunaga

Human small intestinal epithelial cells differentiated from adult intestinal stem cells as a novel system for predicting oral drug absorption in humans.

19th North American ISSX/29th JSSX Meeting

2014 年 10 月 23 日 (San Francisco, USA)

Tamihide Matsunaga【招待講演】

Utility of iPS Cells for Drug Metabolizing Enzyme Expression: Differentiation of human iPS cells into hepatocytes and enterocytes.

19th North American ISSX/29th JSSX Meeting

2014 年 10 月 23 日 (San Francisco, USA)

野田雅人, 菊池千草, 堀 英生, 永味千枝, 竹内正義, 松永民秀

DPP-4 阻害薬アナグリプチンの酸化ストレス抑制を介した血管障害機序の解明

第 88 回日本糖尿病学会中部地方会. 2014 年 10 月 26 日 (名古屋)

堀 英生, 菊池千草, 野田雅人, 今枝憲郎, 岡山直司, 松永民秀

2 型糖尿病患者の血中アディポネクチンにスタチンが及ぼす影響の性差

第 88 回日本糖尿病学会中部地方会. 2014 年 10 月 26 日 (名古屋)

鈴木 匡

薬を自分で選ぶ時代：薬を安全に効果的に利用しよう

名古屋市立大学平成 26 年度市民公開講座 2014 年 11 月 1 日 (名古屋)

松村治穂, 宮野百合香, 近藤勝弘, 黒田純子, 江崎哲夫, 木村和哲, 飯田真介, 中村克徳, 松永民秀

リツキシマブによるインフュージョンリアクション発症状況の検討

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2014

2014 年 11 月 9 日 (静岡)

藤田直希, 鍋谷伸子, 梅村紀匡, 菊池千草, 鈴木 匡

薬局検体測定室における継続的 HbA1c 測定の効果

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014

2014年11月9日（静岡）

井上 渉，藤田直希，菊池千草，鈴木 匡

実務実習生から見た薬剤師業務としての生活習慣指導の評価

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014

2014年11月9日（静岡）

5 科学研究費等補助金

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	研究期間(年度)	26年度配分額	研究課題名
新学術領域研究(研究領域提案型)	25136717	今泉 祐治	教授	2013-04-01 - 2015-03-31	¥5,200,000	カルシウムクロック機構の再構築と平滑筋組織ベースメーカーシミュレーション
新学術領域研究(研究領域提案型)	25121730	佐藤 匡史	准教授	2013-04-01 - 2015-03-31	¥2,340,000	糖タンパク質選別輸送装置の超分子形成および作動機構の解明
新学術領域研究(研究領域提案型)	26110716	矢木 宏和	講師	2014-04-01 - 2016-03-31(予定)	¥4,160,000	ジストログリカン糖鎖を形成する酵素複合体の同定とその作動メカニズムの解明
基盤研究(B)	25293028	中川 秀彦	教授	2013-04-01 - 2016-03-31(予定)	¥6,370,000	シグナル分子としてのNO・H2Sの光制御投与方法の開発と疾患モデルへの応用
基盤研究(B)	25291007	藤原 俊伸	教授	2013-04-01 - 2016-03-31(予定)	¥6,370,000	RNA結合タンパク質がファインチューニングする翻訳開始制御機構
基盤研究(B)	25291004	星野 真一	教授	2013-04-01 - 2017-03-31	¥4,290,000	新規遺伝子発現・mRNA品質管理システム『mRNAポリA鎖制御系』の全容解明
基盤研究(B)	25290007	桑 和彦	教授	2013-04-01 - 2016-03-31(予定)	¥5,590,000	ショウジョウバエを用いた自発的覚醒・睡眠制御機構の解析
基盤研究(B)	26293036	松永 民秀	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥6,760,000	ヒトiPS細胞の肝細胞及び腸管上皮細胞への分化と初回通過効果予測モデル系の構築
基盤研究(B)	26293021	今泉 祐治	教授	2014-04-01 - 2018-03-31	¥5,460,000	創薬標的としてのカルシウム依存性イオンチャネル機能複合体群の分子薬理学的研究
基盤研究(C)	24540440	奥 透	准教授	2012-04-01 - 2015-03-31	¥1,170,000	弱電解質の拡散によって駆動される荷電コロイドのダイナミクス
基盤研究(C)	24550160	山中 淳平	教授	2012-04-01 - 2015-03-31	¥1,170,000	球面上での荷電コロイド結晶化を用いた正多面体微粒子クラスターの構築
基盤研究(C)	24590142	梅澤 直樹	准教授	2012-04-01 - 2015-03-31	¥1,560,000	ペプチド機能を光制御する新手法の開発: 環状化戦略
基盤研究(C)	24590085	林 秀敏	教授	2012-04-01 - 2015-03-31	¥1,560,000	ストレス誘導性分子TRB1、TRB3によるストレス制御と疾患発症の分子メカニズム
基盤研究(C)	25430055	築地 仁美	講師	2013-04-01 - 2017-03-31	¥1,560,000	脊髄性筋萎縮症SMAと筋萎縮性側索硬化症ALSに共通するRNA代謝異常
基盤研究(C)	25430040	田中正彦	准教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,950,000	小脳プルキンエ細胞におけるリアノジン受容体を介した樹状突起形成制御機構の解明
基盤研究(C)	25460907	牧野 利明	教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,300,000	偽アルドステロン症発症リスクの個体差に関する研究と予知のための検査キットの開発
基盤研究(C)	25460724	大澤 匡弘	准教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥2,210,000	古典的グリア細胞機能に着目した慢性疼痛発現メカニズムの解明とその治療法への応用
基盤研究(C)	25460194	湯浅 博昭	教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,560,000	アクアポリン10の核酸塩基輸送機能: 核酸塩基及び関連薬物の小腸吸収における役割
基盤研究(C)	25460193	中村 克徳	准教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥650,000	分子標的薬投与によるインフュージョンリアクション発症機構の解明と評価系の構築
基盤研究(C)	25460171	伊藤 佐生智	講師	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,690,000	黄色ブドウ球菌毒素SSLの免疫かく乱作用に着目した感染予防・治療法の確立と創薬
基盤研究(C)	25460170	瀧井 猛将	准教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,690,000	結核菌生菌特異的な宿主細胞傷害活性の解析
基盤研究(C)	25460104	山村 寿男	准教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,560,000	カルシウム活性化クロライドチャネルTMEM16の新規修飾サブユニットの同定
基盤研究(C)	25460019	加藤 信樹	助教	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,560,000	新規[3+3]環化付加型反応を基盤とするインドールアルカロイド類合成法の開発
基盤研究(C)	25461651	青山 峰芳	教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,560,000	新生児期の虚血低酸素時に脳内エリスロポエチンがニューロンとグリアにもたらす効果
基盤研究(C)	26410097	豊玉 彰子	講師	2014-04-01 - 2017-03-31	¥2,860,000	モデル荷電コロイド系を用いた結晶化に伴う不純物排除機構の解明
基盤研究(C)	26440059	細田 直	講師	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,690,000	細胞質・核RNA品質管理におけるエキソソーム複合体の共通した作用機序
基盤研究(C)	26460228	菊池 千草	講師	2014-04-01 - 2017-03-31	¥2,990,000	性差医療を目指した糖尿病血管障害のメカニズム解明
基盤研究(C)	26460227	頭金 正博	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥2,210,000	診断群分類包括評価(DPC)データを用いた周術期薬物治療の有用性に関する研究
基盤研究(C)	26460203	岩城 壮一郎	講師	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,950,000	分泌型miRNAの測定による新規な動脈硬化発症・進展評価法の開発
基盤研究(C)	26460074	西塚 誠	講師	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,950,000	新規骨分化抑制因子fad104の機能解析と骨関連疾患発症における役割の解明
基盤研究(C)	26460073	服部 光治	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥2,210,000	巨大分泌タンパク質リールの新規情報伝達機構と、その病態との関連
基盤研究(C)	26460072	長田 茂宏	准教授	2014-04-01 - 2018-03-31	¥1,430,000	前がん病変で発現上昇するクロマチン関連因子による細胞死制御
基盤研究(C)	26460041	平嶋 尚英	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,690,000	巨大リボソームを用いた標的特異的分泌系の開発とDDS及び間接経口投与系への展開
基盤研究(C)	26460040	尾関 哲也	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,560,000	経肺投与型機能性ナノ粒子製剤の開発によるナノ医薬品の適応拡大を目指したDDS研究
基盤研究(C)	26460011	中村 精一	教授	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,820,000	新規架橋多環式骨格構築法を基盤とするパークレーゼン類の合成研究
基盤研究(C)	26507008	富田 淳	助教	2014-04-01 - 2017-03-31	¥1,950,000	睡眠量の恒常性維持機構におけるカルシニューリンの機能解析
挑戦的萌芽研究	24659050	宮田 直樹	教授	2012-04-01 - 2015-03-31	¥1,300,000	細胞内局在性を有するヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の合成
挑戦的萌芽研究	25670151	藤原 俊伸	教授	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,300,000	RNAアプタマーによる腫瘍マーカー検出法の開発
挑戦的萌芽研究	26670060	中川 秀彦	教授	2014-04-01 - 2016-03-31	¥1,820,000	Pin1酵素阻害剤の迅速スクリーニング用プローブの開発
挑戦的萌芽研究	26670039	今泉 祐治	教授	2014-04-01 - 2016-03-31	¥2,080,000	イオンチャネル標的創薬における細胞死測定による新規高効率探索系の創出
挑戦的萌芽研究	26670038	松永 民秀	教授	2014-04-01 - 2016-03-31	¥2,730,000	患者由来iPS細胞より疾患モデル細胞・動物作製と発症機序及び遺伝子治療評価系構築
挑戦的萌芽研究	26560451	加藤 晃一	教授	2014-04-01 - 2016-03-31	¥1,820,000	機能性ネオ糖脂質クラスターを利用した神経幹細胞の幹細胞性制御
若手研究(B)	25860120	岩尾 岳洋	講師	2013-04-01 - 2015-03-31	¥1,040,000	ヒトiPS細胞から機能的な腸管上皮細胞への分化と創薬研究への応用
若手研究(B)	25860053	矢木 宏和	講師	2013-04-01 - 2015-03-31	¥2,210,000	特定のタンパク質と糖鎖の組み合わせにより発動される神経幹細胞の分化制御機構の解明
若手研究(B)	25860026	田上 辰秋	講師	2013-04-01 - 2016-03-31	¥1,300,000	炎症性肺疾患に対する温度応答DDSの基盤技術に関する研究
若手研究(B)	25860009	家田 直弥	助教	2013-04-01 - 2015-03-31	¥2,080,000	生体応用を志向したPeT型光制御パーオキシナイトライト供与化合物の開発
若手研究(B)	25870611	堀田 祐志	助教	2013-04-01 - 2016-03-31	¥910,000	思春期の偏った食生活が将来の勃起機能に与える影響
若手研究(B)	26860059	鈴木 良明	助教	2014-04-01 - 2016-03-31	¥2,340,000	カルシウム活性化カリウムチャネル新規バリエーションのユニークな性質と疾患との関連
若手研究(B)	26860043	河野 孝夫	助教	2014-04-01 - 2016-03-31	¥1,950,000	脳の形成と機能を司る分泌蛋白質リールの、機能制御機構の解明とその創薬への応用
若手研究(B)	26860042	伊藤 友香	助教	2014-04-01 - 2016-03-31	¥1,950,000	TRB1によるTGFβシグナル制御を介した発がん機構の解明
若手研究(B)	26860014	山越 博幸	助教	2014-04-01 - 2016-03-31	¥2,080,000	海洋産アルカロイドスピロリドDの全合成研究
研究活動スタート支援	26893223	川口 充康	助教	2014-08-29 - 2015-03-31	¥1,430,000	ネクロプトーシス特異的検出蛍光プローブの開発
研究活動スタート支援	26893222	鈴木 亮	講師	2014-08-29 - 2015-03-31	¥1,430,000	アレルギー反応でのアレルギー親和性によるIgE受容体の動的多様性の研究

6 その他の研究補助金

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団研究助成金（平成 26 年度）
研究課題名 ENPP4 活性検出蛍光プローブの論理的開発と抗血小板薬としての
ENPP4 阻害剤探索（代表）
氏名 川口 充康
金額（千円） 3,000

文部科学省 創薬等支援技術基盤プラットフォーム（平成 26 年度）
研究課題名 C-H 結合活性化を活用する独創的リード化合物最適化（分担）
氏名 中川 秀彦
金額（千円） 3,920

公益財団法人 篷庵社平成 24 年度研究助成（平成 26 年度）
研究課題名 光制御可能な NO・活性酸素ドナー化合物の開発（代表）
氏名 中川 秀彦
金額（千円） 500

第一三共生命科学振興財団研究助成（平成 26 年度）
研究課題名 NO 関連情報伝達分子の次世代型光線力学療法剤の開発研究
氏名 中川 秀彦
金額（千円） 1,000

文部科学省
研究題目名 文部科学省創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業における生物活性
化合物の構造最適化
共同研究相手先 東京大学・名古屋大学・名古屋工業大学
氏名 樋口 恒彦（代表）
金額（千円） 15,880

平成 26 年度名古屋市立大学特別研究奨励費
研究課題名 抗炎症活性天然物バークレートリオンの全合成研究（代表）
氏名 山越 博幸
金額（千円） 500

有機合成化学協会 塩野義製薬 研究企画賞
研究課題名 二連続第四級不斉中心を持つテトラヒドロフランを光学活性中間体とす
る酸化型テルペノイドの全合成研究（代表）
氏名 山越 博幸
金額（千円） 500

科学研究費補助金 特別研究員奨励費
研究課題名 アセチルコリン受容体拮抗剤スピロリド D の合成研究（代表）
氏名 戸井田 明憲
金額（千円） 900

公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 平成 26 年度調査研究助成金
研究課題名 次世代アレルギー治療に向けたアレルゲン/IgE 親和性の機能解析および
診断法の開発
氏名 鈴木 亮
金額 (千円) 1,000

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 平成 26 年度研究助成金
研究課題名 マスト細胞と抗原親和性特異的浸潤細胞のクロストーク
氏名 鈴木 亮
金額 (千円) 2,000

公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団 第 32 回持田記念研究助成金
研究課題名 マスト細胞での抗原親和性に制御されるサイトカイン/ケモカインのハイ
ブリッド分泌システムの機能解析
氏名 鈴木 亮
金額 (千円) 3,000

名古屋市立大学 平成 26 年度特別研究奨励費
研究課題名 アレルギー反応でのアレルゲン親和性による IgE 受容体の動的多様性の
研究
~分泌顆粒の不均一性形成機構と特異的分泌メカニズムの詳細について~
氏名 鈴木 亮
金額 (千円) 300

公益財団法人 武田科学振興財団 2014 年度薬学系研究奨励
研究課題名 アレルゲンの親和性が制御するアレルギー反応多様性の解析
氏名 鈴木 亮
金額 (千円) 2,000

受託研究費 旭化成ケミカルズ株式会社
研究課題名 特異な電位を持つラテックスと無機粒子との凝集に関する研究指導 (代
表)
氏名 山中 淳平
金額 (千円) 500

東北大学金属材料研究所共同研究
研究課題名 コロイド系の結晶成長および不純物排除過程に対する粒子間相互作用の

影響（代表）
氏名 山中 淳平
金額（千円） 300

共同研究 トヨタ自動車株式会社
研究課題名 有機樹脂中でのコロイド結晶化制御（代表）
氏名 山中 淳平
金額（千円） 1,000

学術奨励寄附金 大塚化学株式会社
研究課題名 コロイド微粒子の自己組織化による配列構造形成とその制御に関する研究（代表）
氏名 山中 淳平
金額（千円） 600

受託研究費 戦略的創造研究推進事業（さきがけ）
研究課題名 コロイド結晶の構造制御と新規波長選択光学材料の創製
氏名 豊玉 彰子
金額（千円） 25,710

先駆的医薬品・医療機器研究発掘支援事業
研究課題 抗体医薬品等のバイオ医薬品の合理的開発のための医薬品開発支援技術の確立を目指した研究（分担）
担当課題 NMR を利用した抗体の高次構造解析
氏名 加藤 晃一
金額（千円） 7,650

戦略的創造研究推進事業 さきがけ
研究領域 ライフサイエンスの革新を目指した構造生命科学と先端的基盤研究
研究題目 小胞体糖タンパク質フォールディング装置作動メカニズムの解明(代表)
氏名 佐藤 匡史
金額（千円） 10,200

平成 26 年度 名古屋市立大学特別研究奨励費
研究課題名 脂肪細胞分化促進因子 FAD104 による肺胞上皮細胞分化制御機構の解明
氏名 西塚 誠
金額（千円） 600

公益財団法人 愛知県がん研究振興会 第 39 回 がんその他の悪性新生物研究助成金
研究課題名 発がん初期に発現上昇するヒストンメチル化酵素が細胞がん化に与える影響の解析

氏名 長田 茂宏
金額（千円）250

浦上食品・食文化振興財団
研究課題名 アルツハイマー病治療に有用な脳移行性クルクミン含有脂質ナノカプセルの開発技術に関する基盤研究
氏名 田上 辰秋
金額（千円）2,500

中部科学技術センター
研究課題名 肺炎部位における酵素反応を利用した機能性ペプチド送達技術の開発
氏名 田上 辰秋
金額（千円）300

厚生労働科学研究費 平成 26 年度 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）研究分担者
研究課題名 一般用医薬品における化学合成品等のリスク区分の見直しと漢方製剤の安全性確保に関する研究
氏名 牧野利明
金額（千円）500

厚生労働科学研究費 平成 26 年度 創薬基盤推進研究事業）研究協力者
研究課題名 薬用植物栽培並びに関連産業振興を 指向した薬用植物総合情報データベースの拡充と情報整備に関する研究
氏名 牧野利明
金額（千円）500

名古屋市立大学平成 26 年度特別研究奨励費
研究課題名 南カリフォルニア大学、瀋陽薬科大学、黒竜江中医薬大学との学術交流の推進
氏名 牧野利明
金額（千円）450

日本食品化学研究振興財団 平成 26 年度 研究助成
研究課題名 配糖化によるクルクミンの消化管吸収改善とそのメカニズムに関する研究
氏名 牧野利明
金額（千円）1,000

上原記念生命科学財団平成 26 年度研究推進特別奨励金

研究課題名 補腎作用をもつ生薬・漢方薬のサルコペニア予防作用に関する研究

氏名 牧野利明

金額（千円） 4,000

中富健康科学振興財団平成 26 年度研究助成金

研究課題名 抗がん薬による神経障害性疼痛に対する加工ブシの緩和作用とその有効成分

氏名 牧野利明

金額（千円） 1,500

公益財団法人 喫煙科学研究財団

研究課題名 タバコ抽出液中に存在するアジュバンド活性物質の応用研究

氏名 瀧井猛将

金額（千円） 2,000

公益財団法人発酵研究所一般研究助成（平成 26 年度）

研究課題名 細菌毒素を認識する RNA アプタマーの創製と検査、診断および治療への応用

氏名 伊藤 佐生智

金額（千円） 3,000

名古屋市立大特別研究助成

研究課題名 細菌毒素を認識／中和する RNA アプタマーの創製

氏名 伊藤 佐生智

金額（千円） 500

鈴木謙三記念医科学応用研究財団

研究課題名 黄色ブドウ球菌毒素の宿主タンパク質阻害作用を応用した生活習慣病治療薬の創製

氏名 伊藤 佐生智

金額（千円） 1,000

日本 BCG 製造株式会社 寄付金

研究課題名 BCG ワクチン亜株間の獲得免疫誘導能の差異と免疫持続に関する研究

氏名 瀧井猛将

金額（千円） 2,000

科学技術振興機構

研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) フィージビリティスタディ

【FS】ステージ

「精神神経疾患の改善を目的としたリーリン機能増強薬の開発」

平成 26 年度名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 新規プロスタグランジントランスポーターの機能解析及び迅速機能評価系の構築

氏名 太田欣哉

金額 (千円) 500

平成 26 年度 名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 エリスロポエチンによるミクログリア活性調節を介した新規神経疾患治療法の確立 500 千円

氏名 青山峰芳

金額 (千円) 500

平成 26 年度 名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 スフィンゴシン誘導体による脂質輸送および脂質産生量調節を介した新規抗炎症・再灌流傷害抑制機構の解明

氏名 岩城壮一郎

金額 (千円) 500

平成 26 年度 科学技術振興機構 A-STEP

研究課題名 原がん遺伝子 Ski 阻害ペプチド (Ski-tide) による新規がん治療法の開発 (代表)

氏名 井上 靖道

金額 (千円) 1,700

平成 26 年度 横山臨床薬理研究助成基金 研究助成

研究課題名 原がん遺伝子 Ski 阻害ペプチドによる新規分子標的薬の創成 (代表)

氏名 井上 靖道

金額 (千円) 1,000

平成 26 年度 愛知県がん研究振興会 がんその他の悪性新生物研究助成

研究課題名 TGFβ シグナル伝達分子 Smad を介した TRB1 による細胞がん化の分子

基盤（代表）

氏名 伊藤 友香

金額（千円） 500

平成 26 年度 鈴木謙三記念医科学応用研究財団 調査研究助成

研究課題名 新規インスリン誘導性分子 TRB1 による糖新生関連遺伝子の発現調節機構の解明（代表）

氏名 伊藤 友香

金額（千円） 1,000

武田科学振興財団

氏名 糸和彦

金額（千円） 10,000

上原記念科学財団

氏名 糸和彦

金額（千円） 5,000

厚生労働省医薬品等審査迅速化事業費補助金

研究課題名 バイオマーカーを活用した分子標的薬の有効性・安全性の効率的評価法の確立

氏名 頭金正博

金額(千円) 38,000

内閣府食品安全委員会食品健康影響評価技術研究

研究課題名 化学物質により誘発される肝肥大の毒性学的評価手法の確立と今後の問題点（分担）

氏名 頭金正博

金額(千円) 4,500

厚生労働科学研究費（医薬品等規制調査・評価研究事業）

研究課題名 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベース利活用方法に関する薬剤疫学研究（分担）

氏名 頭金正博

金額(千円) 850

厚生労働科学研究費（地球規模保険課題解決推進のための研究事業）

研究課題名 医薬品薬物動態・薬力学に関する東アジア研究（代表）

氏名 頭金正博

金額(千円) 29,750

平成26年度名古屋市立大学特別研究奨励費

研究課題名 DPP-4阻害薬による血管保護作用機序の解明

氏名 菊池千草（分担者：松永民秀）

金額（千円） 500

7 学外との共同研究

平成26年度 薬学研究科共同研究契約状況一覧							
	薬共	分野名	研究担当者		研究題目	共同研究相手先	研究契約期間
			補職	氏名			
1	薬共22-6	臨床薬学	教授	鈴木 匡	薬剤師教育の教育効果評価法の開発と検討	株式会社スズケン	平成23年3月1日～平成28年2月29日
2	薬共24-7	臨床薬学	教授	松永 民秀	幹細胞およびこれから分化した諸細胞の評価法	株式会社プライマリーセル (7/1より コスモ・バイオ株式会社)	平成24年6月1日～平成27年3月31日
3	薬共25-5	生薬学	教授	寺坂 和祥	新規バイオサーファクタントの開発を目指した、植物培養細胞によるトリテルペンの配糖化の研究	日本ロレアル株式会社	平成25年9月2日～平成26年8月31日
4	薬共25-9	薬物送達学	教授	尾関 哲也	2液混合型スプレードライヤーノズルを用いた魚油のフンストップマイクロカプセル化製法の研究	日本水産株式会社	平成25年11月1日～平成27年3月31日
5	薬共25-10	臨床薬学	助教	岩尾 岳洋	ヒトPS細胞から医薬品の体内動態を定量的に解析可能な腸管上皮細胞への分化誘導法の開発	第一三共株式会社 (TaNeDS)	平成27年4月1日～平成27年9月30日
6	薬共26-1	生薬学	准教授	牧野 利明	辛夷清肺湯の副鼻腔炎に対する有用性に関する基礎的なエビデンス	小林製薬株式会社	平成26年4月1日～平成27年3月31日
7	薬共26-2	薬物送達学	教授	尾関 哲也	リン脂質ポリマーの胃潰瘍治療剤	日油株式会社	平成26年4月1日～平成27年3月31日
8	薬共26-3	薬物動態制御学	教授	湯浅 博昭	腎トランスポーター安定発現細胞株の作製及び機能解析	小野薬品工業株式会社	平成26年4月1日～平成27年3月31日
9	薬共26-4	薬物送達学	教授	尾関 哲也	食品および医薬品の嚥下性の改善に関する研究	日清オイログループ株式会社	平成26年6月1日～平成27年5月31日
10	薬共26-5	病態生化学	教授	服部光治	精神神経疾患関連分子の機能解明	田辺三菱製薬株式会社	平成26年6月1日～平成27年5月31日
11	薬共26-6	生薬学	教授	牧野 利明	生薬成分の有機アニオン輸送ペプチド阻害作用に関する研究と大建中湯含有成分の体内動態に関する研究	株式会社ソムラ	平成26年4月1日～平成28年3月31日
12	薬共26-7	生薬学	教授	牧野 利明	漢方エキスの薬効評価及び活性成分の探索	ロート製薬株式会社	平成26年4月1日～平成27年3月31日
13	薬共26-8	薬物送達学	教授	尾関 哲也	口腔内崩壊錠の製剤設計を目的とした微小構造を持つ新規添加剤の応用に関する研究	大鵬薬品工業株式会社	平成26年6月1日～平成27年5月31日
14	薬共26-9	生体超分子システム解析学	教授	平嶋 尚英	Teriparatideの脂肪分解効果の基礎的検討	旭化成ファーマ株式会社	平成26年7月1日～平成27年6月30日
15	薬共26-10	コロイド・高分子物性学	教授	山中 淳平	重力場を制御したコロイド凝集・結晶化を支配する粒子間相互作用の研究(コロイドRT)	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	平成26年8月1日～平成26年3月31日
16	薬共26-11	臨床薬学	教授	鈴木 匡	薬剤師が在宅医療に関わるために必要な能力向上に関する教育手法の開発	東邦薬品株式会社	平成26年7月1日～平成27年3月31日
17	薬共26-12	薬物送達学	教授	尾関 哲也	有機化合物ナノコロイドの薬学的評価	アイシン精機株式会社	平成26年8月1日～平成27年7月31日
18	薬共26-13	神経薬理学	教授	桑 和彦	睡眠に関する共同研究	オムロンヘルスケア株式会社	平成26年10月1日～平成27年9月30日
19	薬共26-14	コロイド・高分子物性学	教授	山中 淳平	高分子樹脂中でのコロイド結晶形成メカニズムの検証と評価	トヨタ自動車株式会社	平成26年5月27日～平成27年3月31日
20	薬共26-15	臨床薬学	教授	松永 民秀	ヒトPS細胞の肝細胞及び腸管上皮細胞への分化におけるスフェロイド浮遊培養法の評価	日産化学工業株式会社	平成26年8月1日～平成27年7月31日
21	薬共26-16	レギュラトリーサイエンス	教授	頭金 正博	HLAが関与する特異体質性副作用のin vitro評価系と発症機序に関する研究	第一三共株式会社	契約締結日(平成26年12月4日)～平成28年3月31日
22	薬共26-17	生薬学	教授	牧野 利明	米タンパク質の高尿酸血症改善作用に関する研究	亀田製薬株式会社	平成27年2月1日～平成27年3月31日
23	薬共26-18	コロイド・高分子物性学	教授	山中 淳平	高分子樹脂中でのコロイド結晶形成メカニズムの検証と評価	トヨタ自動車株式会社	平成27年1月1日～平成27年3月31日
24	薬共26-19	薬物送達学	教授	尾関 哲也	乙開発化合物(抗真菌薬及び抗炎症薬の2化合物)の吸入剤開発	MeijiSeikaファルマ株式会社	平成27年2月1日～平成28年3月31日
25		生命分子構造学	教授	加藤 晃一	酵母発現系での糖タンパク質の生産法	独立行政法人産業技術総合研究所	平成26年6月1日～平成27年5月31日
26		臨床薬学	教授	松永 民秀	幹細胞およびこれから分化した諸細胞の評価法	株式会社イナリサーチ	平成26年4月1日～平成30年3月31日
27		生命分子構造学	教授	加藤 晃一	たんぱく質の安定同位体標識技術の開発	大陽日酸株式会社	平成21年4月1日～平成27年3月31日
28		生命分子構造学	教授	加藤 晃一	3D HPLCを用いた各種糖たんぱく質の糖鎖構造解析	株式会社医学生物学研究所	平成26年7月1日～平成27年3月31日

29		コロイド・高分子物性学	教授	山中 淳平	酸化チタン粒子および金粒子等を用いた新規材料開発	富士化学株式会社	平成26年9月1日～平成27年8月31日
30		精密有機反応学	教授	樋口 恒彦	ポリアミンおよびペプチド類縁体の機能解析	独立行政法人理化学研究所	契約締結日(平成26年12月4日)～平成30年3月31日
31		薬物送達学	教授	尾関 哲也	機能性素材の抗菌効果の調査	名古屋工業大学	平成26年11月1日～平成27年3月31日
32		生命分子構造学	教授	加藤 晃一	酵母発現系での糖タンパク質の生産法	独立行政法人産業技術総合研究所	平成26年6月1日～平成27年5月31日
33		生体超分子システム解析学	教授	平嶋 尚英	Teriparatideの脂肪分解効果の基礎的検討	メナード株式会社 北海道大学	平成26年7月1日～平成27年6月30日
34		衛生化学	准教授	瀧井 猛将	抗opta特異抗体作製と抗酸菌種特異的検出法の開発研究	株式会社富山研究所	平成26年8月1日～平成28年3月31日

8 新聞報道等

加藤晃一、佐藤匡史
「細胞中のタンパク質分解装置出来上がる新たな仕組み解明」
科学新聞 平成 26 年 4 月 11 日

加藤晃一
「異常タンパク質排除促す物質」
中日新聞 平成 26 年 9 月 3 日

加藤晃一、山口拓実
「水中で絶えず揺らいでいる糖鎖の立体構造変化を解明」
科学新聞 平成 26 年 9 月 26 日

蛭川 暁
「構造異常タンパク質分解に必須 糖鎖刈り込み機構解明」
科学新聞 平成 26 年 10 月 3 日

尾関 哲也
研究現場 発 機能性ナノ医薬品・DDS 製剤の創製
「異分野融合による創薬イノベーションを目指す」
中部経済新聞 平成 26 年 11 月 25 日

中川秀彦
日本酸化ストレス学会学術賞

Drug Metabolism and Pharmacokinetics (DMPK) Editors' Award for the Most Excellent Article in 2014

Takahiro Iwao, Masashi Toyota, Yoshitaka Miyagawa, Hajime Okita, Nobutaka Kiyokawa, Hidenori Akutsu, Akihiro Umezawa, Kiyoshi Nagata, Tamihide Matsunaga
Differentiation of human induced pluripotent stem cells into functional enterocyte-like cells using a simple method.

Drug Metab. Pharmacokinet., **29**, 44–51 (2014).

日本薬学会 医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム優秀ポスター賞

宮野百合香, 大手万理子, 佐藤大介, 前田 徹, 中村克徳, 松永民秀
糖原病 Ib 型患者由来 iPS 細胞を用いた好中球病態モデルの作成

医療薬学フォーラム 2014/第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2014 年 6 月
28 日 (東京)

James R. Gillette Drug Metabolism Best Paper of 2014, American Society for

Pharmacology and Experimental Therapeutics

Toru Takenaka, Naomoto Harada, Jiro Kuze, Masato Chiba, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Human small intestinal epithelial cells differentiated from adult intestinal stem cells as a novel system for predicting oral drug absorption in humans.

Drug Metab. Dispos., **42**, 1947–1954 (2014).

9 進路および就職状況

学部・学研究所卒業生(修了者)進路調(平成26年度卒業)

平成27年4月1日現在

(単位:人)

区分	卒業生	就職希望者	就職決定者	就職地域別							計	就職未決定者	進学・その他											
				市内	県内	中部	京浜	京阪神	その他	就職先業種別														
学部	112 (50)	54 (33)	53 (33)	農業・林業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		大学院進学	58	(17)						
				漁業・水産業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		専門学校進学	0	(0)				
				鉱業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		国家資格等試験準備	0	(0)				
				建設業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		公務員試験準備	0	(0)				
				製	業	食料品・飲料・たばこ・飼料	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	1	既に有職者で就職せず	0	(0)		
						繊維工業・衣服	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	(0)	0	(0)	0	(0)	
						出版・印刷・同関連産業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
						化学工業・石油・石炭製品	0	(0)	0	(0)	0	(0)	13	(5)	0	(0)	0	(0)	14	(6)				
						鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
						汎用・生産用業務器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
						電子部品・デバイス	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
						電気・情報通信機械器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
						輸送用機械器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
						その他の製造業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
				電気・ガス・熱供給・水道業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				情報通信	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				運輸・郵便	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				卸売業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				小売業	0	(0)	2	(1)	0	(0)	4	(2)	0	(0)	0	(0)	6	(3)						
				金融業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				保険業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				不動産取引・賃貸業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				物品賃貸業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				学術・開発研究機関	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				法務	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				その他専門技術サービス	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				宿泊業・飲食サービス業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				生活関連サービス業、娯楽業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				学校教育	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				その他の教育・学習支援	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				医療・保健衛生	6	(6)	8	(8)	4	(2)	5	(2)	3	(2)	1	(1)	27	(21)						
				社会保険・社会福祉・介護事業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				複合サービス業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				宗教	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				サービス業(その他)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				国家公務	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
				地方公務	3	(1)	2	(1)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	6	(3)						
				計	9	(7)	12	(10)	5	(3)	22	(9)	4	(3)	1	(1)	53	(33)						
				全体の地域別割合	17.0%		22.6%		9.4%		41.5%		7.5%		1.9%		100.0%							
				女子の地域別割合	(21.2%)		(30.3%)		(9.1%)		(27.3%)		(9.1%)		(3.0%)		(100.0%)							

大 学 後 期	博 士 院			農業・林業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	既に有職者で就職せず	0	(0)				
				漁業・水産業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	その他(進路未定を含む)	1	(0)		
				鉱業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	計	1	(0)		
				建設業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)					
		5	4	4	製 造 業	食品・飲料・たばこ・飼料	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0 (0)				
		(1)	(1)	(1)		繊維工業・衣服	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)					
						出版・印刷・同関連産業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)					
						化学工業・石油・石炭製品	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)		1	(0)		
						鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		0	(0)		
						汎用・生産用業務器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		0	(0)		
						電子部品・デバイス	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		0	(0)		
						電気・情報通信機械器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		0	(0)		
						輸送用機械器具	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)		0	(0)		
					その他の製造業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					電気・ガス・熱供給・水道業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					情報通信	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					運輸・郵便	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					卸売業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					小売業	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)				
					金融業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					保険業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					不動産取引・賃貸業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					物品賃貸業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					学術・開発研究機関	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)				
					法務	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					その他専門技術サービス	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					宿泊業・飲食サービス業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					生活関連サービス業、娯楽業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					学校教育	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					その他の教育・学習支援	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
					医療・保健衛生	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)				
					社会保険・社会福祉・介護事業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)				
			複合サービス業	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
			宗教	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
			サービス業（その他）	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
			国家公務	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
			地方公務	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
			計	1	(0)	1	(0)	1	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(1)						
			全体の地域別割合	1.9%		1.9%		1.9%		1.9%		0.0%		0.0%		100.0%							
			女子の地域別割合	(0.0%)		(0.0%)		(3.0%)		(0.0%)		(0.0%)		(0.0%)		(100.0%)							

() は女子で内数

10 薬学部在籍者名簿

大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(平成26年4月現在)

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦			家田 直弥 川口 充康
	精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹		加藤 信樹
	薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
	機能分子構造学		池田 慎一	白井 直洋	
生命分子薬学	生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦	鈴木 亮	
	コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透	豊玉 彰子	
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	佐藤 匡史	矢木 宏和	
	分子生物薬学	今川 正良	長田 茂宏	西塚 誠	
	薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
	構造薬学 *		藤井 陽一		
医療分子機能薬学	生薬学	牧野 利明			寺坂 和祥
	衛生化学	藤原 俊伸	瀧井 猛将	伊藤佐生智	深尾 亜喜良 (特任助教)
	遺伝情報学	星野 真一		細田 直	
	細胞分子薬効解析学	今泉 祐治	山村 壽男		鈴木 良明
	病態生化学	服部 光治		築地 仁美	河野 孝夫
医療薬学	薬物動態制御学	湯浅 博昭			太田 欣哉
	病態解析学		樫本 紀夫	岩城壮一郎	
	医薬品代謝解析学	林 秀敏	井上 靖道		伊藤 友香
	神経薬理学	糸 和彦	大澤 匡弘		山本 昇平 富田 淳 (特任助教)
	レギュラトリーサイエンス	頭金 正博			長部 誠 田島 陽子 安部 賀央里 (3名とも特任助教)
	病院薬剤学	木村 和哲 (兼務)	川出 義浩 (特任准教授)	前田 康博	内藤 敏子 堀田 祐志
	臨床薬学	松永 民秀 鈴木 匡	中村 克徳	菊池 千草 岩尾 岳洋	
腫瘍制御学 (連携大学院)	青木 正博 (客員教授:愛知県がんセンター研究所)	笠原 広介 (客員准教授:愛知県がんセンター研究所)			
加齢病態制御学 (連携大学院)		杉本 昌隆 飯島 浩一	(客員准教授:国立長寿医療センター研究所) (客員准教授:国立長寿医療センター研究所)		
医薬品質保証学 (連携大学院)	佐藤 陽治 合田 幸広	(客員教授:国立医薬品食品衛生研究所) (客員教授:国立医薬品食品衛生研究所)			
環境・発生生物学 (連携大学院)	井口 泰泉 (客員教授:自然科学研究機構 岡崎統合ハゲイ(ノズセンター))	東島 眞一 (客員准教授:自然科学研究機構 岡崎統合ハゲイ(ノズセンター))			
医薬品情報機器審査科学 (連携大学院)	中村 高敏 (客員教授:医薬品医療機器総合機構)				

医療分子機能薬学	生薬学	足立 拓海 大北 剛司 北林 大侑 葉 珂	4	篠田 祐布香 鈴木 俊章 山田 亜紀	3	7	張 伏子	1	高 勝莉	1										1	10		
	衛生化学	高辻 良文	1			1						0								0	1		
	遺伝情報学	奥村 真由 西浦 久達	2	松本 彩希	1	3	福島 真	1			岡本 淳志 山岸 良多	2	3							0	6		
	細胞分子薬効解析学	佐伯 尚紀 野田 さゆり 山田 茜	3	栗田 卓 西村 歌織 林 恵介	3	6					鬼頭 宏彰	0		松木 克仁	1						1	7	
	病態生化学	奥村 恭子 牧野 誠	2	佐藤 嘉高	1	3							0	水上 智晴 山影 祐子	2	水谷 健二	1				3	6	
医療機能薬学	薬物動態制御学	庄司 大介 鈴木 祐稀 水野 加奈子	3	石山 高範 山城 貴弘 山田 知美 田島 健太郎	4	7			古川 純士	1			1	三村 佳久	1						1	9	
	病態解析学			甲神 知紗登 長谷川 諒	2	2	郭 威	1					1								0	3	
	医薬品代謝解析学			澤中 美希 野原 匠 宮田 和弥 石井 陽子	4	4					宮嶋 ちはる 西川 佐紀子	2	2		加藤 直樹	1					1	7	
	神経薬理学	山田 彬博	1	村上 友康	1	2	橋崎 将典	1			矢野 裕恭	1	2								0	4	
	レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学	柴田 郁弥 横田 俊	2	中野 駿 山田 健人	2	4			浅野 邦仁 八木 聡美	2	萩原 宏美 花谷 忠昭	2	4								0	8	
	病院薬剤学					0					高木 三千代 山本 清司	2	2	後藤 佳奈 真川 明将 長崎 彩子	3	高橋 瀬奈	1					4	6
	臨床薬学					0			小枝 暁子 坂本 栄 堀 英生	3				3	堺 陽子 堀場 亜佐子	2			小玉 菜央 神原 明美	2			4

腫瘍制御学	青木 啓将	1			1						0								0	1	
加齢病態制御学					0						0								0	0	
医薬品質保証学					0						0								0	0	
計		39		35	74		7		12		14	33		11		7		8	0	26	133

平成26年度 卒業研究実習研究室配属

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬化学	泉屋 有佑 下屋 圭佑 谷 卓磨	井上 理映子	杉本 賢俊 山田 創太	田丸 廉太 若森 久幸	犬飼 雄哉 奥野 華 脇田 弘臣
精密有機反応学	辻 佳寿美	河内 功三(H24~) 丹羽 雄紀		天野 太成 新木 悠介 中山 隆盛	大久保 恵理奈
薬品合成化学	稲富 早紀	高田 真央	中西 知弘 渡邊 健斗	有馬 竜平 陰 未来	竹田 圭介
機能分子構造学		大江 泰	平野 忍 森本 諭		原 侑也(H25~) 古橋 俊佑
生体超分子システム解析学	稲本 奨平 小久江 俊哉 丸山 由貴	尾関 祐哉 寺本 ひかる	柴田 哲大 瀬尾 拓也 千田 知美 内藤 安紗美	大倉 宇海 辻 椋矢 服部 幸希	木村 友香 真野 安由美 溝端 沙莉
コロイド・高分子物性学	阿部 夏実 今井 麻未 須子 美里	犬飼 麗華 小田井 香奈 平岩 いずみ 松野 宏美	佐藤 雄一 柿原 千穂 関 友崇 飛永 あゆみ 山崎 千鶴	林 直輝	佐藤 直子 西川 卓 深谷 奈央
生命分子構造学	梶野 愛 金 明美	谷口 雄基 柘植 信吾(H24~)	齋藤 拓也	與語 理那	柚木 康弘(H25~)

分子生物薬学	内藤 仁美	田島 聡美	粟津 輝彦	小島 舞子	市岡 香貴
	橋本 竜弥	山田 絵理	中村 真也	小林 祐太	加藤 苑果
		和田 麻友美	堀之内 涉	広瀬 健	後藤 元晴
		渡辺 鮎美	山口 桃子		益田 実己也
薬物送達学	小川 恵美	柏木 沙織	三間 健裕	小内 ゆい	石亀 貴欣
	中谷 貴菜	種継 友祐	駄栗毛 美緒	後藤 瑛一	布施 俊樹
	森 千絵未	寺田 由佳		太根 将史	森川 善以
	若林 里奈	宮原 佐知			
マイクロRNAゲノム創薬学					大曾根 達則 (H25~)
生薬学	飯島 利恵	石田 智滉	伊藤 菜奈子	久保 優人	渡邊 智暉
	長地 康孝	棚橋 俊介	木村 雪乃		
	樋渡 純一	平松 みどり	近藤 沙耶		
		増本 克彦	小西 里枝		
衛生化学	池田 大輔	富田 陽香	川島 直己	岩井 紀貴	青山 智彦
	友廣 拓生	矢野 雄暉	貞廣 暁利	大島 卓弥	大塚 衆志
	濱野 友香	山田 由佳	高見 篤郎	武知 美和	
		徳田 美季	齋藤 彩子	田中 夕貴	
遺伝情報学		稲垣 佑都	前川 彩乃	永井 貴広	川島 生
		田中 悠紀子 (H26~)	奥苑 朱加	古舘 和也	田中 杏莉
		長瀬 加奈	千布 高太郎	堀田 昂志	張 天岳
		奈良尾 紀美子	釣 真由美		
		野木森 拓人			
細胞分子薬効解析学	堤 香菜子	美濃部 雅士	松井 未来	萩原 由実子	山越 大槻
	仲矢 有希		川崎 桂輔	古川 奈美	山田 啓史
			宮本 達也		山村 英斗
			横井 一輝		
		安本 美貴			
病態生化学	今村 梨絵	亀井 隆奈	高嶋 悠	加藤 路尚	荻野 ひまり
	山下美星	竹内 真理		本郷 彩	近藤 佑多
		別府 菜子		目方 沙季	酒井 かおり
		柳生 隼太			

薬物動態制御学	片山 めぐみ	宇佐美 伶奈	伊藤 美紀	鈴木 香帆	河村 繁宏
	柘植 彩花	佐々木 瞳	村田 康晴	菱川 洋輔	関口 裕太郎
	中村 恭子	森田 佳祐	安田 敬亮		細馬 あかね
	渡邊 理奈	森久 佳菜	柳川 亜由美		
病態解析学			齊藤 美加		
			小笠原 美沙		
			草原 ゆり		
医薬品代謝解析学	伊藤 彰悟	小西 浩明	今井 和弘	鈴木 千晶	川崎 文寛
	福浦 啓史	隅田 ちひろ	岩中 広美	田中 孝仁	佐藤 晃一
	水川 絵理子	舩田 悠介	川地 志緒里	田中 輝	杉田 直央
	山田 莉香子	三田村 佳奈	松野 薫		
神経薬理学	荒川 千暁	加藤 慎也	倉谷 亮佑	石倉 啓一郎	飯尾 彩加
	宮本 啓補	西口 友理		中川 寛之	北尾 優花
		林 里花		坂 豪祐	中根 伸
				丸岡 純也	長谷川 達也
医薬品安全性評価学	石原 佳奈	井口 祐美子	田村 空彌(H25~)	岡本 秀人	柴北 健佑
	田村 花梨	河合 加奈	小川 喜寛	安田 卓	鈴木 章裕
	福澤 和輝	山田 梨紗子	脇田 真実子		田近 聡幸
	山下 彩花		藤原 由季子		西川 良平
病院薬剤学	所 美里	中村 大学	青木 有希	北川 絢恵	矢萩 亮
	深本 絢子	皆川 真里	本成 真理奈	富田 なつみ	
	前田 琴美				
	前田 陽子				
臨床薬学教育研究センター	松山 奈央				
	長崎 瑞佳	井上 渉	松村 治穂	大西 琢	阿武 志保
	福山 了介	川合 結乃	鵜飼 茜	杉本 章	余 悦
	松村 若菜	栗木 駿輔	大手 万理子		
	山下 綾	権田 革達	奥村 啓樹		
	山田 果奈	中野 靖久	小野里 太智		
山野上 舞	藤田 直希	壁谷 知樹			
	宮野 百合香	野田 雅人			

研究員

許可 NO.	新規・継続	配属分野	氏名	今回許可年月日
1	継続	生体超分子システム解析学	伊納 義和	平成26年4月1日
2	継続	生命分子構造学	平松 佳永	平成26年4月1日
3	継続	生命分子構造学	千田紀代美	平成26年4月1日
4	継続	生命分子構造学	近藤 幸子	平成26年4月1日
5	継続	生命分子構造学	服部久美子	平成26年4月1日
6	継続	生命分子構造学	山口 拓実	平成26年4月1日
7	継続	生命分子構造学	栗本 英治	平成26年4月1日
8	継続	生命分子構造学	竹内 英明	平成26年4月1日
9	継続	生命分子構造学	矢木 真穂	平成26年4月1日
10	継続	生命分子構造学	水島 恒裕	平成26年4月1日
11	継続	生命分子構造学	高木 賢治	平成26年4月1日
12	継続	生命分子構造学	張 英	平成26年4月1日
13	継続	生命分子構造学	朱 彤	平成26年4月1日
14	新規	生命分子構造学	Sikdar Arunima	平成26年4月1日
15	新規	生命分子構造学	Yan Gengwei	平成26年4月1日
16	継続	生薬学	安井 敏洋	平成26年4月1日
17	継続	生薬学	永津 明人	平成26年4月1日
18	継続	生薬学	大野 高政	平成26年4月1日
19	継続	生薬学	田邊 宏樹	平成26年4月1日
20	継続	生薬学	小島 一夫	平成26年4月1日
21	継続	生薬学	呉 春珍	平成26年4月1日
22	継続	生薬学	角谷 盛夫	平成26年4月1日
23	継続	生薬学	中西 宏文	平成26年4月1日
24	継続	生薬学	白 帆	平成26年4月1日
25	継続	遺伝情報学	山本 肇	平成26年4月1日
26	継続	病態解析学	小泉 恵子	平成26年4月1日
27	継続	病態解析学	鈴木 元	平成26年4月1日
28	継続	病態解析学	水谷 直貴	平成26年4月1日
29	継続	医薬品代謝解析学	吉田 康子	平成26年4月1日
30	継続	医薬品代謝解析学	中田 佳宏	平成26年4月1日

31	継続	医薬品安全性評価学	伊東 真紀	平成26年4月1日
32	継続	医薬品安全性評価学	斎藤 嘉朗	平成26年4月1日
33	継続	臨床薬学	松本 雄一	平成26年4月1日
34	継続	臨床薬学	武中 徹	平成26年4月1日
35	継続	臨床薬学	河村 文夫	平成26年4月1日
36	継続	生体超分子システム解析学	井上 悠	平成26年4月1日
37	継続	生体超分子システム解析学	足立 浩章	平成26年4月1日
38	継続	薬物動態制御学	石黒 雅江	平成26年4月1日
39	継続	薬物動態制御学	井上 勝央	平成26年4月1日
40	継続	薬物動態制御学	井上 健	平成26年4月1日
41	継続	薬物動態制御学	片野 貴大	平成26年4月1日
42	継続	薬物動態制御学	近藤 徹	平成26年4月1日
43	継続	薬物動態制御学	佐野 直也	平成26年4月1日
44	継続	薬物動態制御学	鈴木 成樹	平成26年4月1日
45	継続	薬物動態制御学	山本 俊輔	平成26年4月1日
1	新規	衛生化学	土井 章	平成26年4月1日
2	新規	生薬学	趙 伯陽	平成26年4月1日
3	新規	神経薬理学	森 優作	平成26年4月1日
4	新規	薬物送達学	Ibrahim Shaimaa	平成26年4月1日
5	新規	生命分子構造学	安西 高廣	平成26年4月2日
6	新規	生命分子構造学	蜷川 暁	平成26年4月3日
7	新規	医薬品代謝解析学	酒井 聡	平成26年4月4日
8	新規	病院薬剤学	片岡 智哉	平成26年4月7日
9	新規	臨床薬学	近藤 裕樹	平成26年4月7日
10	新規	細胞分子薬効解析学	鬼頭 宏彰	平成26年4月16日
11	新規	薬物送達学	Jennifer Wong	平成26年6月10日
12	新規	臨床薬学	金濱 吉範	平成26年6月11日
13	新規	臨床薬学	清水 恭子	平成26年6月25日
14	新規	臨床薬学	三木 健義	平成26年7月24日
15	新規	医薬品安全性評価学	野中 友香	平成26年9月17日
16	新規	生命分子構造学	谷山 怜子	平成26年10月1日
17	新規	臨床薬学	松本 和也	平成26年10月26日

26教員採用・昇任・退職					
区分	分野	補職名	氏名	辞令年月日	前職・移動先等
採用	病院薬剤学	特任准教授	川出 義浩	H26.4.1	名古屋第二日赤病院
採用	病態生化学	講師	築地 仁美	H26.4.1	理化学研究所脳科学総合研究センター
採用	生体超分子システム解析学	講師	鈴木 亮	H26.4.1	名市大研究員
採用	薬化学	助教	川口 充康	H26.4.1	日本学術振興会特別研究員
採用	衛生化学	特任助教	深尾 亜喜良	H26.4.1	日本学術振興会特別研究員
採用	神経薬理学	特任助教	富田 淳	H26.4.1	熊本大学発生医学研究所博士研究員
採用	レギュラトリーサイエンス	特任助教	桶本 和男	H26.8.1	(株)WDB 派遣研究員
採用	薬物動態制御学	助教	保嶋 智也	H27.2.1	アメリカ国立環境衛生科学研究所 研究員
採用	病態解析学	教授	青山 峰芳	H27.2.1	名古屋市立大学医学部講師から所属異動
昇任	生薬学	教授	牧野 利明	H26.4.1	准教授
昇任	臨床薬学	講師	岩尾 岳洋	H26.4.1	助教
昇任	生薬学	講師	寺坂 和祥	H26.6.1	助教
退職	レギュラトリーサイエンス	特任助教	田島 陽子	H26.7.31	
退職	衛生化学	教授	藤原 俊伸	H27.3.31	近畿大学薬学部(生化学講座)教授
退職	神経薬理学	助教	山本 昇平	H27.3.31	川崎医科大
退職	衛生化学	特任助教	深尾 亜喜良	H27.3.31	任期満了
退職	機能分子構造学	講師	白井 直洋	H27.3.31	定年
退職	病態解析学	准教授	樋本 紀夫	H27.3.31	定年

職 員[2014年4月1日現在]

総合機器分析施設

衛生技師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事務長：渡邊 一紀

学務係長：滝塚 厚夫

主 事：内木 篤，丹羽 隆，

業務士：山田 俊也

事務系職員：松永 佳子，水野 栄子，宮田 晴子，加藤 典子

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分館長：樋口 恒彦（精密有機反応学分野教授兼務）

司 書：政谷 浩子，榎本 涼子

職員の異動（2014年3月31日～）

退職：山田 治夫（2014年3月31日退職）

異 動：三浦 伸介（2014年3月31日転出 →業務課へ）

藤井 華子（2014年3月31日転出 →業務課病院施設係へ）

稲葉美由紀（2014年3月31日転出 →山の畑事務室事務第一係へ）

渡邊 一紀（2014年4月1日転入 ←学生課より）

丹羽 隆（2014年4月1日転入 ←総務課人事係より）

宮田 晴子（2014年4月1日転入 ←芸術工学部事務室より）

榎本 涼子（2014年4月1日転入 ←総合情報センター

川澄分館より）

採用：加藤 典子（2014年4月1日採用）